

90-145

農科大學教授獸醫學博士勝島仙之介 講述
農科大學獸醫學乙科卒業生宇野家治 筆記



畜內科學

第三卷

明治三十二年五月

朝香屋書店發行

家畜內科學第三卷

目次

第七編 皮膚病

(天) 非寄生性皮膚病

紅斑(紅斑性皮膚炎) 一

蕁麻疹 三

濕疹 五

(甲) 犬ノ濕疹 七

(乙) 馬ノ濕疹性皮膚病 一五

(一) 馬ノ單純濕疹 一六

附 痒疹及瘙癢ノ濕疹ノ關係 一七

(二) 馬ノ慢性鱗屑濕疹 一九

附 乾癬及糠枇疹 二〇

(三) 馬ノ長毛部ノ慢性濕疹(鬃癬,尾癬,糾癬) 二一

(四) 肢關節屈面ノ濕疹(水疔膝腫飛輝) 二四

(丙) 牛ノ濕疹性皮膚病 二七

 牛ノ粕疹 二八

(丁) 羊ノ濕疹性皮膚病 三七

(戊) 豚ノ濕疹性皮膚病 三八

 蕁麻疹 三九

(甲) 馬、犬、牛ノ蕁麻疹 四二

(乙) 豚ノ蕁麻疹 四三

 壞疽性皮炎(白斑部壞疽又壞疽疔) 四五

 大水疱性皮炎(大水疱疹又天疱瘡) 四九

 附「唇邊ヘルペス」 五一

 脫毛症 五二

 結節狀毛髮斷裂症 五四

 血汗症 五五

 瘰癧及瘤腫 五七

 顆粒性皮炎(痒性皮炎附ひひし) 五九

 〔地〕植物寄生性皮膚病

 匍行疹 六六

 白癬 七三

 傳染性膿疱皮炎(加那陀馬痘) 七五

全身病

第八編 慢性體質病

 貧血及萎黃病 八三

 惡性貧血 八五

 附「スーラ」 八八

 水血病(稀血症) 八八

 (一) 羊ノ水血病(水性惡液) 九〇

(三) 牛ノ水血病(蜂窠織水腫)	九二
白血病	九四
假性白血病(惡性淋巴肉腫)	九八
血友病	一〇〇
失苟兒陪屈	一〇一
痛風(尿酸性關節炎)	一〇四
糖尿病	一〇六
無味尿崩(單尿崩)	一一三
肥胖(脂肪過多)	一一六
瘰癧	一一八
肉腫病及瘤腫病	一一九
第九編 傳染病	
牛疫	一二三
炭疽(脾脫疽)	一四八

各家畜ノ炭疽

第一 牛ノ炭疽	一七九
第二 馬ノ炭疽	一八一
第三 羊、山羊ノ炭疽	一八四
第四 豚ノ炭疽	一八五
第五 犬、猫ノ炭疽	一八六
第六 家禽ノ炭疽	一八七
附人ノ炭疽	一八八
氣腫疽(鳴疽一名症候的炭疽)	一八九
鼻疽及皮疽	一九九
假性皮疽(馬ノ分芽微病方言馬瘡馬かさ)なちれ、やくめ、馬ノ泡瘡	二二九
附牛ノ皮疽	二五〇
肺癆牛ノ傳染性胸膜肺炎	二五二

流行性鷓口瘡(口蹄疫).....	二六四
豚疫.....	二七六
(一) 豚羅斯疫.....	二七九
(二) 豚肺腸疫(豚虎列拉).....	二八六
痘瘡.....	二九八
各家畜ノ痘瘡	
(一) 羊痘.....	三〇二
(二) 牛痘.....	三〇七
(三) 馬痘.....	三〇九
(四) 豚痘.....	三一〇
(五) 山羊痘.....	三一〇
(六) 犬痘.....	三一〇
狂犬病(瘦).....	三一〇
各家畜ノ狂犬病.....	三一〇

(一) 犬ノ狂犬病.....	三二四
(二) 躁狂.....	三二四
(三) 鬱狂.....	三二六
(一) 牛ノ狂犬病.....	三二七
(二) 馬ノ狂犬病.....	三二八
(三) 猫ノ狂犬病.....	三三〇
(四) 豚ノ狂犬病.....	三三〇
(五) 羊ノ狂犬病.....	三三一
(六) 山羊ノ狂犬病.....	三三一
(七) 家禽ノ狂犬病.....	三三一
附人ノ恐水病.....	三三二
敗血病及膿毒病.....	三三三
惡性水腫.....	三三八
血斑病.....	三四〇
腺疫(隅兒膜毒名馬ノ腺病).....	三四八

犬瘟熱	三五六
附 猫ノ瘟熱	三七一
牛ノ悪性加答兒熱(頭病)	三七二
附 羊ノ悪性加答兒熱	三七九
赤痢	三七九
(一) 幼獸赤痢(白痢)	三八〇
(二) 成獸赤痢	三八四
附 牛ノこくしじむ性赤痢	三八七
家禽虎列拉(鶏疫)	三八九
野獸疫	三九六
附 出血性敗血症	四〇二
馬ノ流行性感冒	四〇四
固有ノ流行性感冒	四〇五
胸疫(馬ノ傳染性肋膜肺炎)	四一四

附 寸かるま(傳染性氣管枝炎)	四二八
牛ノ流行性感冒	四二九
結核病	四四三
(甲) 結核病汎論	四四三
(乙) 各家畜ノ結核病	四五三
第一 牛ノ結核病	四五三
第二 豚ノ結核病	四八一
第三 馬ノ結核病	四八五
第四 犬ノ結核病	四八八
第五 猫ノ結核病	四九一
第六 羊ノ結核病	四九二
第七 山羊ノ結核病	四九二
第八 家禽ノ結核病	四九三
放線菌病	四九五

附馬ノぼとりをみこしせ	五〇四
人ノ放線菌病	五〇四
馬ノ傳染性膿疱口炎	五〇五
家畜ノ實扶的里	五一〇
第一 家禽ノ實扶的里	五一三
〔甲〕 分裂菌ニ因ル實扶的里	五一三
〔乙〕 家禽簇蟲症	五二二
第二 犢ノ實扶的里	五二六
豚ノ實扶的里	五二八
鷲口瘡	五二八
強直症(破傷風)	五三一
馬ノ媮疫	五四五
馬牛ノ媮疹	五五三
〔二〕 馬ノ媮疹	五五三

〔二〕 牛ノ媮疹	五五六
附家兎ノ傳染性生殖器病	五五八
傳染病附録	

〔一〕 テキサス熱(脾熱)	五五八
〔二〕 羊ノ流行性血色素尿	五五九
〔三〕 せらりあ(間歇熱)	五五九
〔四〕 ペすと(黒死病)	五六〇
〔五〕 猩紅熱	五六三
〔六〕 虎列拉	五六三
〔七〕 回歸熱	五六四
〔八〕 黄熱	五六四
〔九〕 麻疹	五六四
〔十〕 乳病	五六四
〔十一〕 亞弗利加馬疫	五六四

(十二) 亞弗利加ノ馬死病……………五六五

家畜內科學第三卷目次 大尾

家畜內科學第三卷

農科大學教授 獸醫學士 勝島仙之介 講述
農科大學獸醫學乙科卒業生 宇野家治 筆記

皮膚病

第七編

概論 家畜ノ皮膚病ハ原因ニ從ヒ大別シテ寄生性及非寄生性ノ二
類ト爲シ寄生性皮膚病ハ更ニ別テ動物寄生性及植物寄生性ト爲ス皮
膚病ノ中體內原因ニ由ルモノハ續發性皮膚病ト稱ス痘瘡流行性鷺口
瘡等ノ如キ傳染病ニ傍發スルモノ是ナリ外科ニ屬スヘキモノ亦尠ナ
シトセヌ例之丹毒、腐列、炭癩、瘰癧、皮膚新生物等ノ如シ

(天) 非寄生性皮膚病 Non-parasitic skin diseases.

紅斑又紅斑性皮膚炎 Erythema, Dermatitis erythematosa.

皮膚病

名義 紅斑ハ皮膚ノ乳嘴體及表層毛細管ノ充血ニシテ皮膚病中最モ輕易ノ症トス或ハ限畫シ(所謂蕁麻疹)或ハ散漫ス家畜ニ在テハ皮膚ノ無色素部ニ於テ認メ得ルノミ例之牛馬ノ額星、白肢及白色ノ馬、羊、豚ニ於ケルカ如シ

原因 紅斑ハ特發シ或ハ他ノ皮膚病ノ序期ニ現ハル特發スルモノハ皮膚ニ解剖的變化ヲ殘サスシテ速ニ消散スルヲ常トス紅斑ノ原因ハ左ノ如シ

(一) 器械的作用 皮膚ノ壓迫、摩擦、剪毛、豚ノ驅逐等ニシテ此種ノ紅斑ヲ外傷性紅斑 Erythema traumaticum ト曰フ

(二) 化學的刺戟 例之輕腐蝕刺戟苛烈ノ擦劑石炭酸、苛性、芥子ノ類、後體麻痺ニ於ケル尿ノ分解刺戟、昆蟲ノ刺螫、枯凋微ノ作用ノ如シ此種ヲ中毒性紅斑 Erythema toxicum ト稱ス

(三) 溫度ノ感作 烈寒、酷熱ハ孰レモ紅斑ヲ發セシム火傷、凍傷ノ初期即チ是ナリ皮膚無色素ノ部ヲ日光ニ暴露スレハ亦之ヲ發ス即チ

太陽紅斑 Erythema solare 是ナリ

徵候 唯一ノ表徵ハ大小不同ノ赤色斑點ナリ之ヲ壓スレハ一時消褪ス時トシテ癢覺アリ久キヲ經レハ上皮ノ落屑ヲ來ス

療法 本症ハ概ネ治療ヲ要セス若シ其必要アリト認ムレハ先ツ原因ヲ除キ鉛水、亞鉛華ト澱粉ノ合劑等分鉛糖又ハ酸化亞鉛ノ軟膏ヲ施シ癢痒劇シキトキハ硝酸銀溶液(六%)ヲ塗布ス

蕁麻疹 Urticaria

Fagopyrisinus

名義 蕁麻疹ハ紅斑ノ一種ナリ純然タル紅斑ニ外ナラサルモノアルモ又往々紅斑性皮膚炎ヲ合併シ眞皮ノ炎性浸潤若クハ炎性浮腫ヲ來シ劇症ハ水泡性、腐列、虞蒙性、丹毒性若クハ壞疽性皮膚炎ヲ發ス

原因 第一ノ原因ハ蕁麥ノ實、莖及其後生ヲ食スルニ在リ開花ノ蕁麥ハ特ニ病原トナリ易シ第二ノ原因ハ日光ノ作用ナリ蓋シ蕁麥ニ一種ノ微菌ヲ生スレハ該微菌若クハ其刺戟性分解產物ハ之ヲ食スル

動物ノ皮膚無色素部ヲ刺戟スト曰ヒ或ハ昆蟲ノ刺螫ニ原由スト曰フ
特異素因ノ關係ハ未タ詳ナラス

發生 此皮膚ハ白色幼弱ノ羊豚ニ多ク山羊、牛、馬ニハ罕ニシテ皮膚
ノ無色素部ニ發ス黑色ノ動物若クハ暗色ノ部位ニハ發生セス厩養セ
ラル、モノ、樹蔭ニ在ルモノ亦之ニ罹ラス連日野外ニ在テ多量ノ蕎麥
ヲ喰ヒ日光ニ暴露セラル、動物ハ特ニ發疹シ易ク厩舎ニ牽キ入ルレ
ハ消散シ復タ日光ニ晒セハ再發ス冬期ハ癢痒、灼覺ヲ感スルノミ

徵候 耳、眼、臉、額、面、頸、頸等ノ皮膚引赤、腫起シ劇痒ヲ發ス之カ爲メ
病畜ハ興奮シ頻ニ頭ヲ掉リ身體ヲ摩擦シ不安ニシテ奔走シ酷シキハ
腦症ヲ發ス時アリ紅腫ノ皮膚面ニ亞麻仁大乃至蠶豆大ノ水疱ヲ發シ
破潰シテ淡黃色ノ液ヲ漏ラン結痂シテ癒ユ
重症ニ於テハ呼吸器粘膜炎ノ丹毒性炎ヲ發シ熱性ノ全身症候ヲ呈ス又
丹毒性腦膜炎ヲ起シ迷離、知覺鈍麻、旋回、痙攣、大興奮等ノ徵ヲ以テ死ニ
至ルモノアリ馬ト豚トハ皮膚ヲ發セスシテ癩癩様ノ發作、眩暈ヲ來ス

コトアリ

療法 白色ノ羊ハ曇天又ハ晡時ニ於テ放牧シ舍内ニ入レテ蕎麥ヲ
與フヘシ既ニ發病スレハ蔭地ニ移シ或ハ欄舎ニ牽キ入ルヘシ
局處療法ハ腦症及全身症候ヲ併發スル場合ニ於テ要アリ乃チ頭部ヲ
冷番シ吐酒石、硝石、芒硝ノ類ヲ内用スヘシ

濕疹 Eczem, Das Ekzem. (獨)

名義 濕疹ハ皮膚ノ單純炎症ナリ其症狀ハ發生ノ程度ト病期ニ因
テ差異アリ病性ハ粘膜炎ニ等シキヲ以テ往時ハ皮膚加答兒ノ別
名ヲ下シタリ炎症ノ程度及患部ノ性質如何ニ由リ種々ノ病狀ヲ呈ス
是レ恰モ粘膜炎ノ加答兒ニ漿液性、粘液性、膿性ノ別アルカ如シ濕疹ノ現
象ハ斯ク繁多複雑ナルヲ以テ古人ハ數多ノ別症ト看做シ種々ノ名稱
ヲ下シタリ

病期 各種ノ炎症ニ數多ノ病期アルカ如ク濕疹モ亦左ノ六期ヲ備

フ
 (二) 紅斑期 皮膚ハ充血シ皮膚ノ表層ニ滲出アリテ表皮ハ肥厚シ
 晚期ニ至レハ鱗片若クハ糠秕ノ狀ヲ帶ヒテ落屑ス故ニ此期ノ慢性ト
 ナリタルモノヲ鱗屑濕疹 *Eczema squamosum* ト名ク乾癬、糠秕疹、饑癬
 及癩癬ノ一部之ニ屬ス

(三) 小結節期 此期ノ確徵ハ皮膚乳嘴體ニ小細胞及漿液ヲ浸潤
 シ許多ノ小疹ヲ發スルニアリ苔癬及牛馬ノ暑疹、夏癬其例タリ

(三) 水疱期 水疱ハ病初ヨリ發シ或ハ前述ノ期ニ續テ發ス後者ニ
 在テハマルビギ氏粘液網ノ嫩細胞ハ壓排セラレ滲出液ハ皮表ノ下
 ニ突出ス此期ハ濕疹ノ定型ヲ表スルモノニシテ往時ハ之ニ單純濕疹
 ノ名ヲ下シタリ馬ノ暑疹ノ一部之ニ屬ス

(四) 滋潤期 水疱自ラ破潰シ又ハ抓破セラレハ滋潤面ヲ顯ハス
 是レ所謂赤色濕疹又侵蝕濕疹 *Eczema rubrum*, *eczema ex edens* ニシテ犬
 ニ最モ多シ

(五) 膿疱期 最初ヨリ膿疱ヲ發シ或ハ水疱變シテ膿疱トナル膿疱
 破潰スレハ皮膚ノ大部ハ化膿面ニ變ス所謂膿疹性濕疹 *Eczema impe-*
tiogenosum 是ナリ疥癬樣濕疹之ニ屬ス

(六) 結痂期 水疱、膿疱ノ含液又ハ滋潤面ノ滲出物乾燥シテ痂皮ヲ
 生ス

濕疹ハ此期ヲ以テ經過ヲ了ス斯ク數多ノ病期アルヲ以テ臨牀的症狀
 ニ種々ノ差異ヲ呈スルハ固ヨリ視易キノ理ナリ然レトモ濕疹ハ必ス
 シモ各期ヲ經過スルヲ要セス時トシテハ第一期ヨリ直チニ第六期ニ
 轉シ或ハ一二ノ期ニ於テ久シク停止スルモノアリ色素ヲ有シ長毛ヲ
 帶ヒタル皮膚ニ於テハ勿々續生スル所ノ小結節期、水疱期等ヲ看過ス
 ルコト多シ

(甲) 犬ノ濕疹 *Eczem of Dog.*

發生 濕疹ハ犬ノ頻發病ニシテ専ラ背部ニ發シ又四肢ノ外面ニ現

ハル胸腹ノ下面、膝、肘、飛節等ニハ稀ニシテ頭部ヲ侵スハ極テ稀ナリ
常ニ室内ニ在ルノ老犬、皮膚薄弱ナル幼犬并ニ肥胖ノ犬ハ之ニ罹リ易
シ

原因 皮膚直達ノ刺戟ヲ主要ノ原因トナス例之塵埃、汚垢、蚤、虱、毛虱、
反復ノ皮膚摩擦、瀧久ノ壓迫ノ如シ

濕疹ハ好テ背部ヲ侵ス是レ背部ニハ塵埃、汚垢堆積シ且ツ蚤、虱ノ群生
シ易キニ由ル又刺戟擦劑、軟石礮洗滌ハ屢、濕疹ヲ誘發ス原因上細菌ノ
關係アルヤ否ヤ未タ審ナラスツルン *Nim* 氏ハ濕疹ノ微菌性タルヲ說
キ *Meyer* 氏ハ水泡ノ合液中ニ一種ノ球菌ヲ發見シタリ然レ
トモ此球菌ハ眞因ナルヤ將タ偶然ノ存在ナルヤ遽ニ判斷シ難シ
又原因ノ檢證ス可ラサルモノ多キヲ以テ内因ヲ主張シ營養變調、消化
不良、多血軟弱ノ體質ニ罪ヲ歸スルモ是等ハ素因ニ過キサレハク誘因
トシテハ必ス局處刺戟ヲ要ス

徵候

犬ノ急性濕疹ノ症狀ハ錯雜ニシテ一定セス病期ニ因テ差ア

リ

(一) 初期

初期ニ遭遇スルハ稀ナリ當初患部ノ皮膚無色素ナレハ
帽鉞頭大ノ紅斑ヲ見ル尋テ各斑ハ暗赤色ニ變シ中心ニ小結節ヲ生シ
其周圍ノ充血帶ハ増大シ次第ニ湊合ス隨テ患部ハ腫起、富脈、熱、癢、痒
ヲ帶フ小結節上ノ毛ハ逆立紛糾シ患部ニ觸ルレハ疼痛ヲ感ス

小結節速ニ消散スレハ紅斑若クハ丹毒性皮炎ヲ貽ス濕疹ハ此期ニ於
テ癒合シ或ハ暫時持長ス病狀ハ搔癢、咬舐ニ由テ大ニ變シ往々直チニ
小結節期ニ繼テ膿疱期、結痂期ヲ起スコトアリ

(二) 水泡

正シキ經過ヲ取ルトキハ小結節ニ水泡ヲ生ス水泡ハ散
點若クハ簇發シ清澄ノ液ヲ含ム其大サ麻實大ヲ超エス速ニ搔破セラ
ル、ヲ以テ長毛ヲ帶ヒタル皮膚ニ在テハ認メ難ク看過セララル、コト
多シ

水泡ハ半ハ乾涸シ小痂ヲ被ムリ半ハ搔破セラレ小炎竈ヲ生ス此期ニ
於テ癒ユルトキハ破潰セル水泡ノ滲出液ハ乾燥シテ小痂ヲ生シ痂皮

ノ下、炎機減退シ上皮ヲ再生ス暗色ノ皮膚ニ於テ淡色無毛ノ部ハ水泡ノ痕跡ヲ表ス

(三) 濕潤期 濕疹蔓延シ無數ノ水泡破潰湊合シ所謂赤色濕疹ト

ナルモノ多シ蓋シ患部ハ潮紅濕潤シ表皮及毛ヲ脫失シ一種ノ液漿液漿液纖維素纖維素兼膿又ハヲ滲出シ知覺過敏ニシテ周圍ニ蔓延ス所謂侵蝕濕疹是ナ

リ大ニ搔摩スレハ劇烈ナル化膿性若クハ出血性皮膚炎ヲ發ス而シテ赤色濕疹ハ滲出液ノ乾燥結痂スルト痂皮下ニ上皮ヲ再生スルトニ由テ癒合ス

(四) 膿疱 水泡ハ膿疱ニ變スルヲ稀ナリトセス蓋シ水泡ハ増大シ其含液潤濁シテ膿狀トナル而シテ膿疱ハ水泡ノ如ク或ハ散點シ或ハ簇發ス數多集合破潰スレハ大小不同ノ化膿面ヲ現ハス其部ノ毛ハ逆立シ滲出液ニ由テ粘著セラレ容易ニ脱落ス上皮ヲ缺損セル皮膚面ハ黃色乃至綠黃色ノ粘稠膿ヲ帶ヒ過敏ニシテ之ニ觸ルレハ容易ニ出血シ皮膚ノ肥厚ヲ來ス所謂膿疹性濕疹是ナリ此期ノ癒ユルヤ膿樣滲出液

ハ乾燥シテ痂皮ヲ生シ痂皮下ニ於ケル化膿機ハ暫時持續ス搔摩極テ劇ナルトキハ炎症ハ深部ニ波及シ膚列虞蒙性皮炎ヲ發シ或ハ皮膚ノ肥厚及大落屑ヲ生ス此ノ如キ限畫化膿性皮膚炎ハ器械的、化學的若クハ溫熱的ノ大刺激ニ由リ水泡、膿疱ヲ生セスシテ直ニ發シ來ルヲアリ濕疹ハ孰レノ期ヲ問ハス慢性トナルモノニシテ小結節期、水泡期ニ於テ反復發歇スルコトアルモ膿疱期ハ最モ慢性ニ陥リ易シ病畜ノ搔摩スルト否トハ此點ニ至大ノ關係アリ劇性濕疹ハ治癒ノ後皮膚ニ病變ヲ貽スヲ以テ再三急性皮膚疹ニ罹リ易シ夏季皮膚血行ノ旺盛ナルトキハ特ニ然リ而シテ慢性濕疹ニ於ケル皮膚ノ變化ハ皮膚ノ耐久充血、溫熱及肥厚ニシテ背部ノ如キハ平素ノ三四倍ニ肥厚スルコトアリ蓋シ患部ハ光澤ヲ帶ヒ上皮旺ニ落屑シ白色若クハ灰白色ノ鱗片狀ヲ呈ス所謂鱗屑濕疹是ナリ皮膚ハ漸次乾硬トナリ皺襞ヲ作レハ容易ニ消散セス毛ハ粗剛ニシテ紛糾ス又皮膚ノ乳嘴體肥大スルヲ以テ患部ハ顆粒狀ヲ呈ス

全身症候ナク唯、僅ニ不安、興奮、煩渴ノ微アルノミ濕疹久シキニ瀕ルカ
又ハ反復再發スレハ興奮、失液、放温及反射刺戟ノ爲メ羸瘦シ幼弱ノ犬
ハ惡液ニ陥リ斃ル、コトアリ

經過 一週日乃至三週日、慢性ハ數月ニ亙リ或ハ年餘ヲ閱ミシ間、弛
張ス往々治スヘカラサルモノアリ

類症鑑別 濕疹ハ外傷、腐蝕、火傷、凍傷ニ因ル所ノ化膿性皮炎、匍行
疹、毛囊蟲及疥癬ト混同シ易シ

(一) **外傷性皮炎** 限局セル反應的炎症ニシテ鱗屑狀ノ落屑ヲ生
シ皮膚ノ一部壞死シ化膿性皮膚炎ヲ續發シ濕疹ノ特徴タル小結節、水
疱及膿疱ヲ缺ク然レトモ濕疹スラ毎常必スシモ是等ノ徵ヲ呈セサル
ハ頗ル鑑別ニ苦ムコトアリ

(二) **匍行疹** 圓形ノ禿斑ニシテ小結節、水疱及膿疱ヲ缺キ痒覺ナク
傳染性ヲ有シ顯微鏡下ニ檢スレハ特異ノ細菌ヲ發見ス

(三) **毛囊蟲** 毛囊蟲疹ハ專ラ頭面部（鼻、口、眼、喉）及四肢ニ發シ甚タ傳染シ

易ク症狀一定シ癢痒アリ極テ治シ難シ

(四) **疥癬** 疥癬ハ疎毛ヲ帶ヒタル薄弱ノ皮膚ニ發ス例之胸腹ノ下
面肢、肘、耳根等ノ如シ傳染力劇甚ニシテ奇痒ヲ發ス然レトモ、クリニツ
ク上ノ症狀ハ頗ル濕疹ニ類スルヲ以テ顯微鏡ヲ藉ルニアラサレハ確
診スルヲ得ス

療法 治療ノ方法ハ病ノ時期ト動物ノ性質ニ依テ差アルモ先ツ原
因ヲ探リテ之ヲ除去セサル可ラス癢痒ノ原因タル刺戟ヲ除キ去レハ
發疹多クハ自ラ癒ニ此事容易ナルカ如キモ獸畜ニ在テハ太々實行シ
難シ犬ニ於テハ往々癢痒過劇ニシテ如何ナル手段ヲ施スモ搔摩ヲ防
ク能ハサルコトアリ

(一) **輕症及初期** 紅斑期、小結節期及水疱期ニハ消炎劑及緩和包
攝劑ヲ施スヘシ例之亞鉛華又ハ鉛糖ノ軟膏、ヘブラ氏軟膏、單方蜜陀硬
膏、巴拉賓軟膏各二五〇ノ如シ散布劑亦功ヲ奏スルコトアリ即チ亞鉛
華五〇、澱粉二〇〇又ハ次硝酸蒼鉛一分、澱粉三分又ハ單寧一分、撒里矢

爾酸二分、木炭末三分ノ合劑ノ如キ是ナリ頑固ノ症ニハ白降汞軟膏(二)：一〇ヲ妙ナリトス但シ本劑ハ奇效アルモ之ヲ舐ムレハ中毒ノ虞アルヲ以テ大ニ注意ヲ要ス

(二) 劇症 劇性濕疹ニ於テハ先ツ刷毛ヲ以テ皮膚ノ滋潤面若クハ化膿面ヲ洗滌シ硝酸銀溶液六%ヲ塗布シ又ハ硝酸銀軟膏(一)：一〇―二〇(單寧軟膏)五：五〇ヲ塗抹シ大ニ濕潤セルモノニハ沃度仿膜一分解皮末十分若クハクレヨリンニ乃至四分爾酸百分ノ合劑又ハ白降汞軟膏ヲ施スヘシ

(三) 慢性濕疹 鬚兒ヲ主藥トス鬚兒ハ單用シ或ハ之ニ酒精軟石礮ヲ加ヘテ擦劑トナス例之鬚兒酒精各二五、〇又ハ鬚兒一分、軟石礮二分、酒精三分ノ如シ其用法ハ先ツ毛ヲ剪去シ擦劑ヲ塗リ綳帶ヲ施シ以テ搔癢、舐嚙ヲ防クヘシ一回鬚兒ヲ塗レハ大約四五日間ハ放置シ尋テ痂皮ト共ニ之ヲ洗滌スヘシ或ハ鬚兒ノ代用ニクレヨリンヲ供スクレヨリン、軟石礮各一〇〇、〇酒精五〇又ハクレヨリン二分、酒精十乃至二

十分若クハクレヨリン軟膏(一)：一〇―二〇ノ如キ是ナリ

鱗屑濕疹ニハ鬚兒又ハクレヨリント酒精(一)：一〇―二〇(偃里設林水)等分若クハ軟石礮ヲ施ス但シ軟石礮ハ不純物ヲ含ミ大ニ皮膚ヲ刺戟スルコトアルヲ以テ注意ヲ要ス又クリサロビン、Chrysarobin 一分乃至五分、巴拉賓軟膏二十分、オキシナフタリン軟膏(一)：一〇又ハ、イヒチオールヲ單用ス凡ソ病犬ハ減食シ便秘アレハ瀉腸シ緩下劑(蓖麻子油)ヲ投シ頑症ニ於テハ法列兒水五滴乃至十滴ヲ數週間連用シ或ハ沃度加里ヲ服用セシム

(乙) 馬ノ濕疹性皮膚病

Horse.

Eczematous skin affection of

馬ノ皮膚病ニシテ寄生性ニアラサルモノハ概テ濕疹ニ屬ス此ノ如ク定義ヲ下セハ從來複雜ナル馬ノ皮膚病モ頗ル簡單ニ説明スルニ足ル左ニ掲クル諸症ハ總テ濕疹中ニ算入スルヲ得ヘシ

(二) 馬ノ單純濕疹 Papulo-vesicular eczema of Horse.

單純濕疹ニ屬スルモノハ苔癬 Schwindflecken, letter 暑疹 又夏癬 Hitze-knöchen, Sommerausschlag, Soder ommerträude 及鞍癬 Sattelräude トス

原因 本症ハ身體ノ一部ニ局發シ罕ニ全身ニ汎發ス例之腺疫ノ經過中蕁麻疹ニ傍發スルモノ及暑疹ノ如シ發疹ノ部位ハ發汗シテ器械的刺戟ヲ受ケ易キ處トス例之頭頸側肩胸壁臂ノ如シ誘因ハ外部ノ刺戟ニシテ内因ハ未タ證明ヲ得サルモ幼弱ノ年齡薄弱ノ皮膚毛毳ノ更脫等ハ素因トナルモノ、如シ

徵候 前記ノ諸部ニ小疹(小結節)ヲ簇發ス初期ハ手以テ皮膚ヲ撫摩シ始メテ發疹アルヲ知ル發疹ハ粟粒大乃至蠶豆大ニシテ當初柔軟ナルモ次第ニ硬固トナリ疹圍ノ皮膚ハ焮熱ヲ帶ヒ微シク腫起ス之ヲ撮起シ壓迫ヲ加フレハ知覺過敏ナリ疹上ノ毛ハ豎起ス發疹期及癒合期ニ於テハ中等度ノ癢痒アリ發疹ノ極ニ達スレハ痒覺ヲ缺ク晚期ニ至

レハ疹頭小痂ヲ生シ疹ハ萎小硬固ト爲リ痂皮ハ毛ニ粘著シ之ト共ニ脱落シ小禿斑ヲ遺ス但シ無色素ノ皮膚ニ於テハ此禿斑ハ淡紅色ヲ帶ヒ色素含有ノ皮膚ニ在テハ灰白色ノ上皮鱗片ヲ被ムル表皮下ノ滲出多キトキハ上皮ノ落屑亦旺盛ナリ炎症深ク波及スレハ暗色ノ皮膚ニ淡色斑ヲ生シ細毛ヲ帶フ

療法 此種ノ濕疹多クハ良性ニシテ皮炎ノ各期ヲ經過スレハ自然ニ癒エ漸次禿部ニ毛ヲ生スルヲ以テ治療ヲ要セス若シ治療ノ要アリト認ムレハ佩里設林家猪脂又ハ綠石鹼ヲ塗リ麥兒酒精等分又ハクレヲリン二分酒精五乃至十分若クハ「イヒチオール」ヲ施スヘシ

附痒疹及瘙癢ト濕疹ノ關係

(二) 痒疹 Prurigo.

人ノ痒疹ハ慢性ノ小結節ニシテ下肢ノ伸側ニ發シ劇烈ナル癢痒ヲ伴フ概ネ幼年ニ始マリ遺傳スルモノ、如ク數年ノ長キ頑トシ

テ治セス皮膚ノ肥厚色素ノ成形ヲ來ス元來難治ノ症ニシテ患者ハ頑固ノ劇痒連日ノ興奮虚脱ニ由テ斃ル、モノ多シ這般ノ皮膚ハ家畜ニ存スト稱シ Juckausschlagノ名アリ然レトモ扶氏等ハ左ノ理由ニ基キ家畜ニハ人ノ痒疹ト全く同一ナル皮膚病ナキヲ主張セリ

(5)家畜ノ所謂痒疹ノ記事ハ數多ノ要點ニ於テ人ノ痒疹ニ一致セス

(6)馬、牛、犬、羊等ノ所謂痒疹ノ徵候及經過ハ人ノ痒疹ニ符合セス且家畜ノ痒疹トシテ記載セラレタル皮膚病ノ症狀ハ特異ナラス

(7)家畜ノ痒疹ノ原因トシテ學者ノ唱道セル營養變調消化不良濃厚ノ食餌食物ノ急變血中ノ苛烈毒毛絨ノ更脱分裂菌等ハ皆大ナル價值ヲ有セス

(8)扶氏等未タ眞ノ痒疹ヲ目撃シタルコトナシ他家ノ痒疹ト稱スルモノハ丘疹性濕疹ニ外ナラサルヘク其慢性不治ノ症ハ多クハ疥

癬ニ屬スルモノナラン

(二) 瘙癢 Puritus.

皮膚ニ解剖的變化ナキ癢覺ニシテ肢ノ伸側掌蹠并ニ陰門肛門ノ周圍ニ發ス神經ノ感作ニ基因スルモノ、如シ眞ノ瘙癢ヲ家畜ニ見タリト云フモノアルモ未タ疑ヒヲ免レス

(二) 馬ノ慢性鱗屑濕疹 Chronic Squamous eczema of horse.

horse.

之ニ屬スルモノハ糠秕疹 Pityriasis, Kleinflechte 乾癬 Psoriasis, Schuppenflechte 及饑癬 Hungerräude ナリ

原因 諸種ノ濕疹ハ最後ニ至リテ鱗屑期ニ轉シ全ク別症ノ觀ヲ呈スルヲ以テ人ノ糠秕疹及乾癬ニ比較シ之ト同性ナリト稱スル者アルモ正鵠ノ說ニアラス

本症ノ原因ハ濕疹一般ノ原因ニ同シ就中皮膚ノ不潔管理失當營養不

良所明微菌ハ主トシテ重要ノ原因トス微菌ノ關係アルヤ否ヤ未タ審ナラス

徵候 皮膚ニ粉狀若クハ糠粃狀ノ鱗屑ヲ附著シ鱗屑下ノ皮膚ハ肥厚、變色、硬變等ノ慢性變化ヲ呈シ癢痒ハ至テ微ナリ落屑ハ頭部殊ニ眼弓上、耳翼ノ内面、頸、鬚根、肩、肘、臂、尾根、膝及繋ノ屈面ニ多シ其膝及繋ニ發スルモノハ特ニ膝、肘、繋、尾根ト稱ス

經過 緩慢ニシテ年月ノ久シキニ互リ間、自然ニ治ス

療法 皮膚ノ拭淨ニ注意シ軟石礮又ハ佩里設林ヲ以テ痂皮鱗片ヲ軟化セシメ麥兒、クレヨリンノ軟膏若クハ擦劑又ハ撒里矢爾酸酒精溶液(十%)ヲ施ス但シ麥兒及クレヨリンハ慢性炎ヲシテ急性ニ轉セシメ以テ癒合ヲ促ス、クリサロビン軟膏亦同様ノ效アリ

附乾癬及糠粃疹

乾癬 Psoriasis

ハ皮膚乳嘴體ノ浸潤ニシテ上皮細胞ハ過度ノ角

變ヲナシ重疊堆積ス其初期赤色ノ小結節ヲ生スレハ點狀乾癬

Psoriasis punctata ト稱シ灰白色ノ鱗屑面一弗大ニ達スレハ貨幣狀乾

癬 P. Nummularis ト稱ス灰白斑ノ中心ノミ癒合スレハ之ヲ輪狀乾

癬 P. annularis s. gyrata ト曰フ

乾癬ノ好發地ハ肘、膝ノ伸側、頭ノ有髮部、前頭及耳トス我家畜ニ於テハ未タ人ノ乾癬ト同一ノ皮膚病ヲ認メス

糠粃疹 Pityriasis 人ノ稀有ナル皮膚病ニシテ皮膚赤色ヲ帶ヒ糠

粃ノ如キ細微ノ落屑ヲ生ス時ニ全身ノ表面ニ發シ皮膚ノ萎縮、患者ノ麻瘦ヲ來ス家畜ニハ之ト同一ノ皮膚病ナシ故ニ家畜ノ所謂糠粃疹ハ人ノ同名皮膚病トハ性質ヲ異ニス

(三) 馬ノ長毛部ノ慢性濕疹 Chronic eczema of the

long haired part of horse.

鬣癬、尾癬、糾癬 Mähnenrind, Schweifgrind, Weichschlopf. (獨)

發生

馬ノ鬣尾、鬃ノ如キ長毛ヲ帶ビタル部ニ諸期ノ濕疹^{殊ニ濕潤期}ヲ發スルコトアリ所謂鬣癬、尾癬、糾癬是ナリ毛亦炎症及營養障礙ノ係累ヲ受ケ紛糾粘著シ終ニハ萎縮脱落シ尾ノ如キハ全ク裸出シ鼠尾 Rat tail トナル

原因

純然タル局處原因ナリ長毛部ノ皮膚不潔ニシテ塵埃、污垢堆積シ或モ其他ノ昆蟲ヲ寄生スルニ由ル故ニ貧民、細農ノ馬ニ多シ波蘭、露西亞、土耳其ニ於テハ一種ノ迷信ニ由リ故意ニ皮膚ノ管理ヲ怠ルモノアルヲ以テ此種ノ濕疹頗ル多シト曰フ所謂波蘭鬣 (Plica polnica, Polnische Zopf) 是ナリ

皮膚ノ管理周到ニ過キ頻々石礮水ヲ以テ鬣尾ヲ洗滌スレハ其刺戟ニ由リ濕疹ヲ起スコトアリ又連日ノ霖雨ニ鬣尾ノ密毛ヲ濕ホシ或ハ反復洗滌セシムレハ上皮ハ軟化シ皮膚ノ分泌物^{汗及皮脂}ハ濕氣ト濕氣ノ爲メニ分解シ刺戟ノ原因トナル羊ノ雨疹ノ如キハ實ニ是ニ因ル又既往

皮膚炎ノ結果即チ鱗屑濕疹ハ此疹ノ再發ヲ促ス

徵候

初徵ハ長毛叢生ノ爲メ多クハ發見スル能ハス炎症產物蓄積分解シ毛狀一變シ頻リニ搔癢、舐嚼スレハ始メテ人ノ注意ヲ惹ク仔細ニ檢スレハ毛根ノ皮膚ハ漿液、膿汁、血液若クハ痂皮ヲ被ムリ往々水疱、膿疱ヲ生ヌ長毛ハ炎症產物、汗及皮脂ノ爲メニ粘著紛糾シ一團ノ大塊ニ化ス晚期ニ至レハ炎症ハ毛囊ニ波及スルヲ以テ毛質一變シ纖細トナリ卷縮、錯綜シ易シ病馬ノ搔癢、舐嚼シ易キ處ニ於テハ毛ハ萎縮、脱落ス尾ノ如キ特ニ此害ニ罹リ易ク終ニハ毛ノ乳嘴體陷没シ鼠尾ノ狀ヲ呈シ皮膚ハ肥厚、脆剛トナリ慢性鱗屑濕疹ノ狀ニ陷ル

經過

極テ長クシテ治シ難ク或ハ全ク不治ニ屬スルモノアリ

療法

皮膚濕潤面ノ乾燥、清潔ヲ旨トスヘシ蓋シ此目的ヲ達セント欲セハ先ツ紛錯ノ毛ハ其根ヨリ剪去シ鬚兒若クハクレヲリンノ擦劑ヲ塗布シ或ハ收斂、乾燥ノ散布劑ヲ施ス例之沃度仿謨、解皮末若クハ單寧、撒里矢爾酸、木炭末ノ合劑ノ如シ硝酸銀ノ溶液(六%)亦妙ナリ

(四) 肢關節屈面ノ濕疹 Eczematous skin affection of

The flexor side of leg.

水疱、膝輝、飛輝

發生 球節ノ屈面ニ發スル濕疹ヲ水疱 Grease ト稱シ病性ニ依リ之ヲ區別シテ**紅斑疹** Erythematous grease **濕疹** Eczematous grease **壞疽** Gangrenous grease 及**疣** (一名慢性疣狀皮膚炎) Dermatitis chronica verrucosa トナス

腕節ノ屈面ニ發スル濕疹ハ**膝輝** Sallender, psoriasis carpi ト名ツケ飛輝ノ屈面ニスルモノハ**飛輝** Malender. Psoriasis tarsi ト稱ス此二症ハ慢性鱗屑濕疹ノ經過ヲ呈シ水疱ヨリモ稀ナリ是レ其部位稍上方ニアリテ泥土塵埃ニ汚染セラルコト妙ナキニ因ル

原因 四肢下方關節ノ屈面ハ運動スル毎ニ移動シ皮膚ノ皺襞ヲ生スルヲ以テ濕疹ニ罹リ易キ素因ヲ有ス誘因ハ塵埃泥土寒氣等ノ刺戟

ニシテ雨後融雪後ノ泥濘ハ特ニ之ヲ誘發ス夏ヨリモ冬ニモキハ此理ニ由ル後肢ハ糞尿ニ汚穢セラルコト多キカ爲メ前肢ヨリモ屈之ニ罹ル重大ノ馬ニ於テハ距毛叢生シテ冷濕塵埃等ニ對シ自然ニ鬚襞ヲ保護ス故ニ之ヲ剪除スレハ濕疹ノ發生ヲ促ス

外傷性水疱 Traumatic grease ハ野外演習後ノ軍馬ニ頻發スルモノニシテ傳染性皮炎ノ性ヲ帶フ蓋シ皮膚ニ數多ノ小刺創アリテ病毒之ヨリ竄入シ丹毒、腐列、炭瘡等ヲ發ス又水疱ノ經過中破潰セル水疱若クハ輝裂ヨリ病毒侵入シ敗血病ヲ來スコトアリ

徵候 急性水疱ハ定型的ノ症候ヲ呈ス當初患部ノ皮膚潮紅腫起シ熱痛ヲ帶フ所謂**紅斑期** Stadium erythematosum 是ナリ時トシテハ紅腫ノ患部ニ小水疱ヲ發ス(水疱期 Stadium vesiculosum) 水疱破潰スレハ先ツ淡黃無臭ノ水樣液ヲ漏ラス所謂**濕潤** Stadium Madidans 是ナリ皮膚ハ發炎シテ腫起肥厚シ馬ノ運動中ハ厚キ皺襞ヲ生シ其面輝裂シ乾痂ヲ被ムリ毛ハ粘著シ其一半ハ脱落シ患脚ノ運動ハ強拘トナル膝輝及飛輝

ハ此急性期ニ於テ治療スルコトアルモ多クハ慢性鱗屑濕疹ニ轉シ皮膚ハ肥厚シテ再發ノ素因ヲ貽ス水疔更ニ存續スレハ重大ノ變化ヲ生ス蓋シ患部ノ分泌液ハ皮膚ノ表面ニ於テ分解シ上皮ヲ軟化融解セシム從ツテ分泌物ハ粘膩柔軟トナリ汚灰色ヲ帶ヒ非常ノ惡臭腐敗セル乾酪ノ臭氣ヲ放チ刺戟ノ性アルヲ以テ皮膚ニ潰瘍ノ如キ缺損ヲ生シ或ハ皮膚大ニ肥厚シ深皴裂ヲ生ス是レ所謂疥癩狀疔 Schiellenmauke ニシテ其毛紛錯逆張スルモノハ蝟足 Igelhuss, strauchhuss ト稱ス年月ノ久シキヲ經レハ皮膚倍肥厚シテ象皮脚 Elephantiasis ニ陥リ皮膚ノ表面ニ於テハ慢性ノ鱗屑濕疹頑トシテ癒ニス往々贅癬ノ腫脹ハ管部ニ波及シ或ハ蹄又腐爛ヲ併發ス

療法

治療ノ法ハ病期ニ由テ異ナレリ初期ハ患部ヲ清潔乾燥ナラシメ亞鉛華若クハ次硝酸蒼鉛ト澱粉ノ散劑(一：三)又ハ檫皮末ヲ撒布シ或ハ亞鉛華軟膏若クハ鉛糖軟膏ヲ施ス稍重症ニシテ斷ニス分泌アルトキハ乾燥收斂及防腐ノ藥方ヲ處シ以テ分泌ヲ減却シ且其分解ヲ

防止セサルヘカラス乃チ患足ハ微温湯ト石礮トヲ以テ十分洗滌シクレゾリン若クハ石炭酸一%ノ脚浴ヲ施シ分泌盛ナルトキハ明礬溶液沃度仿謨單寧檫皮末單寧撒里矢爾酸及木炭末ヲ撒布シ綳帶ヲ施ス皮膚皴裂シテ少量ノ粘滑液ヲ分泌スレハ石炭酸五%ノ水溶液ヲ施シ皴裂アルモ殆ント分泌ナキモノニハ石炭酸偲里設林ヲ塗布ス肉芽發生シ粘滑ノ分泌過多ナルトキハ沃度丁幾ノ稀溶液ヲ試用シ其分泌物惡臭ヲ帶フルトキハ過滿俺酸加里溶液ヲ用フ近時フレール氏ハ頑固ノ水疔ニ於テクレゾリン脚浴、ピクリン酸五%ノ水溶液、タンノゾオルム散布一〇%硫酸沃度丁幾、格魯兒亞鉛八%溶液及格羅謨酸一〇%ノ水溶液塗布等ノ諸法ヲ數月間實驗比較シ格羅謨酸水溶液ノ效驗迥ニ他藥ニ勝ルヲ見タリ

(丙) 牛ノ濕疹性皮膚病

Eczenatous skin affection of cattle.

汎論

牛ニ於テハ全身ニ蔓延スル非寄生性濕疹ハ馬ヨリモ少ナシ
濕疹性皮膚病ノ中牛ニ於テ發見セラレタルモノハ單純濕疹、鱗屑濕疹、
糠○枇○疹、皸○癬、並ニ糾○癬、尾○癬ノ類トス牛ハ他ノ動物ヨリモ食餌ノ爲メニ
濕疹ヲ發シ易シ葡萄○莖○病 Traubenkrankheit ノ如キ其一例ナリ蓋シ
此病ハ葡萄ノ莖及枝葉ヲ食スルニ由テ生ス初期ハ四肢ニ單純濕疹、晚
期ニハ膿疹ヲ發ス又玉蜀黍稈ノ飼養後類似ノ皮膚疹ヲ來スコトアリ學
理並ニ實地上更ニ重要ナルハ所謂牛ノ粕疹ニシテ彼葡萄莖病ニ類似
ノ症ナリ此粕疹ヲ除クノ外牛ノ濕疹各種ノ症狀及療法ハ略ホ馬ニ均
シキヲ以テ別ニ論及セス唯リ粕疹ニ就テハ細論ニ互ルヘシ

牛ノ粕疹

Die Schlempekrankheit des Rindes (獨)
(Rindermauke, Fussmauke, Fussgrind)

病性

牛ノ粕疹ノ病性ニ關シテハ現今尙區々ノ學說アリ古人ハ原
因上關係ナキモ臨牀上殆ント區別シ難キ各種ノ濕疹ニ粕疹ノ名ヲ濫

用シタリ即チ古書ニハ麥酒及葡萄酒ノ釀滓飼養後ニ發スル釀滓○疹
Fäberausschlag 及牛足○疥癬 Dermatophagus nange ヲ此粕疹ト同症ト認メテ
論スルモノアリ又馬ノ水疔、繁輝ニ類スル牛ノ垢○疔 Schmutzmauke ヲ粕
疹ト誤認シタル者尠ナシトセス垢疔ト粕疹トハ臨牀上頗ル類似シ往
々鑑別シ難キモ其原因ハ全ク異ナレリ即チ垢疔ハ馬ニ於ケルカ如ク
皮膚ノ不潔、濕潤、冷却及管理粗漏ニ原ツキ粕疹ハ馬鈴薯粕馬鈴薯酒精ヲ製シ
ヲ醱シタル中毒ニ因ル

粕疹ハ汞毒疹ノ如キ中毒性發疹ニシテ馬鈴薯中ニ含有セル不明ノ毒
素ニ由ル而シテ發疹ノ性質ハ水疱疹ニ屬スルモノナリ

發生

眞ノ粕疹ハ大凡三十年來世ニ知ラレタリ馬鈴薯ノ栽培盛ニ
行ハレ火酒ノ製造勃興シ隨テ其釀滓ヲ牛ニ給與スルモノ多キヲ加ヘ
テヨリ本病亦頻發スルニ至レリスビノトラ Spinola 氏ハ千八百二十七
年創メテ本病ヲ發見シ同三十六年之ヲ詳論シタリ
本病ハ肥養牛ニ多ク乳牛ハ間之ヲ免ル牛ノ中、特ニ素因ヲ有スルモノ

アリ素因ナキモノハ同一ノ飼料ヲ食フモ毫モ中毒セス春季初夏ノ候
 發病最モ劇ナルハ馬鈴薯ノ發芽ト關係アルヲ示ス新ニ購入セル牛ハ
 動モスレハ重症ニ罹ル概ネ後肢下端ノ蹄冠ヨリ飛節マテノ部ヲ侵ス
 時アリ前肢ニ局限シ或ハ四肢ニ發疹シ稀ニハ軀幹頸等ニ蔓延ス厩舎
 ノ狀況ハ發病上何等ノ影響タモ及ホサ、ルモノ、如ク清潔乾燥ノ舍
 内ニ最良ノ藁ヲ敷ケル模範的牛舎ニスラ發生スト曰フ

原因及病理

馬鈴薯粕ノ飼養ニ因ルモノ最モ多ク穀類及玉蜀黍
 ノ火酒粕並ニ麥酒ノ醸滓ハ本病ニ對シテハ無害ナリ病勢ハ馬鈴薯粕
 ノ量愈々多ケレハ愈々重シ單ニ此粕ノミヲ給シ又ハ其大量一日量每頭八
 十リートルヲ與ヘ麥、穀、蜀黍ノ如キ副食寡少ニ失スレハ病勢頗ル劇ナ
 ルモ中等量例之四十リートルヲ與フレハ皮疹ハ輕クシテ一部ニ局限
 スルノミ發芽セル馬鈴薯ヨリ製シタル粕及醱酵セル粕ノ害ハ最モ甚
 シ各種ノ馬鈴薯ハ同一ノ害ヲ及ホスモノニアラス同一ノ牛舎ニ於テ
 モ年度ノ異ナルニ從テ發病ニ多少アルハ馬鈴薯ノ醱酵作用及醱酵産

物ノ差異并ニ成長ノ遲速地質肥料ノ如何等ニ歸セサルヲ得ス

粕疹ハ馬鈴薯粕ノ飼養ノミニ原由スルモノニアラスシテ馬鈴薯ノ煮
 熟セルモノ其煮汁及其葉ヲ食ハシムルモ亦發ス發芽セル馬鈴薯及蒸
 餾ノ殘滓亦然リ故ニ馬鈴薯中一種ノ毒物アリテ粕中ニ遺殘シ馬鈴薯
 ヨリ炭化水素質ヲ析出スルノ後比較的少量ノ毒ハ其中ニ存スルモノ
 、如シ毒物ノ本性ハ未タ審ナラサルモ其作用ハ排泄ニ當リテ皮膚ヲ
 刺戟シ炎症ノ誘因トナリ濕疹ヲ起スモノ、如シ本病ノ乳牛ニ少ナキ
 所以亦此理ニ據リテ説明スルニ足ル蓋シ乳牛ハ乳汁分泌ノ際乳腺ヨ
 リ此毒物ヲ體外ニ排謝ス而シテ粕疹ニ罹レル牛ノ乳汁有害ナルハ之
 ヲ飲ミタル慣ノ下痢及小兒ノ發疹ニ徴シテ察スルニ餘アリ又輕症ノ
 粕疹ニ罹レル牛ハ十分運動セシムレハ輕快スルハ等シク毒物ノ排泄
 増加スル爲メナラン乎何故ニ後肢ノ下端ノミニ發スルヤハ一ノ疑問
 タリ此疹ハ全身ニ汎發スルコトアルモ後肢ノ下端ニ多キハ地上ノ濕
 氣塵埃ニ觸レ易ク且下痢スルモノ多ケレハ其煮汁ハ肢端ヲ汚染シ以

テ此症ヲ誘發スルモノナラン肢下端ノ皮膚抵抗力ニ乏シキハ馬ノ臭
刺中毒發疹(全身ニ發疹スルモ軀幹ノ病勢)ニ徴シテ知ルヘシ

粕疹ノ本性ニ關スル異說 (一)ソラニン説 馬鈴薯ノ含

メル「ソラニン」及「ソラニジン」Solanin, solanidinノ中毒ナリト曰フ馬鈴薯ノ發
芽ニ於テハ「ソラニン」ノ量大ニ増加ス而シテ發芽セル馬鈴薯又ハ之ヨリ
製シタル粕ヲ食ハシムレハ病勢重キヲ以テ之ヲ此説ノ根據トナス然レ
トモ粕疹ニハ「ソラニン」中毒ノ特徵タル麻痺症候(迷離、歩行跟ヲ缺キ且未
タ發芽セス隨テ「ソラニン」ヲ含マサル所ノ馬鈴薯モ亦本病ノ誘因トナル

(二)「フューゼル」油説 亞爾爾保爾爾醇ノ際生スル所ノ「フューゼル」油

Fuselolヲ以テ原因ト看做スモノアルモ信スルニ足ラス何トナレハ「フュー
ゼル」油ハ穀物ノ酒粕ニモ存スルモ致テ皮膚疹ヲ發セス馬鈴薯ノ酒粕ニ於
テモ全ク「フューゼル」油ヲ除去シテ飼養スルヲ常トス又此油ハ決シテ發芽
馬鈴薯及其葉ニ存セサルハ無論ニシテ「フューゼル」油中毒ノ徴ハ全ク異ナ
ル

(三)酸説 馬鈴薯粕ノ含メル醋酸、乳酸、乳油酸ハ他ノ酒粕ニモ存シ馬鈴

薯ノ葉ニハ常ニ之ヲ缺ク又酸ノ量ハ不定ニシテ無害ノ粕ハ反テ有害ノ
モノヨリ多量ノ酸ヲ含ムコトアリ

(四)加里説 ヨーチ Johne 氏ハ馬鈴薯ノ加里ニ富ムヲ以テ原因上ノ關

係アリト臆察セリ然レトモ加里鹽類ハ筋肉ヲ害スル虞アリト雖モ加里
ニ富ム食物ハ全ク無害ナリ

(五)微菌説 ツルン Zimm 氏ニ據レハ武爾坪酒酵母ノ含メル分芽醱酵

ハ腸ニ入りテ杆狀醱酵菌ニ變ス而シテ糞便、皮膚ヲ汚染スレハ此菌ハ腸
内ノ他ノ「バクテリア」及球菌ト共ニ皮膚ヲ刺戟シ微性炎ヲ發セシムトヨ
一子氏之ヲ駁シテ曰ク道般ノ醱酵菌ハ各種ノ酒粕ニ存ス然ルニ穀類及
玉蜀黍ノ酒粕ハ曾テ此皮膚疹ヲ發スルコトナシ變形シタル醱酵菌ハ馬鈴
薯粕ヲ食フモ發病セサル所ノ牛糞ニ之ヲ食ハサルモノ、糞便中ニ存ス
故ニ偶然糞中ニ混セル成分ト看做サルヲ得ス又一方ニハ非常ニ牛糞ヲ
清潔ニスルモ此疹ヲ發シ之ニ反シ不潔ナルモ之ヲ發セサルモノアリ又
毫モ糞便ニ觸レサル身體ノ部分ニモ發ス接種試驗ハ每常無效ナリ終リ
ニ臨ミ一言ヲ要スルハ生ノ馬鈴薯及其葉ニハ醱酵菌ヲ含マサルモ尙ホ
病原トナルノ一事ナリ

(六)疥癬説 ラーベス氏ハ疥癬説ヲ主張シ傳染ニ由テ蔓延シ疥癬蟲

(Dermatophagus Jovis)ノ發生消散ニ隨フテ本病ニ間歇性アリト曰フ然ルニヨ
一子氏ハ粕疹ノ治癒後健牛ニモ屢ニ之ヲ發見シ反テ粕疹ニ於テハ三分ノ
一ノミ此蟲ヲ見タリ又此疥癬ハ粕疹ナキ牛舎ニ流行シ致テ粕疹ヲ傳染

セシメス其接種試驗モ疥癬ヲ來サヌ又疥癬ハ醫藥ヲ施サトルモ疥癬ヲ食
ハシメサレハ輒チ治ヌ加之此疥癬ハ急ニ全身ニ蔓延スルモノニアラス

症候

局部症候ハ馬鈴薯粕飼養後平均二三週日ヲ經テ發ス大量ノ
酒粕ノミヲ與フレハ更ニ早シ蓋シ鬚部引赤腫起シ之カ爲メ起立歩行
ノ際後肢ハ強拘緊張ス尋テ紅腫帶痛ノ皮膚面ニ水疱ヲ發ス水疱ハ速
ニ破潰シテ大滋潤面ヲ生ヌ後ニ至リテ乾燥シ厚ク結痂シ毛ハ紛糾シ
患脚ノ下端ハ多少肥厚ス時アリ此皮疹ハ管部并ニ飛節膝節ノ上部殊
ニ其内面ニ點見シ又吐ニ在リテハ陰囊牝ニ在テハ乳房ニマテ蔓延ス
稀ニハ胸腹頸背等ニ疥癬様ノ痂皮ヲ生シ皮膚肥厚シテ皴裂ヲ呈シ皴
裂シテ液ヲ滲出ス該液ハ半ハ乾燥結痂シ半ハ膿ノ狀トナル此ノ如キ
局處症候ノ外全身遠和ノ微アリ則チ輕微ノ發疹熱減食便通遲滯結膜
充血分泌增多流涎等ヲ以テ序ヲ開キ晚期ニ至レハ下痢脱力羸瘦ヲ來
シ重症ハ虛脱シテ斃ル死因ハ敗血症若クハ膿毒症ナリ通氣不良管理
失當厩舍不潔舍内幽閉老衰等ハ病勢ヲシテ増悪セシム數多ノ牛ハ數

回之ニ罹ル一牛ニシテ一年間四回乃至六回反復發病スルモノアリ故
ニ一タヒ本病ヲ了スルモ免病質ヲ得ルモノニアラス

經過

概テ良性二三週ニシテ癒ユ然レトモ治療ヲ怠レハ水疱性及
滋潤性ノ濕疹ハ丹毒性膚列虞蒙性若クハ壞疽性皮炎ニ變シ皮膚ノ壞
死又ハ敗血性若クハ膿毒症傳染ヲ來ス本病ノ流行セル牛舎ハ間陰濕
ノ微臭ヲ發ス

類症鑑別

本病ハ左ノ諸症ト誤診サレ易シ

(一) 垢疔

臨牀上粕疹ト同一ノ症狀ヲ呈スルモ原因ハ全ク之ニ異
ナリテ外來ノ感作ニ因ル又垢疔ノ變狀ハ概シテ輕易ニシテ紅斑期鱗
屑期ノ微ヲ主トシ水疱ハ偶々發生スルノミ實際上海鈴薯若クハ其酒粕
ノ飼養後ニ發スル皮疹ハ粕疹ト看做シ脚ノ下端ニ發スル他ノ非寄生
性濕疹ハ垢疔ト認メテ太過ナルヘシ

(二) 足疥癬

一種ノ疥癬蟲 Dermatophagus bovis ニ因ルモノニシテ粕
疹ト合併シ又ハ粕疹ノ發生ヲ促スモ顯微鏡的検査ヲ施セハ忽チ原因

ヲ發見シ得ルノミナラス疥癬ノ症候經過ハ粕疹ニ異ナレリ即チ甲ハ乙ヨリモ緩徐輕易ノ皮疹ニシテ脚ノ下端ニノミ限局シ上部ニ蔓延セズ且慢性ニシテ鱗屑濕疹ノ狀ヲ呈スルモ粕疹ニ於テハ急性ノ水疱疹ヲ主トス

(三) 口蹄疫 是レ亦水疱疹ニシテ蹄冠緣及趾間ニ點見シ非常ニ傳染シ易ク馬鈴薯粕ヲ食スルト否トニ關セズ但シ口蹄疫ハ粕疹ト合併スルコトアルモ其鑑定ハ難カラス

(四) 癰疽 Panarium 第三指骨ノ蹄冠若クハ指間ヨリ起ル所ノ炎症ニシテ腱關節骨膜及骨ヲ侵ス純然タル外科的ノ爪病ナレハ粕疹ト混視スルコトナカルヘシ

(五) 藥劑ノ濫用 病畜ノ所有者伯樂等濫ニ石油粗製石炭酸等ヲ塗擦シテ粕疹ノ定型ヲ一變セシメ以テ察病ヲシテ困難ナラシムルコトアリ

療法 最簡ノ法ハ馬鈴薯粕ノ飼養ヲ廢スルニ在リ若シ全廢スルヲ

得サレハ大ニ其量ヲ減シ日糧八十リートルヲ二十乃至四十リートルニ減シ之ニ準シテ芻秣其他ノ食ヲ加ヘ運動ヲ命シ勉テ牛舎ヲ清潔ニスヘシ醫藥ハ麥兒一分、軟石礮二分、硫華一分、武蘭埵酒二分ノ合劑又ハ石炭酸油5%ヲ塗布シ或ハ乾燥收斂藥ノ溶液若クハ實質ノ儘ヲ施ス例之椰皮末、椰皮煎、鉛糖、硫酸銅、タンノフォルム、Tannoforn、「フォルムアルト單寧」等ノ如シ、クレヲリン、「クレヲリン」、加里石礮各一〇〇〇酒精五〇乃至五〇〇〇同軟膏(一：一〇—二五亦實用ノ價值アリ

(丁) 羊ノ濕疹性皮膚病 *Eczematous skin disease of*

sheep.

概論 羊ノ非寄生性皮膚病ハ稀ニシテ未タ審ナラサルモノアリハウブチル及ジードムグロッキー Haubner-Siedangrotzky 氏ハ馬ニ於ケルカ如キ丘疹様濕疹ヲ見タリ肝蛭症其他ノ惡液病ニ於テハ饑癩 Hunger-täudeト稱スル鱗屑濕疹ヲ發ス單ニ飼養管理ノ不良ニ基ク所ノ饑癩ハ

垢癬 Schnitzflechte ト稱シテ可ナリメモー May 氏ハ痒疹及痲癬 Prurigo und Schorflechte アルヲ説ク疵疹ハ羊ニ發スルモ眞ノ粕疹ハ未タ曾テ羊ニ於テ觀察セズ

羊ノ非寄生性皮膚病中最モ多ク且最モ重要ナルヲ 雨疹 Regenfäule (Nasse-Jette Räude) トス蓋シ羊ノ營養不良ニシテ其背部ノ毛毳抜キタルモノハ放牧中連日雨ニ暴露セラレ表皮ノ上層ハ軟化シ其下ニ濕疹ヲ發シ皮膚ノ腫起、水泡、痂皮、脱毛及癢痒ヲ來ス此疹ハ專ラ背薦ニ發スルモ又肩、頸、頭、尾根等ニ蔓延スルコトアリ雨歇メハ概テ自ラ癒ユルヲ以テ治療ヲ要セス重症ニ罹レル羊ハ舍飼スヘシ此症ノ害ハ羊毛ノ脱落ニアリ疥癬ト誤認ス可ラス

(戊) 豚ノ濕疹性皮膚病 Eczematous skin affection of

pig.

發生 豚ノ非寄生性皮膚疹中吾人ノ知レルハ豚兒ノ「ルニス」 Russ der

Ferkel (Sogen Pechrände (蕁麻疹) Borkenausschlag) ノ一アルノミ此症ノ初期

ハ水泡性、晚期ハ膿疱及疥癬様ノ濕疹ニシテ特ニ幼弱多病ノ豚急性關節炎、他皮膚病、結核病、疥癬等ニ罹ルモノニ多ク概テ全身ニ汎發シ不潔ノ圍舍、皮膚ノ堆積分解等ニ原由ス當初水泡ヲ發シ水泡ハ速ニ膿疱ニ變シ次テチヤン瀝青ノ如キ黒色ノ厚キ痂皮ヲ結ヒ痂下ノ皮膚ハ尙ホ濕潤ス此皮膚疹ハ概シテ體質病ノ一症候ニ過キス恰モ癩癬ノ結核病ニ於ケルカ如シ療法ハ圍舍ヲ清潔ニシ石礮ヲ以テ患部ヲ洗滌シ良食ヲ與フルニアリ豚ノ疥癬トハ傳染性ノ有無ニ由テ鑑別スヘシ

蕁麻疹 Urticaria, netterash, Nesselausschlag, Quaddelausschlag. (獨)

名義及原因 蕁麻疹ハ限局シタル扁平ノ皮膚隆起ニシテ毛細管ハ一流域ニ於テ乳嘴體及眞皮中ニ漿液ヲ滲漏スルニ由テ生シ頓發スルヲ特兆トス乃チ本病ハ限局性皮膚水腫又ハ竈狀ノ急性漿液性皮炎ニシテ漿液ヲ滲漏スルモ細胞ヲ浸潤セサルモノトス其細胞浸潤ナキ

ハ小結節 Knötchen ニ異ナル點ニシテ又蕁麻疹ノ急ニ消散スル所以ナ
 リ漿液ノ急ニ滲漏スルハ脈管運動神經ノ異常刺戟若クハ栓塞ノ爲メ
 毛細管流域ノ突然擴大スルニ由ル乃チ蕁麻疹ハ脈管運動神經病
 Vasomotoric neurosis or angioneurosis ニシテ毛細管壁ノ異常透竈性ヲ具フ
 ルモノト認メテ可ナリ此脈管運動神經病ハ反射的ニ皮膚ヨリ誘發セ
 ラレ又内臟ヨリ挑起セラル、モノナリ

(二) 外因 外因ハ皮膚ノ刺戟ニシテ昆蟲ノ刺螫、蝨、蟻ノ毛及蕁麻ノ
 刺戟ノ如シ皮膚薄弱ニシテ素因ヲ有スルモノハ的列並底油塗擦ノ爲
 メ之ヲ發スルコトアリ

(三) 内因 内因ハ素因アル動物ニ於テ皮膚ノ脈管運動神經ノ神經
 機能ヲ碍ケラル、トキ反射的ニ此症ヲ誘發ス素因ノ本性ハ未タ審ナ
 ラサルモ脈管運動神經系ノ一障礙ト看做シテ可ナリ

多血肥滿ノ幼獸ハ最モ此症ニ罹リ易シ其内因ハ血中ノ刺戟物ニシテ
 素因アルニ乘シ皮膚ニ特異ノ作用ヲ及ホスモノナラン諸種ノ傳染病

血症、癩癬、ノ經過中ニ發スル所ノ蕁麻疹ハ即チ此說ノ根據ト爲スニ
 足ルヘシ而シテ其病原ハ即チ細菌若クハ其毒素ナリ胃腸加答兒、黃疸
 等ニ於テモ蕁麻疹ヲ發スルハ異常ノ分解產物若クハ消化產物、血中ニ
 吸收セラレ誘因トナルモノ、如シ人ニハ特異素因 Idiosyncrasy ナルモ
 ノアリテ或人ハ魚介、菌蕈、蛇毒等ノ食後ニ發疹ス家畜ニモ亦人ノ如キ
 特異素因アリテ荳類、蕎麥、綠馬鈴薯、青刈裸麥ヲ食ヒ又ハ食餌急變ノ際
 之ヲ發スルモノアリ

蕁麻疹ハ又他ノ皮膚病ノ經過中ニ發ス例之加奈陀馬痘ニ於ケルカ如
 シ

(三) 身體ノ冷熱急變 身體大ニ熱スルノ後急ニ之ヲ冷却スレハ
 此疹ヲ發ス乃チ蕁麻疹ハ春夏ノ候、驟雨後并ニ劇役、疾驅ノ後ニ頻發シ
 又時アリテ血色素病ニ伴フ渾テ這般ノ場合ニ於テハ皮膚ニ及ホス寒
 氣ノ刺戟ヨリモ寒冒ノ結果トシテ體內ニ停滯シタル害物ニ由ルモノ
 、如シ又原因ノ發見スヘカラサルモノ尠ナシトセム

發生 前ニ述ヘタル事實ニ徴スレハ蕁麻疹ノ大多數ハ純然タル續發疹ナルヤ知ルヘキノミ即チ關係諸病ノ副症ニ過キサルモ往々蕁麻疹ノ他何等ノ病徴ヲモ認ムヘカラス内患モ亦發見シ得ヘカラサルモノ多ケレハ暫ク舊慣ニ依リ茲ニ特論ス此症ハ馬、犬、豚ニ最モ多ク牛之ニ亞ク

(甲) 馬、犬、牛ノ蕁麻疹 Urticaria of horse, dog, and cattle.

徴候 丘疹ヲ頓發シ僅々數時間若クハ一夜間ニ皮膚ノ大部ニ發疹スルヲ特徴トス初期ハ頸ノ兩側、肩、背、胸壁、臂等ニ蠶豆大ノ軟腫ヲ散發シ速ニ増數増大シ往々數多湊合シ拳大若クハ盆大ニ達シ頭部、前膊、脚、下、乳房等ニ發スレハ奇異ノ醜形ヲ呈ス痒痒ヲ感スルハ稀ナリ丘疹ハ時トシテ結膜并ニ鼻、口、陰門ノ粘膜ニ發ス馬ノ腺疫ニ於テハ皮膚ノ丘疹ト同時ニ鼻腔ノ血斑ヲ見ル滲漏液、若シマルビギ氏粘液網ト表皮ノ間ニ突出スレハ水疱ヲ生ヌ所謂蕁麻疹水疱。Nesselblasen, Nesselfries, Pomphosis

ニシテ通常痒痒ト脱毛トヲ伴フ

皮膚症狀ノ他原病ニ基ク所ノ全身違和アリ往々微熱高熱ニハヲ發シ倦怠、不活潑ニシテ勞働ヲ欲セス或ハ胃腸加答兒ノ狀アリテ減食、下痢、若クハ便秘、輕黃疸ヲ發ヌ又一時大ニ發汗スル馬アリ

此疹ハ發生ノ急ナルニ均シク消散モ亦急ニシテ一、二日間ニ痕ヲ留メサルヲ常トス然レトモ頻々再發シ經過ヲ遷延セシムルモノアリ一動物ニシテ一年間數回之ニ罹ルモノアリ

療法 概テ治療ヲ要セス單ニ食ヲ減シ獸體ヲ被覆スレハ足レリ稍、重キ全身症アレハ緩下劑(中性鹽若クハ下劑吐酒石、蘆薈、甘汞)ヲ處スヘシ

(乙) 豚ノ蕁麻疹 Nettle fever of pig.

病性 豚ノ蕁麻疹ハ一種ノ傳染病ナレハ傳染病ノ條下ニ論スルヲ妥當ナリトス然レトモ往々丹毒及豚疫ト混同セラル、ヲ以テ實地家

ノ便ヲ圖リ他ノ傳染病トハ全ク區別シ茲ニ一論セントス

症候

皮膚ニ丘疹ヲ頓發シ胃病及熱候ヲ兼發ス蓋シ從來健全ノ豚一夜间ニ軀幹ノ上部、胸、臂、上腿腹等ニ榛實大ノ丘疹ヲ發ス疹ハ疼痛ヲ帶ヒ一二密迷ハ皮上ニ突隆シ増大スレハ二錢銅貨大ニ達シ數多叢合スレハ掌大トナル初期ハ赤色斑ニシテ些シク皮上ニ隆起スルモ後ニハ白色ニ變シ赤帶ヲ匝ラス此ノ如キ白疹ハ輕症ニ現ハル、ノミニシテ總テ重症ニ於テハ出血性ニシテ赤色、藍赤色若クハ褐色ヲ帶フ又疹ノ表面ニ漿液ヲ滲出シ終ニ乾燥剝脫スルモノアリ

胃病ハ食欲減損、便秘此徵ハ決シテ缺嘔吐ニシテ病豚ハ憂鬱、倦怠、膝下ニ潜伏シ起立ヲ欲セス粘膜炎、呼吸疾速、中度ノ熱攝氏四十度マテヲ發シ時アリ步履強拘ニシテ筋肉痠麻質斯ニアラサルヤヲ疑ハシム

豫後

經過極テ良性ニシテ輕症ハ一兩日、重症ハ四週乃至六週ヲ經テ癒ユ未タ曾テ死セルモノナク便通アレハ輕快ニ赴キ皮疹ハ速ニ消散ス

類症鑑別

從前ハ一般ニ毒麻熱ヲ良性ノ丹毒ト認メタルモ大ニ誤テリハウプナル Haubner 氏四十年前業ニ既ニ固有病トシテ此症ヲ記載シタリ丹毒ト豚疫トノ區別ハ左ノ如シ

- (一)毒麻熱ハ身體ノ上部ニ丘疹判然限局シタル皮膚隆起ヲ發スルモ丹毒及豚疫ハ身體ノ下部ニ皮膚ノ變色若クハ瀰蔓的浸潤ヲ呈スルノミ
- (二)毒麻熱ハ至テ良性ナルモ他ノ二症ハ惡性傳染病ニシテ一日乃至三日内ニ斃ル
- (三)毒麻熱ハ主ラ特發シ輕易ノ症狀ヲ呈スルノミ

療法

良性ニシテ定型的ノ經過ヲ取ルヲ以テ攝養ノ外醫療ヲ要セズ重症ニハ石鹼水ヲ灌腸シ甘汞一乃至四瓦ヲ投スヘシハウプナル氏ハ硝石五、〇芒硝五、〇ヲ蜂蜜ニ混シ搗劑トナシテ與フ皮膚ノ炎腫ニハ頻ニ冷水ヲ灌クヘシ

壞疽性皮炎

Dermatitis gangrenosa.

白斑部壞疽又壞疽癰 Brand der weissen Abzeichen, Brandnaeke.

原因 壞疽性皮膚ハ駁色ノ牛馬又ハ白色ノ標徴部ニ發スルモノニシテ間、地方性ニ蔓延シ全ク外來刺戟ノ感作ニ由ル慢性麥角中毒ニ於テハ肢端ノ脱疽ヲ來スモ此症ト性質ヲ異ニス紅斑性又ハ濕疹性皮膚炎充進スレハ終ニハ患部ノ皮膚ヲ剝脱セシムルコトアルヘシ本症ノ刺戟原因ハ左ノ如シ

(一) 強烈ノ日光 又ハ乾炎風ハ直接原因トナル是レ所謂太陽壞疽 Gangrena solare ニシテ太陽紅斑ノ高度ナルモノナリブラシオ Passio 氏ハ亞弗利加ノ馬ニ於テ皮膚ノ鞍及馬具ニ被ハレサル無色素部ニ之ヲ見タリ

(二) 皮膚ノ無色素部 ハ色素ノ保護ナキヲ以テ日熱ノ害ヲ被ムルノミナラス他ノ刺戟ニ對シテモ害セラレ易シ故ニ皮膚壞疽ハ額星

四肢ノ白色部及駁馬ニ多シ

(三) 枯凋徵 苜蓿病及ルービン病ニ於テハ皮膚白色部ノ壞死ヲ見ル變敗ノ翹搖甘露(Erysibe pilizen)ノ堆積シタル綠草并ニ葉虱ハ炎症ノ誘因トナル

(四) 壞疽症 強烈ナル水疔ノ普通原因(例之大凍傷又ハ傳染毒ニ因ル)

症候 壞疽性皮膚ハ紅斑又ハ濕疹ノ狀ヲ以テ序ヲ開クモ皮膚ハ滲ニ腫脹シ皸裂、皸裂ヲ生シ一局部ノ皮膚急ニ壞死ス其淺キモノハ皮膚上ニ草様ノ痂ヲ結ヒ深キモノハ皮膚ノ全層皮下織マテ羊皮紙ノ如ク萎縮シ化膿ニ由テ剝脱ス剝脱ニ先タテ限界線ヲ生シ又ハ膿瘍、瘻管ヲ生スルコトアリ治癒スルモノハ肉芽ヲ生シ癩痕ヲ結フ

療法 初期ハ鉛糖又ハ麝創軟膏(鉛糖單寧軟膏)石炭酸油若クハ石炭酸沃度仿護クレヲリンノ軟膏或ハクレヲリン擦劑同溶液、ピオクタンニン、グルートール、タンノフォルム等ヲ用キ或ハ昇汞水ノ脚踏ヲ施シ

壞死セル皮膚ハ外科刀又ハ剪ヲ以テ截去シ防腐繃帶ヲ纏フヘシ
 壞疽疔ノ實例 學友須藤氏ハ明治二十九年六月中新橋馬車鐵道會社ノ馬
 匹中多數ノ足部傳染創傷ヲ實驗シ中央獸醫會雜誌第九輯卷八(二十九年八
 月發兌)ニ一號乃至十五號ノ實例ヲ掲ケ病性原因、鑑別法ヲ詳論セラレタリ
 今茲ニ其要點ヲ引證スヘシ
 數個ノ患馬ヲ診スルニ創ハ皆球節以下ニ在テ多クハ球節ノ内側、髌部、蹄冠
 部ニ位シ深サ皮膚ヲ貫テ皮下織ニ達シ初起ハ創口極寬大乃至胡桃大ニシ
 テ不正圓形ヲ呈シ稀膿ト淋巴ヨリ成ル所ノ淡黃粘滑液ヲ漏ラシ創底淡紅、
 創圍ノ皮膚淺潤厚シ多少ノ浮腫(肩列膿漿)アリ漸次上進シ増温疼痛アリ
 歩行セシムレハ診跛ス(中略)後ニ至レハ創圍ノ皮膚壞死剝脫シ皮下織崩落
 シテ暗赤色ノ凝塊ニ變シ之ヲ除ケハ空洞ヲ殘ス洞底ヨリ灰白淡紅豆大乃
 至胡桃大ノ贅生肉芽粒ヲ發シ創上ニ挺突シテ菌狀ヲナシ周圍ノ皮膚皮下
 織ハ大ニ肥厚ス病機是ニ至テ進行ヲ止メ肉芽漸次萎縮シ遂ニ癒痕ヲ結テ
 癒ニ是レ經過ノ善其ナルモノニシテ多クハ一週内外ニ涉ル不其ナルモノ
 ハ甚々急劇、一夜間ニ浮腫ハ前臍部ニ蔓延シ患肢甚重ニ堪ヘス浮腫部處々
 膿潰糜爛シテ噴火口狀ヲ呈シ之ヲ壓スレハ汚臭、血色ノ液ト泥狀壞死組織

塊トテ瀉シ速ニ敗血熱ヲ發シテ腫レ或ハ創口纒ニ癒合シテ慢性皮膚病ヲ
 貽シ象皮膚ノ如キ肥厚ヲ呈シ患馬ハ使役ニ堪ヘサルモノアリ云々
 時重學士ハ此病の產物ヲ檢シ葡萄狀球菌ヲ發見シ之カ純粹培養ヲ作り駒
 場病院ニ於テ二頭ノ健馬ニ接種シ化膿、腐列、成膿、敗血症及贅肉芽ヲ誘發セ
 シメタリ予ハ親シク此兩馬ニ就キ觀察スルノ機會ヲ得タリ
 類症鑑別 ニ關シ須藤學士又曰ク本病或ハ火蟲ナラント初メ臆斷セシカ
 彼此相較スルニ本病ハ經過甚々急ニシテ急性炎ノ症狀即チ溫熱、疼痛ヲ帶
 フルモ火蟲ノ如キ痒覺ナシ肉芽贅生、皮下織肥厚スルモ火蟲ノ如ク、ア、テ、ロ
 マ、狀硬塊ニ變スルコトナク初起善ク冷濕シ防腐藥ヲ以テ洗ヒ硝酸銀溶液
 又ハ、ツ、チ、ラ、ツ、ト、水ノ如キ收斂劑ヲ塗布スレハ肉芽漸ク收縮シテ癒ヲ結ヒ
 皮膚ノ肥厚ヲ貽スモ日ヲ逐ヒテ減退シ遂ニ全ク消失ス火蟲ノ類トシテ治
 療ニ抵抗シ初期截取セサレハ癒エサルカ如キニ似ス若シ腐列成膿大ニ増
 進スレハ組織忽チ壞死シ敗血熱ヲ發シテ數日內ニ死ス是レ亦火蟲ト異ナ
 ル所ナリ云々

大水疱性皮膚炎一名大水疱疹又天疱瘡

Dermatitis bullosa, Blasenanschlag, (Pemphigus).

病性

大水疱疹トハ其名ノ示スカ如ク健全ノ皮膚面若クハ潮紅セ
ル皮膚面ニ巨大ノ水疱ヲ發スル症ニシテ水疱ハ鶏卵大ニ達スルモノ
アリ但普通ノ濕疹ハ小水疱ヲ發スルノミ

原因

此皮膚疹ハ稀有ニシテ其原因ハ未タ明ナラサルモ恐ラク外傷
的、化學的(芫菁ノ如キ)又ハ温熱的(火傷ノ如キ)感作ノ如キ大刺戟ニ由ル
モノナラン

徵候

古來成書ニ載セタル實例ハ多カラスロイセツト Loiset 氏ノ
觀察シタル牛ノ地方性水疱疹ニ於テハ腰臀、股等ノ部位ニ圓形若クハ
卵圓形ノ大水疱ヲ生シタリ水疱ノ大サ十仙迷以下ニシテ清澄液ヲ含
ミ容易ニ破裂シ大滋潤面ヲ呈ハシ結痂、落屑ニ由テ癒ユ其痕跡特ニ光
澤ヲ帶ヒタリシーマン Seaman 氏ハ一割牛ノ寒戰發熱シテ之ニ類セル
鶏卵大ノ大水疱ヲ發生スルヲ見タリ此水疱ハ水痘(假痘)トハ無關係ナ
リト曰フデーカホフ氏ハ五頭ノ馬ニ於テ大水疱ノ發疹ヲ觀察シタリ

蓋シ頭、頸、腹、胸、後肢間等ノ皮膚ニ扁平若クハ微シク隆起シタル胡桃大
乃至掌大ノ水疱ヲ發シ各泡ハ水様若クハ黃色ノ液ヲ充シ破裂スレハ
水ノ如キ分泌液ヲ流シ大創面ヲ生ス劇烈ノ痒覺アルモ他ニ全身ノ障
害ナシトグラフンデル Grafunder 氏ハ馬ノ皮膚ニ水疱ヲ發シ鼻粘膜ニ
蠶豆大ノ暗赤色斑ヲ生シ十二日間ニ治癒シタル一例ヲ見タリ
此大水疱性皮膚炎ハ頗ル人ノ天疱瘡ニ類ス蓋シ人ノ天疱瘡ハ原因尙
ホ審ナラス或ハ急性傳染病ノ性ヲ帶ヒ或ハ脈管運動神經病若クハ植
物寄生性皮膚病ニ外ナラス前ニ述ヘタル牛ノ一例ハ人ノ Pemphigus
vulgaris ト稱スル良性皮膚疹ニ類似ノモノナリ

附唇邊「ヘルペス」 Herpes labialis.

馬ノ唇、鼻ニ生スル所ノ水疱ニ唇邊「ヘルペス」ノ名ヲ下スモノアリ
蓋シ唇邊急ニ無數ノ小水疱ヲ簇發ス該水疱ハ扁豆大ニシテ清澄
液ヲ含ミ速ニ結痂シテ癒ユ本症ハ人ノ顔面及生殖器「ヘルペス」ニ

類シ天然孔ノ周圍ニ發スルノ點ハ之ニ一致ス然レトモ「ヘルペス」ナル名稱ハ獸醫術上濫用セラレタルヲ以テ尙行疹 Herpes tonsurans ニ限リ此名ヲ適用スヘシ所謂唇邊ヘルペスハ人ノ皮膚神經病ノ經過中ニ發スル帶狀羅斯 Herpes zoster (Gürtelrose) トハ何等ノ關係モナシ

脱毛症 Alopecia.

發生 他ノ皮膚病ニ關係ナキ脱毛症ハ全身ニ瀰蔓シ或ハ一小部ニ限局ス其病性ハ皮膚ノ營養障礙ニ由テ毛根ノ萎縮ヲ來スモノニシテ所謂毛神經症 Trophoneurose ナリ寄生物同時ニ作用ヲ逞フスルコトアルヤ否ヤ明言スルヲ得ス

原因 脱毛症ノ原因ニ就テハ僅ニ其一般ヲ知ルノミ全身營養變調ノ一症候トシテ發スル大部ノ脱毛ハ名ケテ症候性脱毛症 Alopecia symptomatica ト曰フ營養不良妊孕哺乳期并ニ瀰久ノ消耗性疾病ノ經過

中之ヲ見ル又血斑病ノ如キ血液病非常ノ發汗後及皮膚ノ血行障害ニ發スヨレルル及アンドレ Koller, André 氏ハ遺傳性先天病ナリト云ヒフ
 オーミン Fomin 氏ハ沼地ノ醗酵性乾芻ヲ食シタル後ニ發生スト云ヒ
 デヨリー Joly 氏ハ精神ノ興奮ニ因ルコトヲ信ス

局限脱毛症 Area celsi (Alopecia areata) 一皮膚神經領域ノ營養障害即チ毛神經症ナリ或ハ寄生性病ト看做スモノアリ

徵候 (一) 症候性脱毛症 全身ノ毛脱落シ皮膚ハ裸出ス馬ニ於テハ時アリ脱毛症ハ胃病并ニ四肢胸腹下面ノ浮腫ニ先チテ發シ或ハ他ニ何等ノ副徵ヲモ認メサルコトアリ概テ數週日ノ後新毛ヲ再生ス
 犬ノ脱毛症ハ禿部ニ暗色ノ色素ヲ生ス是レ毛ニ代リテ保護ノ用ヲナスモノナランジーダムグロッキー氏ハ這般ノ色素形成部ヲ鏡檢シ毛及毛囊ノ萎縮トマルビーギ氏粘液網細胞毛囊ノ毛根鞘并ニ皮脂腺ノ細胞中ニ黑色及褐色ノ顆粒物浸潤ヲ見タリ羊ニ於テハ大部ノ毛一團ヲナシテ脱落シ大禿面ヲ呈スルコトアリ

(二) 局限脫毛症 當初小圓形ノ禿斑ナルモ次第ニ増大ス犬ニ頻發シ旬行疹ニ酷似スルモ特異病原菌ヲ缺クホルノミ氏ハ馬ニ於テ當初一小局部ノ毛脱落シ漸次蔓延一年間ニ大部ヲ禿シ毛根萎縮シテ多量ノ黑色素ヲ生シタル一例ヲ見タリ鏡檢上有機么體ヲ發見スル能ハサルヲ以テ皮膚ノ萎縮ヲ病原ト看做サ、ルヲ得ス此症ハ頑固ニシテ何等ノ療法ヲモ抗拒ス

療法 諸種ノ刺戟藥ヲ以テ毛ノ發生ヲ促スヘシ即チ酒精石礆精樟腦精又ハ芫菁丁幾丁幾一分酒精又ハ豚脂五分ヲ塗擦ス局限脫毛症ニハ百露拔爾撒謨二分酒精十分、クレヲリン二分酒精十分乃至二十分、イヒチオール二分酒精十分沃度丁幾酒精等分ヲ數日間塗布スヘシ

結節狀毛髮斷裂症 *Trichorhexis nodosa*

人ノ皮膚病ニシテカボシ *Kaposi* 氏ノ所謂結節狀毛髮斷裂症 *Trichorhexis nodosa* ト同様ノ皮膚病ハトロンカモー *Trolimo* 氏ニ依テ觀察セラ

レタリ蓋シ一砲兵隊ノ軍馬約三分ノ二ハ背腰十字部等ニ於テ同形ノ斑ヲ生シ各斑ノ毛ハ毛根ヨリ一仙迷ヲ距ル處ヨリ斷裂シ若クハ結節狀ニ膨脹セリ斷裂部ヲ鏡檢スレハ大ニ毛纖維ノ分離スルヲ見ルメナシ *Magna* 氏亦同般ノ奇病ヲ觀察シタリ此毛病ハ千八百九十年普魯西ノ三箇聯隊ニ發シタリスタキンハルト *Steinhardt* 氏ノ報道ニ據レハ患部ノ毛ハ尖端ヨリ毛根ニ向ヒ三乃至五密迷ノ距離ヲ以テ灰白色ノ小結節ヲ生シ該部ヨリ往々斷裂シ尾鬣ノ如キ保護毛並ニ全身ノ被毛共ニ之ニ罹ル

療法 昇秉、クレヲリン、石炭酸、嬰兒、イヒチオール等皆無效ニシテ毛毳更脫期ニ至ラサレハ新毛ヲ生セス砒石療法ハ試用スヘシ皮膚ノ拭淨具ニ依テ他馬ニ傳染シ馬丁ノ鬚髯ニモ傳染シタリト云フモ容易ニ信シ難シ

血汗症 *Haemadrosis, Blutschwitzen*. (獨)

原因 牛馬ニ於ケル血汗症ノ原因ハ未タ明瞭ナラサルモ他ノ全身病ノ經過中ニ傍發スル出血ヲ多シトス例之血斑病、炭疽、敗血病、失荷兒、陪屈等ノ如シ出血ヲ伴ヘル急性發疹ニ屬スルモノアリ又特異ノ皮膚出血ニシテ血液ノ滲出若クハ漏出ニ因ルモノアリ汗腺ヨリ血液ヲ分泌スルニアラサルヲ以テ血汗ノ名ハ非ナリ一般血管ノ營養障害ニ基因スルニ似タルモ異因ハ未タ審ナラス

前ニ述ヘタル病理的出血ノ外東澳、匈牙利、露西亞、韃靼等ノ貴種馬ニハ所謂生理的皮膚出血ナルモノアリ殆ント無害ニシテ古人ハ天然ノ自助法ト信シタリ蓋シ貴種馬ノ血管系非常ニ發育スルヲ以テ(皮膚未梢腫ニ微シテ)勞動ノ際血壓増進スレハ容易ニ破裂スヘク又暑候癢覺アルニ際シ皮膚ヲ舐嚙スレハ出血ヲ來スコトアルヘシドルウイリー Drouilly氏ハ匈牙利ノ馬ニ於テ出血性絲狀蟲ニ因ル所ノ皮膚出血ヲ見タリ

症候

身體ノ諸部滴々血液ヲ漏ス輕症ニ於テハ肩、頸胸、四肢ノ皮膚

ヨリ小出血アリ速ニ止ム然レトモ全身ノ出血素質存スルトキハ鼻出血、腸出血、血乳或ハ血尿等ヲ發シ爲メニ患畜大貧血トナリ致命スルモノアリ此ノ如キ場合ハ通常輕熱、胃症等ノ全身症候ヲ伴フ貴種ノ馬ニ於テハ間、血液ハ暫時細線ノ狀ヲ呈シテ流出ス蓋シ靜脈擴張ニ因ルモノナリ

療法

貴種馬ノ皮膚小出血ハ殆ント治療ヲ要セス冷洗ヲ以テ足レリトス全身ノ出血素質ニハ麥角、流動、ヒドラーチヌ、越幾斯、單寧、鉛糖ノ如キ止血藥ヲ内服セシム

痤瘡及癰腫

Acne et furunculosis.

病性及原因 痤瘡ハ毛囊ノ化膿性炎症。Folliculitis suppurativaニシテ皮脂腺分泌物ノ蓄積、分解ニ由テ發ス而シテ其炎症ノ誘因ハ或ハ外ヨリ來リ或ハ血中ヨリ皮脂腺及毛囊ニ竄入ス此皮膚炎ハ限局深在シ結節(痤瘡結節 Acneknotten)若クハ膿疱、痤瘡膿疱 (Acnepusteln)ヲ生ス痤瘡ノ定型

ハ毛囊蟲症ニ於テ之ヲ見ル普通ノ瘡瘡ハ寄生蟲ニ原由セスシテ口籠ノ刺戟ニ依テ犬ノ頭部ニ頻發ス予ハ犬ノ後肢ニ於テ膿ト共ニ細毛ヲ泄ラス所ノ奇異ノ瘡瘡ヲ經驗シ其膿ヲ鏡檢シテ心臟絲狀蟲ノ胎蟲ヲ發見シタリ馬ニ於テモ偶々馬具ノ壓迫ヲ蒙ル處頸背ニ之ヲ發ス又羊ノ内股及腹面ニ點見スルコトアリ

癰腫トハ毛囊ノ壞死ヲ致ス所ノ大瘡瘡膿疱化膿壞死性毛囊炎 Nekrotisierende citrige folliculitisニシテ瘡瘡ヨリ發生ス即チ劇性毛囊炎ヲ示スモノナリ

症候 犬ニ於テハ概ネ鼻梁ノ皮膚ニ限局シ時ニ頭端ノ細キ犬種ポインターノ如キニ多シ蓋シ口籠ノ壓迫ハ先ツ皮表ヲ刺戟ス而シテ其刺戟ハ深在ノ毛囊ニ波及シテ化膿セシメ其排泄管ノ腫脹ヲ來ス是ニ於テ皮膚ハ肥厚硬固トナリ壓ヲ加フレハ處々血液様若クハ膿様ノ液ヲ漏ス其他扁豆大蠶豆大若クハ榛實大ノ結節アリ其中心ハ膿ヲ漏ス鼻梁ノ外脣額額顳部等ニモ瘡瘡性ノ結節膿疱若クハ癰腫ヲ見ル

癰ハ稀ニ頸背及四肢外面ノ皮膚ニ發ス蓋シ一圓銀貨大乃至掌大ノ面ニ蠶豆大乃至胡桃大ノ結節及膿疱ヲ簇發ス之ヲ壓スレハ血色ノ膿ヲ漏ス偶々膿疱ハ湊合シテ大膿瘍ニ變シ瘍面ノ皮膚ハ藍赤色ヲ帶フ此種ノ癰ハ「セッター」種ノ犬ニ多シ其原因ハ未タ審ナラサルモ皮脂腺ノ先天性異常造構ニ歸セサルヲ得ス

豫後 背及四肢ノ癰ハ豫後不良ナリ何トナレハ倍々蔓延シ月餘ノ治療ニ抵抗スルモノアレハナリ

療法 瘡瘡及癰腫ノ療法ハ外科的ヲ主トス即チ膿瘍ヲ割破シ消毒藥ヲ施スニアリ百露拔爾撒謨及クレヨリンノ軟膏(一：一〇)ハ良效アリ割破後硝酸銀棍ヲ以テ瘍腔ヲ腐蝕スルヲ可トス頑症ニ於テハ全患部ノ皮膚ヲ截去スヘシ豫防法トシテ外部ノ刺戟ヲ避ケ鼻梁ノ癰ニ於テハ口籠ヲ全廢シ若クハ之ニ軟褥ヲ附シ以テ再發ヲ防クヘシ

顆粒性皮膚炎 又痒性皮膚炎 Dermatitis granulosa (Lanlanie)

Dermatitis pruriginosa (Rivolta).

附 ひびし

病性原因

顆粒性皮膚炎ハ一ニ顆粒創 (Piaes granulose) 又ハ夏創 (Piaes d'ete) ト稱ス本邦ノひびし(皮膚火蟲瘡水瘡)カカ、カぶりカサ等ノ地方名アリ)ハ顆粒性皮膚炎ニ相當スヘキ皮膚病ナリト稱スルモ未タ其病原ヲ發見セザレハ果シテ然ルヤ否ヤヲ確答スル能ハス顆粒性皮膚炎ハ馬屬固有ノ寄生性皮膚病ニシテ一種ノ圓蟲 *Pitaria irritans* ニ原因ス伊國人リゾォルタ Rivolta 氏ニ據レハメルコラニ Ercolani 氏既ニ千八百六十年此般ノ皮膚疹ヲ見タリト曰フ佛人ロウラニエ L'auantie 氏曰ク皮下織ニ達スル數多ノ圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ皮膚ニ生ス其中心ハ乾酪樣ニ軟化シ卷回セル圓蟲ヲ含ム陳舊ノ結節内ニ於テハ此蟲ハ既ニ解崩スルコトアリ患部ノ皮膚ハ肥厚シ結節ノ中心ハ囊狀ヲ呈ス而シテ病的作用ハ皮膚及皮下織ノ小細胞浸潤ヲ以テ始マリ血管ニ富メル

肉芽ヲ養生シ遂ニ象皮脚ニ陥ル同氏ハ又暑中本病ノ治療ニ抵抗スル理由ト再發スルノ原理ニ關シ左ノ説明ヲナセリ
冬間寄生蟲ノ動物體内ニ存在スルハ無害ニシテ夏候ニ至レハ外温ノ高キカ爲メ自然皮膚ニ充血ヲ起シ寄生顆粒ハ組織ニ對シテ刺戟作用ヲ逞フシ先ツ局處ニ炎症ヲ誘起シ苛烈ノ癢痒ヲ發シ動物ヲシテ斷ニス摩擦セシム是ニ於テ表皮剝脱シ悪性ノ顆粒創ヲ生シ頑トシテ治療ニ抵抗ス冬期ニ向ヒ外温降下スレハ皮膚ノ充血減シ癢痒緩解シ創傷癒合ス或ハ新生組織ハ纖維組織樣ニ變化ス
治療ニ抵抗スルノ理由ハ寄生顆粒ノ組織學的性質ヲ以テ容易ニ説明スルヲ得ヘシ蓋シ圓蟲ハ乾酪樣小塊ノ中央ニ占居ス而シテ此小塊ハ寄生體ニ比スレハ強硬ニシテ醫療物ノ透竄ヲ許サス是レ本症ノ治療ニ抵抗スル所以ナリ

發生

ひびしハ都會ニ稀有ニシテ田舎ニ多シ關東ニ於テハ千葉埼玉茨城群馬栃木神奈川ノ諸縣ニ於テ屢々發生シ九州ニ於テハ福岡熊本

大分等ニ於テ觀察セラレタリ實地家ノ報道ニ據レハ水田耕作ニ使役セラル、馬并ニ卑濕泥沼地ノ馬ニ多ク之ニ反シテ陸田、山國、乾燥地、寒國ニハ稀ナリ是ヲ以テ北海道、青森縣下三本木、七ノ戸地方ニ於テハ曾テ本症ニ接セスト本病ノ水田ニ關係スルノ事實ハ大ニ研究ヲ要スヘキ點ナリ

徵候

ひびしハ盛夏ノ候ニ發スル頑固ノ皮膚病ニシテ初起四肢若クハ下腹ノ一部ニ細小結節若クハ小創傷ヲ發ス創傷ハ直チニ潰瘍狀ニ變シ癢、痒、極テ劇ナルヲ以テ隔板、樹木等ニ患部ヲ摩擦シ或ハ自ラ之ヲ咬噬シ爲メニ病機ヲシテ増勢蔓延セシム潰瘍ハ瘍底及瘍縁ヨリ肉芽ヲ發生シ皮膚及皮下織ノ大肥厚ヲ來ス是レ本症ノ特性ナリ
創面ハ顆粒狀ヲ呈シ周圍ノ健皮ヨリ著ルシク隆起シ少シク帶赤色ノ液ヲ漏出ス此液ハ滑液ニ類シ粘滑牽縷性ニシテ惡臭ヲ放ツ創傷ノ形狀一定セス圓形、橢圓形ノモノアリ或ハ方形若クハ不正形ノモノアリ暗赤色若クハ暗褐色ヲ呈シ顆粒間若クハ創面ニハ帶黃色若クハ灰白

色ノアテ、ロ、マ、變性樣物質、石花菜ニ類アリ其大サハ帽鍬頭大ヨリ麻實大ニ至リ或ハ堆積シテ塊ヲナス常ニ創面ニ散在スルモノハ粟粒大ナリ鬆粗ニシテ破碎シ易キモノアリ或ハ漆喰狀若クハ乾酪狀ヲ呈スルモノアリ表面ニ散在スル變性物ハ輕摩擦ノ爲メニ容易ニ剝離シ深層ノモノハ空窩内又ハ硬結組織内ニ存ス

本症ノ特點ハ創狀ノ劇烈ナルニ拘ハラズ疼痛ナク却テ苛痒ヲ感シ周圍ノ淋巴管及淋巴腺ニ關係ヲ及ホサ、ルニ在リ而シテ病的機轉ハ外氣ノ溫度降ルニ從ヒ其蔓延ヲ停メ夏候ヲ過レハ漸ク癒合ニ赴ク患部ノ廣大ナルモノハ稀レニ越年ス又翌年ニ至リ再發スルモノアリ

本病ハ部位ヲ限ラス鬚甲、頸、頰、鼻、梁、顎、線、前胸、腰、尻等全身諸部ニ發生スルモ殊ニ四肢及下腹ニ多キハ前已ニ述フルカ如シ或ル獸醫ハ前肢ノ前膝(腕節)ヨリ上部ニハ發生セスト云フモ信スルニ足ラス凡テ裝具ノ摩擦、貫線、發泡藥貼用部起點トナリ炎、暑、汚泥及寄生蟲ノ刺戟ハ之ヲ誘發ス

豫後 豫後ハ患部ノ廣狹、厩舎ノ狀態、病畜ノ營養如何ニ關スルモ一般ニ輕症ハ秋冷ニ及テ輕快シ冬期ニ至リ至ク癒合スルヲ常トス然レトモ患部廣ク營養不良ナレハ漸ク羸瘦衰弱シ遂ニ虛脱ニ陥リテ斃ル厩舎ノ不潔ハ病勢ノ増悪ヲ促ス所ノ一因ナリ

療法 古來應用セシ法ハ緩和藥、灌水法、佩里設林、水銀軟膏、點狀燒烙、過格魯兒鐵液ノ塗布、石炭酸水洗滌、杜松子油、百露拔爾撒謨(三〇酒精一〇〇)發泡軟膏、硫酸銅、昇汞、砒石等ナルモ孰レモ奏功確實ナラス或ハ創面ヲ截除シ烙鐵ヲ以テ劇シク燒烙シ或ハ硝酸銀、純硫酸、發煙硝酸等ヲ施シ或ハ種々ノ內服藥ヲ試用セリ、本邦實際家ノ說ニ依レハ祖先傳來ノ秘法トシテ本症ハ鐵ヲ忌ム故ニ切除ニハ竹刀ヲ用キ燒烙ニハ石瓦ヲ使用スレハ卓效アリト云ヒ或ハ創面ニ散在セル小塊ヲ除去シ其上ニ烙鐵ヲ施スモノアリ

以上ノ如キ諸種ノ治法ヲ施スニモ拘ハラヌ夏季ハ本病ノ抵抗力強大ニシテ惡性ノ潰瘍狀ニ變シ癒創セサルヲ常トス營養不良ノ者ハ衰弱

ノ爲メ斃ル、コトアリ

柳澤氏ノ實驗ニ依レハ本症ニ於ケル顆粒小塊ハ動物體組織ニ對シテ全ク異物ノ作用ヲナスモノナリ故ニ治療法ハ主トシテ之ヲ體外ニ除去シ創傷ノ性質ヲ一變セシメサルヘカラス唯創面ニ散布セル顆粒小塊ヲ除クノミヲ以テハ到底治療ヲ期スヘカラス前ニ述フルカ如ク顆粒小塊ノ集塊ハ深部ノ空窩内ニ存シ空窩内ノ集塊ハ漸ク分離シ創面ニ散出スルモノ、如シ故ニ外科的ノ法ヲ以テ病的塊ノ窠窟ヲ截除セサルヘカラス同氏ハ此目的ヲ以テ數頭ノ患馬ニ手術ヲ施シ頗ル好結果ヲ得タリ即チ施術後一週ヲ經レハ創傷ノ狀態一變シ後チ全ク通常創傷ノ經過ヲ取リテ癒合ス小塊若シ組織内ニ遺殘スレハ決シテ癒創セヌ云々顆粒性皮炎ノ記事ハ專ラ第一回內國獸醫公會報告柳澤氏ノ演說ニ據ル

〔地〕植物寄生性皮膚病

概論 皮膚病中其本原ノ植物寄生タルヲ確證セラレタルモノ四アリ匍行疹、頭癬、白癬、傳染性膿疱、皮炎(加那陀馬痘又英吉利馬痘)及假性皮疽是ナリ

匍行疹 Herpes tonsurans (Glatzflechte)

原因 匍行疹ハ禿髮菌 Trichophyton tonsurans ニ原因ス此細菌ハ絲狀菌ニ屬シ千八百四十五年グルービー及マルムステン Gruby u. Malmstenノ兩氏ニ依テ發見セラレタリ爾後ガルラヒ氏ハ本菌カ家畜匍行疹ノ原因タルコトヲ檢證シ千八百五十七年ニ至リ牛ノ匍行疹ニ就テ一篇ノ論文ヲ公ニセリ
此病原菌ハ皮膚ノ洗淨具、取具、毛布等ノ媒介ニ藉リ他ノ動物ニ傳染シ接近ノ動物ニハ直傳シ乳子ニ在テハ哺乳ノ際傳染ス種畜ハ滿厩ノ牛群ニ之ヲ傳フルコトアリ放牧牛亦相互觸接スルコト多キヲ以テ傳染ノ本源トナリ易シ
屢之ニ罹ルモノハ牛ニシテ特ニ幼牛、哺乳犢ニ多ク犬之ニ亞ク馬、山羊、

猫ニハ少ナク豚、羊ニハ極メテ稀ナリ接種スレハ家兎ニ傳染セシムルヲ得ヘシ某牛舎又ハ某地方ニハ常在ス英、蘭、佛、瑞西ニ於テハ他國ヨリ多シト曰フ

牛、犬、馬ノ匍行疹ハ人ニ傳染シタル例頗ル多シ牧夫、搾乳者、剥皮者等往々其害ヲ被ムル犬ノ愛撫ハ屢、傳染ノ機會トナル時アリ大ニ流行スルコトアリ例之千八百四十年瑞西ノ一村アンデルフォンニ於テハ病牛ノ所有者ハ殆ント皆之ニ感染シタリ伯林高等獸醫學校ニ於テハ千八百八十七年病犬ヨリ二十人ニ傳染シタル例アリ駒場病院ニ於テモ牧夫ノ手腕ニ傳染シタルヲ見タリ

禿髮菌ノ形態及生殖 此細菌ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ菌纖及胚胞ヨリ成ルヲ見ル

(二) **菌纖** Fäden oder Hyphen 細長ニシテ厚サ約四ミクロミリメートルアリ分枝夥ク單線ヲ具ヘ或ハ連節ヲ有シ或ハ無節ナリ毛ヲ圍繞シ毛幹内ニ竄入シ菌。芝。Pflanzsen又ハ菌。網。Myceliumヲ作ル

三) 「こにぢるん」即チ胚胞

球形若クハ橢圓形ノ小體ニシテ輝
耀強ク其直徑ハ畧ホ菌織ノ直徑ニ均シク菌織ノ絞約ニ由リテ生ス間、
數多連接シテ念珠狀ヲ呈ス、こにぢるんノ數ハ概チ菌織ヨリ多ク頗ル
抵抗力ニ富ミ年餘モ發芽力ヲ存スト曰フ

此菌ハ主ラ毛囊及毛内ニ蕃殖ス蓋シ先ツ毛幹ノ下端ニ帶黃白色ノ一
層ヲ生シ次テ毛鞘及毛根ノ内ニ入り毛囊炎ヲ誘發シ以テ脫毛ヲ促ス
終ニハ毛内ニ侵入シ毛ノ實質ヲ消耗セシメ、こにぢるんノミヲ充滿ス
此菌ハ好テ暗色ノ皮膚及毛ニ蕃殖ス

グラウツツ *Graue's* 氏ニ據レハ禿髮菌ハ白癬菌ヨリモ速ニ膠培養ヲ液
化セシム又禿髮菌ハ寒天培養ニハ其初シヨシライシ *Schaenlein* 氏白癬
菌ノ如キ蕃殖ヲ呈スルモ菌網簇中ニ黃色粟粒大ノ結節狀體ヲ形成シ
網簇面ニ米粉狀ノ白粉ヲ生ス

徵候 症狀ハ動物ノ種類發疹ノ部位新陳并ニ摩擦搔爬ノ有無ニ由
テ差異ヲ生スルヲ以テ一定不變ノ徵ヲ叙シ難シ概シテ初起ハ頭頸四

肢等ニ限界判然タル圓形脫毛部若クハ斷毛部ヲ生ス當初扁豆大ナルモ次第

ニ増大シ一圓銀貨大若クハ其以上ニ達ス此禿斑ハ多クハ播種セルカ
如ク散點スルモ又湊合シテ大禿面ヲ呈スルモノアリ時アリ斑ノ中心
ハ癒ユルモ周圍ニ蔓延ス所謂輪癬 *Herpes circinatus* (Ring Hechte) 是ナリ汎
ク身體ノ大部若クハ全身ニ發シ渾身ノ毛脫出スルコト渺ナシトセス
其毛ヲ鏡檢スレハ前ニ述ヘタル「こにぢるん」及菌織ヲ見ル

禿面ハ炎症ノ痕跡ヲ呈セス或ハ種々ノ程度ニ於テ發炎ス馬ノ如キ厚
キ皮膚ニ於テハ表皮ノ落屑旺盛ニシテ灰白色ノ鱗屑ヲ生ス薄弱ノ皮
膚ニ在テハ患部ハ充血腫起ス晚期ニ至レハ水疱ヲ生シ水疱ハ破潰シ
テ厚キ痂皮ヲ結フ蓋シ成長半ニ在テハ痂皮ハ種々色ヲ異ニシ其硬度
糠草ノ如シ膿ニ在テハ白灰色ヲ帶ヒ輝裂ヲ生ス痂皮ノ厚薄ハ毛ノ疎
密ニ準シ毛ノ密生スル處ハ厚ク疎毛部ニ於テハ薄シ痂皮ノ下、化膿シ
痂皮脫落スレハ發疹自ラ癒ユ
各種ノ家畜ニ於ケル病狀ハ大約左ノ如シ

(二) 牛ノ匍行疹

ガルラヒ Gerlach 氏ニ據レハ頭頸ニ圓形ノ禿斑ヲ散點若クハ簇發ス全身ニ散漫スルハ罕ナリ各斑ハ限界劃然トシテ多少皮膚面ニ隆起シ全ク禿シテ灰白色ノ鱗片ヲ被ムリ或ハ短毛ヲ疎生シ或ハ厚痂ヲ結フ禿斑ノ大ナルモノハ掌大ニ達シ往々數多湊合ス發疹期并ニ治癒期ニハ痒覺アリ黑色ノ皮膚ニ於テハ灰白色ノ痂ハ一仙迷ノ厚サニ達スルモ白色ノ皮膚ニ於テハ薄クシテ黄色ヲ帶フ痂下ニ粘滑ナル膿樣液ト潰瘍ノ如キ小窩アルヲ見ル但シ此小窩ハ擴大化膿脫毛セル毛囊ニ外ナラス痂皮ノ下癒合機已ニ行ハレ落痂スレハ輕微ノ落屑面ヲ生シ漸クニシテ新毛ヲ生ス發疹ノ時間ハ六週乃至十二週ニ互ル摩擦搔爬ノ如キ器械的刺戟アリテ普通ノ經過ヲ礙クレハ既ニ治癒セル皮膚ノ周圍更ニ發病シ半年若クハ一年ノ長キニ渉ル

(三) 犬ノ匍行疹

主トシテ頭部四肢ニ發シ又往々全身ニ散漫ス當初限界劃然タル圓形小禿斑ヲ生シ久ヲ經レハ皮膚ノ全面處々島嶼狀ニ散立シ其直徑一二仙迷ニ至ル頭部ニ於テハ口唇眼瞼ノ周圍ニ多

ク四肢之ニ次キ叢合シテ大禿面ヲ呈スルモノ亦少ナシトセス發疹ノ部位及新陳ニ由テ禿面ノ症狀一ナラス毫モ皮膚炎ノ變狀ヲ呈セス單ニ局部脫毛ニ過キサルモノアリ或ハ灰白色石綿樣ノ鱗片ヲ被ムリ或ハ厚痂ヲ生シ毛ヲ錯綜セシムルモノアリ痂下ノ皮膚ハ銅赤色乃至褐赤色ヲ帶ヒ數多ノ稗子大ノ小結節腫大モヲ生ス時トシテ患部ハ二三密迷隆起シ其面ニ丘疹ヲ生ス最モ陳キモノハ褪色平滑トナリ些ノ糠糝狀ノ落屑ヲ帶フルノミ

(三) 馬ノ匍行疹

馬ノ匍行疹ハ概テ背鞍部ニ受十字部及腹側ニ發ス頭部ニモ發疹スルコトアリ禿斑ノ大サハ五錢白銅貨乃至一圓銀貨大若クハ其以上ニシテ圓形ヲ呈ス患部ノ毛ハ脱落若クハ斷裂シ表皮ノ落屑頗ル旺ニシテ間小痂ヲ結フ治癒後新生ノ毛ハ舊毛ヨリモ暗色ヲ帶フ

(四) 羊ノ匍行疹

ブロイエル Brauer 氏ニ據レハ頭肩胸背等ノ羊毛ハ紛糾シ糾毛ノ下糠糝狀ノ落屑若クハ痂皮アリ癢痒頗ル甚シ初期

ハ毛束處々ニ散點スルモ終ニハ大ニ脱毛ス

(五) 家禽ノ匍行疹

羽毛脱落シ乳嘴體ノ周圍大ニ充血ス

診斷

匍行疹ノ診斷ハ敢テ難シトセス播種狀ノ發疹圓形ノ禿斑灰

白色ノ痂皮鱗屑輕微ノ癢痒傳染性并ニ鏡檢上禿髮菌ノ發見ニ由テ診
決スヘシ鏡檢ヲナサント欲セハ禿斑ノ周圍ヨリ毛ヲ拔去シテ毛根ヲ
檢シ又ハ痂皮ヲ苛性加里液(10%)ニ蘸シ軟化セシメテ之ヲ檢スヘシ肉
眼的ニハ毛根ノ白層ニ注目スヘシ

犬ニ於テハ疥癬及毛囊蟲症ト誤診セラル、コトアルモ顯微鏡下ノ所
見ヲ異ニシ且此二病ニ於テハ癢痒頗ル劇ナリ牛ニ於テハ汞毒疹ト誤
認セラル、コトアルヘシ

豫後

忍耐以テ適切ノ治療ヲ施セハ治セサルモノナキヲ以テ豫後

ハ良ナリ老牛ニ於テハ間、自ラ癒ユ幼獸ノ口圍ニ發スレハ採食ヲ妨ク
ルヲ以テ營養不給ノ爲メ斃ル、コトアリ

療法

豫防法ハ患畜ヲ隔離シ厩舎ヲ潔淨消毒シ糞糞ヲ燒棄シ牧夫

ニ警誨スルニ傳染性アルヲ以テスヘシ本病療法ハ先ツ軟石礮ト微温
湯ヲ以テ痂皮鱗屑ヲ洗去シ日々數回患部ニクレタリン軟膏、硫黃軟膏、
撒里矢爾酸酒精溶液(1:10)又ハ沃度丁幾酒精等分若クハ1:5ヲ
施スヘシ石炭酸結麗阿曹篤、ナフトール、萘兒等ノ軟膏皆效アリ灰白水
銀軟膏、白降汞又ハ赤降汞ノ軟膏亦佳ナリ但シ牛ニ於テハ中毒ノ虞ア
ルヲ以テ之ヲ忌ム

白癬 Favus

原因 白癬ハ千八百三十九年ショエンライン J. Schoenlein 氏ノ發見セ
ル白癬菌(又頭癬菌) *Achorion schoenleinii* ニ由テ發ス

本病ハ犬、猫ニ發シ馬ニハ稀ナリ兎、鼠ニモ發生シ動物ヨリ人ニ傳染シ
又人ヨリ動物ニ傳染ス猫ハ白癬ニ罹レル鼠ヲ食フテ之ニ傳染スガル
ヲヒ Gerlach 氏ハ馬、牛、犬ニ鶏白癬ヲ傳ヘタルモ成功セスシ、Schütz
氏ハ純粹培養ヲ鶏ニ接種シテ成功シタルモ鼠、モルモット、鳩ニハ移植ス

ルヲ得サリキ

白癬菌ノ形態 白癬菌ハ皮膚ニ圓盤狀ノ厚痂(所謂楯 *Scutula*)ヲ生
ス痂ノ中心ハ稍凹陥ス之ヲ鏡檢スレハ菌織及胚胞ヨリ成ル所ノ菌網
ヲ見ル菌織ノ分枝頗ル錯雜平坦蔓殖連節著シク捻轉シ分枝ハ直角性
ナリ菌織間ニハ多數ノ圓形若クハ卵圓形胚胞アリ菌織ノ絞約ニ由テ
生ス此細菌ハ毛囊羽毛囊ヨリ毛若クハ羽毛ノ内部ニ侵入シ其根ヲ萎
縮シ脱落セシム菌織ト胚胞ハ又上皮細胞間ニモ蕃殖ス

クインケ Quincke 氏ハ三種ノ頭癬菌ヲ發見シタリ

徵候 (一) 哺乳動物ノ白癬 白癬ノ特徴ハ圓盤狀ノ乾痂ニシテ
中心微ク凹陥シ外面灰褐色灰黄色若クハ銀灰色ヲ帶ヒ内部ハ白色若
クハ硫黄色ヲ呈ス其大サ二十錢銀貨大乃至半仙迷ナリ此ノ如キ痂皮
ハ毛ヲ萎縮セシメ皮膚ニ扁平凹陥ヲ生ス
此疹ハ頭腹及後肢ノ外面ニ發シ猫ニ於テハ爪圍及耳ニ生ス
經過ハ良性ニシテ一二週内ニ癒ユ

(二) 家禽ノ白癬 家禽ノ白癬ハ一ニ白冠 (Weisser Kamm, Tinea galli)

ト稱スライザリング、ガルラヒ、ミラー、Leisering, Gerlach, Müllerノ三氏本
病ノ寄生性タルヲ發見シタリ其徵候ハ左ノ如シ

肉冠及耳瓣ニ微ノ如キ小斑ヲ生ス此斑次第ニ増大シ肉冠ノ全面ニ白
被ヲ生ス數月間冠部ニ限局シ厚キ痂皮ヲ生スルモ尋テ頭部ノ皮膚ヨ
リ頸背ニ蔓延シ終ニハ全身ニ波及ス之カ爲メ羽毛堅起脱落シ病禽ハ
羸瘦シ微臭ヲ放チ虚脱シテ斃ル

類症鑑別 白癬ハ圓盤狀痂ニ由テ匍行疹ヨリ鑑別ス此痂ハ専ラ

菌織ヨリ成ルモ匍行疹ニ於テハ此ノ如キ痂ヲ見ス又菌織ノ數、白癬ニ
於ケルカ如ク夥シカラス

療法 匍行疹ノ療法ニ同シ即チ痂皮ヲ軟化セシメ「クレヲリン」、昇汞、
石炭酸ノ類ヲ施スヘシ

傳染性膿疱皮炎 *Dermatitis contagiosa pustulosa.*

一名加那陀馬痘 Canadian horse-pox.

病性

加那陀馬痘ハ一ニ英吉利馬痘又ハ亞米利加馬痘トモ稱ス痘ノ名アルモ馬ノ痘。Varicellaトハ何等ノ關係モナシ全ク一種特異ノ膿疹ニシテ傳染力頗ル大ナリ其輕症ハ單ニ水泡膿疱ヲ生シ結痂スルニ過キサルモ重症ハ深ク化膿シ結節潰瘍及淋巴管ノ腫脹ヲ生ス然レトモ全身違和ナク又甚シク癢痒ヲ感セス重症ハ往々胸腹下面ノ大浮腫ヲ合併シ後體麻痺又ハ敗血症ヲ續發シテ死スルモノアリ

來歴

傳染性膿疱皮炎ハアックス(Alex)氏ノ下セシ名稱ニシテ氏ノ說ニ據レハ千八百七十七年米國加那陀ヨリ英國ニ傳播シ英國ヨリ歐洲大陸諸國ニ蔓延シ千八百七十九年ニハ諸國ニ流行シタリ當初傳染性膿疱口炎ト同症ナリト認メタルモ尋テ其非ナルヲ發見シタリ是ヨリ先キ一千八百四十一年及翌四十二年佛國軍馬ノ背肩十字部等ニ同様ノ傳染性膿疱發生シ二週日內ニ一聯隊ノ馬匹悉ク之ニ罹リ孰レモ英

國馬痘ト同一ノ症狀ヲ呈シタリ

本邦ニ於テハ明治二十九年九月頃ヨリ馬ノ急性皮疹大ニ佐賀福岡兩縣ニ流行シ熊本縣宮崎縣等ニモ傳播シ猖獗ヲ極メタリ佐賀縣歐野中氏同年十二月三日附ヲ以テ症候經過ヲ記載セル質問書ヲ寄セラレタルヲ以テ予ハ當時加那陀馬痘ナラントノ臆診ヲ下セリ(中央獸醫會雜誌第十輯卷二十九)尋テ同學今井氏ハ農商務省ノ囑託ヲ受ケ三十年一月初旬ヨリ十五日ニ至ル迄宮崎縣下ヲ巡廻シ本病ヲ調査シタリ其復命ニ據レハ十月初旬ヨリ十二月下旬ニ至ル間宮崎縣全管内ニ於テ無慮二萬餘頭ノ病馬ヲ生シタリ其傳染ノ迅速ナル皮疽ノ比ニアラス而シテ地方獸醫ノ申告ニ據レハ本病ハ牛ニモ發生ス云々(三十年二月發兌中央獸醫會雜誌)

症候

今井氏ノ觀察調査セル症候ハ大約左ノ如シ

(甲) 輕症

包皮陰囊胸帶徑肩內股四肢顔頸面等ニ帽鍬頭大乃至半錢銅貨大錢銅貨大ノ膿疱アリ帶黃灰白色ノ乾痂ヲ被ムル痂皮ヲ剝離スレハ淡黃色粘稠ノ膿流出スルヲ見ル痂皮ハ毛ニ穿通セラレ毛ノ下

端ハ痂皮ノ内面ニ突出ス膿ヲ拭淨シ疹面ヲ檢スルニ扁平ニシテ淡赤色ヲ呈シ敢テ不正ノ肉芽ヲ認メス疹縁亦不正ナラス之ヲ精檢スルニ單ニ皮膚ノ表層ノミヲ侵シ決シテ眞皮ニ達セス而シテ痒覺ナク微痛ヲ感スルモノ、如シ

膿疹全ク乾燥シ治癒ニ傾キタルモノヲ見ルニ痂皮脆弱トナリ容易ニ脱落ス此際疹面ハ灰白色ヲ呈シ薄キ表皮ヲ以テ被ハル而シテ全治シタルモノハ癩痕ヲ留メス

前記ノ症候ハ何人モ一見目撃シ得ヘシ猶ホ馬體各部ニ就テ觸診ヲ試ムルニ前胸、帶徑、其他ノ部分ニ於テ亞麻仁大乃至豌豆大ノ小結節皮膚ニ密發スルヲ認ム又陰囊、包皮、内股ノ如キ疎毛部ニモ同大ノ小隆起ヲ見ル

此他淋巴腺ノ腫脹ナク體温、脈搏、呼吸ニ異常ナク食慾、通便共ニ正常、運歩自由ナリ云々今井氏ハ水疱ヲ認メサルモ水疱ハ初起毛ニ掩ハレテ認メ難ク且速ニ膿疱ニ變スルモノナレハ水疱ノ有無ハ本病ノ診斷上

重キヲ措クニ足ラス

(乙) 重症

重症ニ於テモ亦馬體各部ニ膿疹ヲ發ス然レトモ其輕症ト異ナル點ハ軀幹ノ下部ニ浮腫ヲ發スルニアリ即チ帶徑ヨリ下腹部ニ至ルノ間約五分乃至三寸ノ高サヲ以テ浮腫ヲ起ス而シテ健部ト浮腫部ハ限界劃然タリ包皮及陰囊ニモ亦浮腫ヲ發スルモノ多シト雖モ稍硬クシテ下腹部ニ於ケルカ如ク容易ニ指壓痕ヲ留メス

浮腫部ニ於テハ必ス一箇以上ノ膿疱ヲ存ス而シテ膿疱ハ既ニ破レテ潰瘍ニ陥リタルモノ多シ

浮腫部ノ膿疱ハ疹面汚穢不正ニシテ悪性ニ變シタルモノ、如ク潰瘍ハ大小不同半錢銅貨大乃至一圓銀貨大邊縁不正ニシテ隆起シ噴火口狀ヲ呈スルモノ多ク其深サ半乃至二三仙迷濃厚ナル汚膿ヲ漏ス潰瘍ノ周圍二三仙迷ノ圈内ハ脫毛ス時トシテ浮腫部若クハ鄰部ニ鳩卵大乃至鶏卵大ノ結節ヲ存シ此結節ハ遂ニ膿瘍ニ變シ切開スレハ淡黄色ノ膿汁ヲ漏ス浮腫部就中潰瘍ヲ生シタル部分ハ温痛アリテ之ニ觸ル

トヲ忌ム

前記局處症候ノ外斯ル重症ニ於テモ淋巴腺ノ腫脹ナク又索腫ナシ
今井氏ノ檢シタル五頭ノ患馬中體温最高三八・七呼吸一分時一六乃至
二二脈搏四一乃至七五ニシテ體温ノ三九・〇以上ニ昇ルハ稀ナルヘシ
斯ノ如ク體温ノ上昇シタルモノニ於テハ皮温稍不正頭部粘膜稍潮紅
結膜帶黃赤色ヲ呈シ食思稍衰フ而シテ食慾全ク絶止シタルモノハ死
ニ轉歸ス此際鼻翼煽動呼吸困難ノ狀明カナリ

重症ハ其末期ニ及テ後體麻痺ヲ起スモノ多シ此徵ハ膿疹若クハ潰瘍
アリテ稍快方ニ傾キタルモノニ卒然發スルコトアルモ多クハ大潰瘍
及浮腫ヲ發シタルモノニ之ヲ見ル

原因 此皮膚疹ハ鞍、取具、腹帶、拭淨具等ノ媒介ニ依リ他ノ馬匹ニ傳染
ス輒近デーカホッフ及グラウキッツ Dieckhoff u. Grawitz 兩氏ハ短杆菌ヲ
純育シ之ニ傳染性、瘰癧菌、*Bacillus acne contagiosa* ノ名ヲ下シタリ時重氏
ノ實驗ニ依レハ此短杆菌ノ長サハ平均一・五乃至二ミクヲ幅之ニ一倍

半乃至二倍ス或ハ短小ニシテ卵圓形ヲ呈スルアリ中央部ニ於テ狹窄
シ宛モ分裂現象ヲ呈スルカ如ク且微ニ彎曲スルモノアリ又卵圓形ヲ
呈スルモノハ往々二箇乃至三箇側面ニ於テ相并ヒ一見雙球菌又ハ鏈
鎖球菌ノ狀ヲナス運動性ヲ有セス能ク普通ノ染料ニ著色ス芽胞ノ發
生ハ未タ目撃セズ

類症鑑別 (一) **眞性馬痘** 馬痘ハ鬃四ノミニ限局シ熱候ヲ呈
スルモ加那陀馬痘ニハ熱ナシ

(二) **皮疽** 重症ハ頗ル之ニ類スルモ皮疽ニハ水疱、膿疱ナク且治療
シ難シ

(三) **慢性膿疹性濕疹** クリニク上頗ル類似スルモ濕疹ハ傳染セ
ス且本病ノ如キ大水疱及膿疱ヲ生セス又濕疹ニ於テハ癢覺頗ル劇シ
(四) **鞍傷、馬具傷** 初起ハ之ト誤診スルコトアルモ後ニハ定型的
ノ經過ニ徴シ疑ヲ容ルヘキ所ナシ

療法 輕症ハ殆ント治療ヲ要セス患部ノ摩擦刺戟ヲ避クヘシ又豫

防ノ爲メ病馬ヲ隔離シ鞍腹帶馬具等ヲ消毒シ患馬ヲ使役スヘカラス
 重症ニ於テハ潰瘍ニ防腐藥ヲ施ス例之、クレヨリン(2%)石炭酸、昇汞硫
 酸銅皓礬水一又ハ二%等ノ如シ、大浮腫ハ患部ノ刺戟ヲ避ケス蓋ニ病
 馬ヲ使役シ潰瘍ノ防腐ヲ怠リ不潔ノ鍼ヲ以テ亂刺法ヲ施スモノニ多
 シ須ラク清潔消毒ヲ主トシブローロ氏液ノ用法ヲ命シ緩下劑利尿劑
 ヲ内服セシムヘシ

全身病

第八編 慢性體質病 Chronic constitutional diseases.

貧血及萎黃病 Anæmia et chlorosis.

名義 貧血 トハ血液全量ノ減乏スル症ニシテ紅白血球、血色素、血

漿中ノ蛋白質、鹽類并ニ水分ハ孰レモ減少ス

萎黃病 ハ血中、ヘーモグロビン、Haemoglobinノ量減少スル症ニシ

テ白血球、蛋白質等ノ如キ他ノ血液成分ハ依然トシテ存ス人類ニ在テ
 ハ婚嫁期ノ婦人ニ多キモ我家畜ニハ眞ノ萎黃病アルヤ否ヤ未タ精確
 ニ觀察シタルモノナシ獸醫術上貧血ト萎黃病トハ屢、同意義ニ用キラ
 ル、コトアリ

原因 先天性ノ貧血頗ル多ク幼穉ノ犬、猫、豚、及牛馬ノ貧血ハ概テ先
 天性ナリ凡ソ愛護過度ノ犬、早成、肥養ノ牛及上等種ノ胤豚ハ貧血ノ素
 因ヲ有ス一時ノ大出血若クハ反復ノ亡血、營養不給等ハ主因ニシテ續
 發貧血ハ許多ノ急性病并ニ慢性病及ヒ勞働過度、分娩、體液亡失等ノ場

合ニ發ス

徵候 皮膚并ニ粘膜ハ蒼白色ヲ呈シ病獸ハ倦怠、虛弱ニシテ輕役ニ服スルモ疲勞シ易ク心悸亢進、呼吸疾速、脈搏細弱ニシテ體温間、低ク心臟雜音ヲ聽ク食慾不振、消化不良、筋肉弛緩ニシテ四肢ハ浮腫ヲ發シ易シ

經過 緩慢ナルモ治スルモノ少ナシトセス

剖檢 諸臟器ハ血液ニ乏シク血液ハ蒼白ニシテ水ノ如ク能ク凝固セス心臟大血管ハ開、小ニシテ心筋、肝、腎等ハ往々脂化ス

診斷 貧血ノ要徵ハ口粘膜、結膜、陰門粘膜等ノ蒼白色ナリトス血液中、ヘーモグロビンノ含量ヲ理學的ニ測定スルノ法アルモ實地家ノ應用ニ便ナラス

療法 專ラ滋養易化ノ食ヲ給シ管理ニ注意シ主藥トシテ鐵劑ヲ用フヘシ即チ鐵粉若クハ硫酸鐵二三瓦ヲ食鹽ニ伍シ牛馬ノ食ニ混ヌ犬ニハ林檎鐵丁幾數滴ヲ適宜ノ水ニ混シテ與フ例之林檎鐵丁幾五〇蒸

縮水二五〇〇日々二回一茶匙ヲ投ス鐵劑ノ他砒石製劑法列兒水及苦味藥ヲ處スルコトアリ幼獸ニハ磷酸石灰ヲ試ムヘシ

惡性貧血 *Anaemia perniciosa.*

原因 惡性貧血ハ特異ノ純性貧血ニシテ之ニ罹ルモノハ概テ死ヲ免レヌ主ラ成長獸ニ生ヌ其本原ハ未タ審ナラサルモ傳染若クハ中毒ニ原由スルモノ、如シシヨッケ *Zscholke* 氏ハ同一厩舎ノ馬數頭之ニ罹ルヲ見タリ素因ハ過度ノ勞働、瀰久ノ繋畜、既往ノ肺炎等ナリ牛ニモ地方性ノ惡性貧血アリ續發性ノ大貧血ハ寄生蟲病、慢性化膿等ノ場合ニ發ス例之犬、猫ノ「ドクミアス」症 *Dochmiasis* 羊ノ胃蟲「ストロンギラス」、コントルタス「仔馬ノ盲腸ニ生スル」ストロンギラス、テトラカンタス *Stenogylus tetracanthus* ノ如シ這般ノ續發貧血ハ固ヨリ獨立ノ症ニアラス近時ボンフキタ *Ponfik* 氏ハ佩里設林「ピロガリク」酸「ヘーモグロビン」溶液ノ如キ血液溶解劑ヲ反復靜脈内ニ注射シテ人工的惡性貧血ヲ發スル

ヲ得タリ之ニ依テ察スレハ本病ハ血色素分離症即チヘーモグロビン
ニアミア Hemoglobinemia ニ外ナラサルモノ、如シ

剖検 一般貧血ノ微アリ則チ血液ハ稀薄ニシテ水ノ如ク紅血球ハ
淡色ニシテ正形ヲ失シ細長、多稜形、ビスケット形、鼓棒子形等ヲ呈シ數多
ノ小細胞 Mikrocyten 及巨大細胞 Makrocyten ヲ混シ(斯ノ如キ血液ノ變化
ヲ總稱シテ Poikilocytose ト謂フ)血中ヘーモグロビンノ量ハ大ニ減少
セリ

心筋質、血管、筋肉、肝、腎等ノ脂化并ニ漿液膜下、筋肉及諸大腺ノ出血、肝脾
ノ腫脹、骨髓ノ細胞浸潤等ヲ見ル但シ血液ヲ除クノ外一臟器特ニ重症
ヲ發スルモノナシ

徴候 本病ハ倦怠衰弱ノ徴ヲ以テ徐ロニ發シ來ルカ故ニ初期ハ看
過シ易シ或ハ呼吸器加答兒ノ狀ヲ以テ起リ(咳嗽、鼻漏アリ)或ハ突然高
度ノ熱ヲ發ス粘膜ハ初期黃色ヲ帶フルコトアルモ每常必ス蒼白ナリ
食慾及營養ハ往々久シク佳良ナルモ(一奇徴)倦怠疲勞ハ日ニ加ハリ發

汗シ易シ本病ノ熱ハ頑固ニシテ諸藥ニ抵抗ス脈搏頻數、心音不純ニシ
テ雜音ヲ呈ス別ニ局處病ヲ認メス血液ヲ檢スレハ前ニ述タル Poikilo-
cytosis ノ變狀ヲ見ル晚期ニ至レハ羸瘦益、甚シク年月ノ久シキ高熱持
續シ終ニ瘦削シテ斃ル死ニ先タチ麻痺ノ徴ヲ發スルコトアリ

類症鑑別 血液ヲ檢スレハ診斷ヲ確定スルニ足ル蓋シ頸靜脈ヲ
刺絡シテ血液ノ流出スルヤ否ヤ直チニ之ヲ檢スヘシ血液ハ久シク放
置スヘカラス又之ニ蒸餾水ヲ加フヘカラス察病上原發器臟病ノ缺如、
高度ノ貧血及ヒ間歇性ノ大熱ニ注意スヘシ白血球ハ増加セス淋巴腺
ハ腫大セス且白血梗塞ナキヲ以テ白血病ト混同スルコトナカルヘ
シ

療法 普通貧血ニ於ケルカ如ク鐵劑ヲ主藥トナス即チ鐵粉二〇乃
至五〇ヲ食鹽及芳香藥ニ伍用シ或ハ硫酸鐵二乃至五瓦ヲ炭酸加里及
苦味芳香藥ニ混和ス馬ニハ法列兒水日々十瓦ヲ與ヘ漸次增量シテ五
十瓦ニ至ル又解熱劑トシテ安知必林安知歌貌林規尼涅等ヲ試用シ病

畜ハ休業セシメ滋養食ヲ給スヘシ

附「スーラ」Surra.

「スーラ」ハ印度ノ馬ニ發スル一種ノ悪性貧血ニシテエヴァンス及
ブールケ Evans and Burke 兩氏ニ據レハ血液中ニ運動活潑ナル原
蟲 Haematomonus Evansiノ寄生スルニ由ルブールケ氏ハ此ノ原蟲ニ
Plasmodium malarie ノ名ヲ下シ間歇熱ノ一種ナリト曰フ東京地方
ニ於テハ同様ノ「マラリア」性貧血ハ鹽ニ發スト曰フ

水血病又稀血症 Hydræmia.

水血病トハ血液ノ水分ニ富ミ水腫ヲ發シ易キ病症ヲ謂フ水腫ニ器械
的、炎性及稀血性水腫ノ別アリ
器械的水腫 ハ心肺、肝腎ノ疾病ノ爲メ血液ノ鬱積スルニ由テ發
ス

炎症性水腫 ハ炎症ニ伴フテ發生スルモノニシテ副水腫ノ一名アリ

稀血性水腫 ハ血液ノ水分ニ富ムト脈管壁ノ變性スルトニ原ツ

ク今茲ニハ主トシテ稀血性水腫ヲ論スヘシ

全身水腫ハ肝蛭病ノ一徵トシテ羊ニ頻發ス寄生蟲ニ原由セサル水腫
モ亦羊豚ノ貧血ノ經過中ニ發ス羊ノ非寄生性水腫ハ臨牀上重要ノ關
係アルヲ以テ特ニ一論スヘシ製糖所ノ牛馬并ニ單ニ馬鈴薯ノ酒粕ヲ
喫セル牛ノ蜂窠織水腫モ亦實地上重要ノ症トス

原因 稀血性水腫ノ原因ハ概シテ貧血ニ同シ則チ遺傳素因及營養
不良ヲ主要ノ原因ナリトス

徵候 水腫ハ部位ニ由テ名ヲ異ニス皮膚水腫 Anasarca 腹水 Ascites
胸水 Hydrothorax 心囊水腫 Hydropericardium ノ如キ是ナリ皮膚ノ水腫ハ
專ラ身體ノ下部ニ發ス例之四肢、胸腹ノ下面、陰囊等ノ如シ羊ハ放牧中
頭ヲ垂ル、ヲ以テ水腫ハ頭部殊ニ願ニ發ス蓋シ皮膚ハ腫脹シ粘韌ニ

シテ、指ノ壓痕ヲ留メ、熱痛ヲ帶ヒス病羊ハ倦怠シ粘膜蒼白ニシテ浮腫シ脈搏細弱呼吸短促消化不良ナリ

剖檢 血液ハ稀薄ニシテ水ノ如ク體內諸腔并ニ皮下織ニ水様ノ液蓄積ス該液ハ透明無色又ハ淡黃色ノ漿液ニシテ蛋白質ニ乏シク凝固セヌ少許ノ内皮細胞及白血球ヲ含ムノミ

(二) 羊ノ水血病一名水性惡液 Hydræmy of sheep,

Cachexia aquosa.

名義 水性惡液ハ慢性貧血ニ水腫ヲ兼發スル症ニシテ「ロット」腐病 Rot, Fauleノ俗名アリ凡ソ衰弱、貧血ニ水腫ヲ兼發スル疾病ハ皆「ロット」ト稱シ往昔ハ牛ノ結核病、羊ノ肝蛭、胃蟲及絛蟲ニマテ此名ヲ濫用シタルモ寄生蟲ニ因ラサル慢性貧血亦渺ナカラスフリードベルゲル *Friedberger* 氏ハ其名義ヲ一定シテ曰ク「ロット」ハ非寄生性ノ體質病ニシテ慢性貧血ニ全身水腫ヲ併發スルモノナリ學術上水性惡液ノ名ヲ妥當ナ

リトス

原因 主要ノ原因ニアリ即チ左ノ如シ

(一) 營養不給 泥沼地若クハ砂地ノ牧場粗惡變敗ノ食、不良ノ厩舎不當ノ管理

(二) 天候不順 連日ノ霖雨、濕潤ノ牧場、飢饉凶年

本病ハ多雨ノ年洪水汎濫ノ後ニ多シ續發性水性惡液ハ慢性消化器病肝蛭、絛蟲、腸壁寄生蟲 *Oesophagolomia colombianum* 等ニ由ル

剖檢 屍體ハ大貧血ニシテ血液ハ肉汁ノ如シ皮下結締織ハ浮腫シ筋肉弛緩蒼白ニシテ諸内臟亦蒼白色ヲ帶ヒ體內諸腔ハ清澄淡黃色ノ滲漏液ヲ含ム

徵候 食慾不定、倦怠、衰弱、行步踉蹌トシテ次第ニ羸瘦ス結膜蒼白ニシテ浮腫シ内眦ニ粘液ヲ湛ユ皮膚亦蒼白ニシテ恰モ蠟ノ如ク羊毛ハ脆クシテ脱落シ易シ心悸、脈搏俱ニ亢進シ顎凹、咽喉及頸、胸、腹ノ下面ニ浮腫ヲ發シ終ニ腹水ヲ生シ下痢、衰憊シテ斃ル

経過 緩慢數ヶ月ヨリ一年餘ニ亙ル

療法 營養ノ改良ニ注意シ專ラ穀類及良乾草ヲ與ヘ鐵劑、食鹽、石灰鹽類及苦味芳香藥ヲ處スヘシ

處方

- 食鹽 五〇〇.〇
- 健質亞那根末 各二五〇.〇
- 白芷根末 一〇〇.〇
- 硫酸鐵 一〇〇.〇
- 亞麻仁末及水 適宜
- 右混和軟紙劑トナシ百頭ノ羊ニ分與ス

(三) 牛ノ水血病又蜂巢織水腫 Hydræmy of cattle.

原因 牛ノ慢性水血病所謂蜂巢織水腫ハ不斷水分過多ノ食ヲ喫スルヨリ來ル製糖所ニ使役セラル、牛馬ノ地方性ノ全身水腫ハ水分ニ

富メル甜菜ノ搾滓ヲ過食スルニ因ル蓋シ此搾滓ハ九十五%ノ水分ヲ含ミ乾燥物質ハ僅ニ五%ニ過キス其中窒素質ハ〇.五%アルノミ一方ニハ此ノ如キ窒素分ニ乏シキ食餌ノミヲ單給シ一方ニハ過度ノ勞役ニ服セシムレハ遂ニ水血病ヲ來スハ敢テ怪ムニ足ラス

剖檢 製糖所ノ牛、全身水腫ニ罹リテ斃ル、トキハ死後強直ヲ來サス全身諸筋ハ淡色ヲ帶ヒテ弛緩ス皮下及筋肉間結締織ハ漿液ヲ浸潤シ體內諸腔ニハ滲漏液蓄積シ内臟ハ萎縮シ蒼白ニシテ脂肪ニ乏シク腦ニ浮腫アリ腸ハ概テ慢性加答兒ノ變狀ヲ呈ス

症候 製糖所ノ制牛ニ於テハ病徵ハ徐々ニ發シ來ル初メ倦怠、疲勞シ粘膜蒼白ニシテ食慾佳良ナルニモ拘ハラヌ營養不良、毛皮粗剛トナリ水様ノ尿多量ヲ排泄ス晚期ニ至レハ消化次第ニ不良トナリ交、便秘ト下痢ヲ發シ涎ヲ流シ四肢ニ水腫ヲ來シ歩行常ヲ失シ往々胸腹ノ下面及胸垂ノ浮腫并ニ腹水ヲ生シ之レカ爲メ腹圍頗ル増大スルコトアリ終ニ病牛ハ伏臥シテ起ツ能ハス虚脱シテ三ヶ月乃至六ヶ月ノ間ニ

斃ル但シ初期ニ適當ノ處置ヲ施セハ治スルヲ得ヘシ
療法 先ツ病原ヲ除クヘシ乃チ不適ノ食ヲ廢シ乾燥食ヲ與フレハ
 時期晚キニ失セサルモノハ治スルヲ得ヘシ對症療法トシテハ利尿劑
 及下劑ヲ要ス須ラク腹水及胸水ノ療法ヲ參照スヘシ

白血病 Leucemia.

名義 白血病トハ血液ノ性質一變シ白血球ノ數ハ永久大ニ増加ス
 ル症ナリ通常紅白血球ノ比例ハ平均一ニ付三百五十(1:350)ナリ然ル
 ニ白血病ニ在テハ此比例一變シ一ニ付五十乃至二十若クハ十(1:50.
 20:10)甚シキハ一ト二ノ割合トナルコトアリ白血球ノ出所ニ隨テ白血
 病ニ三種ノ別アリ

- (一) **脾臟性白血病** Lincal form 脾臟ノ成形過多ニ由ルモノニシ
 テ白血球ハ稍太ク數多ノ核ヲ含ムヲ以テ他ノ種類ト鑑別スルニ足ル
- (二) **淋巴性白血病** Lymphatic form 體內淋巴腺ノ成形過多ニ原ツク

(三) **骨髓性白血病** Myelogen form 骨髓ノ成形過多ニ由テ生ス

發生 家畜ノ白血病ハ從來人ノ信スルカ如ク稀有ノ病ニアラス、牛
 馬、犬豚、猫ニ於テ觀察セラレタルノ例少ナシトセス、羊、山羊ニ於テハ未
 タ確ナル實例アルヲ聞カス

原因 家畜白血病ノ原因ハ人類ニ於ケルヨリモ一層明瞭ナラス人
 ニ在テハ憂愁、間歇熱、梅毒并ニ衰弱ヲ來ス所ノ諸感作ヲ以テ原因上ノ
 關係アリト曰フモ近時傳染說ヲ主張シ血液製造器タル脾臟、淋巴腺及
 赤色骨髓ノ原病ト做ス從來接種試驗ハ無效ナリシモ未タ以テ傳染說
 ヲ否定スルニ足ラス

剖檢 白血球ノ增多ヲ主要ノ變化トナス其他血液ハ諸種ノ異常ヲ
 呈ス蓋シ血液ハ蒼白ニシテ之ニ手ヲ觸ル、モ僅ニ染色スルノミ是ヲ
 以テ白血ノ稱アリ

血液ノ凝固ハ遅徐ニシテ炎皮、豚脂ト血餅トノ間ニ灰白色膿樣ノ一層
 ヲ生ス脾臟ハ間、白色膿樣ノ血液ヲ含ム心臟及大血管ノ血液凝塊ハ柔

軟粘稠ニシテ膿ノ性質ヲ帶ヒ幾ント白血球ノミヨリ成ル紅血球減乏ノ爲メ血液ノ比重ハ一〇五五ノモノ一〇四〇ニ減シ異常物ヲ含ム例之蟻酸、醋酸、乳酸、尿酸、キサンチン、Xanthin、ヒポキサンチン、Hypoxanthin、ロイチン、Leucin 等ノ如シ

白血球ニ種々ノ變態アリ其少數ハ常ノ如ク顆粒ヲ含ムモ多數ハ透明ニシテ胎生細胞ノ定型ヲ呈ス又脂肪顆粒ヲ含ミテ壞死シ若クハ有核ニシテ血色素ニ染リタル白血球アリ或ハ兩種中間ノ形態ヲ顯ハスモノアリ

脾臟性白血病ニ於テハ脾臟ハ平素ノ二三倍以上ニ増大シ五倍十倍乃至五十倍ノ重量アリ脾臟ハ鈍圓ニシテ其實質ハ硬ク濾胞ハ間腫大シテ豆大トナルモ其顯微鏡的構造ハ常ニ異ナラス

淋巴性白血病ニ於テハ頭部、頸、肢、胸、腹腔内ノ淋巴腺ハ腫大シ間腫大ノ狀トナル腸ノパイエル氏腺及孤腺ハ殆ント腫大セス此種ノ白血病ハ屢脾臟性ト合併ス

骨髓性白血病ニ於テハ骨髓ノ彌蔓性成形過多及細胞浸潤ヲ見ル膿樣骨髓白血病 Pyoid form ニ於テハ骨髓ハ殆ント白血梗塞、諸臟器ノ淋巴樣ノ新生、肝、脾、腎、漿液膜、粘膜、子宮、膀胱、及處々ノ出血ヲ見ル白血梗塞トハ白血球カ組織内ニ汎ク浸潤スルモノヲ曰フ例之氣管枝及血管ヲ圍繞シテ灰白色ノ一層ヲ生スルカ如シ淋巴樣新生トハ淋巴腺ノ如キ組織造構ヲ具フル所ノ限局腫瘍ヲ曰フ

徵候 顯著ノ症狀ナシ病畜ハ倦怠、疲勞、發汗シ易ク往々眩暈ヲ發ス尋テ粘膜及皮膚ハ蒼白色ニ變シ心悸、疾速、脈搏細數、不正、心臟部ニ貧血性雜音ヲ聽ク或ル場合ニ於テハ體表ノ淋巴腺、兩側トモ悉ク腫大ス他ノ場合ニ於テハ咽背淋巴腺獨リ腫脹スルノミ馬ニ於テハ左腋部ヨリ脾臟ノ腫脹ニ觸レ得ルコトアリ食慾ハ久シク常ニ異ナラス末期ニ至リテ始メテ減シ且下痢ス又鼻腔、腸及膀胱ヨリ出血シ全身水腫ヲ發スルコトアリ特ニ一臟器ノ疾病ナキヲ特徵トス診斷ハ血液ヲ鏡檢シテ決スヘシ但シ血液ハ靜脈ヲ刺シ若クハ皮膚ヲ截テ之ヲ採リ流出スル

ヤ否ヤ何物ヲモ加ヘスシテ直チニ檢スヘシ

經過 緩慢年月ノ久シキニ互ル生前ノ微確定セサルヲ以テ多クハ死後ニ及テ之ヲ發見ス豫後ハ不良ナリ

類症鑑別 **白血球增多症** Leucocytosis ハ一時ノ現象ニシテ産後、刺絡後、喫食後并ニ炎症病及鼻疽ニ發ス然ルニ眞ノ白血病ニ於テハ永久白血球ノ增多ヲ見ル故ニ注意スレハ之ト誤診スルコトナカルヘシ

療法 多クハ功ヲ奏シ難シ飼養管理ノ法ヲ改良シ鐵劑ヲ與ヘ砒石、規尼涅ヲ試用スヘシ

假性白血病 Pseudoleucemia.

舊名**惡性淋巴肉腫** Malignant Lymphosarcom.

假性白血病ハ慢性ノ體質病ニシテ淋巴腺ノ腫大ヲ來スノ點ハ頗ル白血病ニ類スルモ白血球增多セサルヲ以テ之ニ異ナレリ此症ハ犬ニ鮮

ナカラヌ馬ニモ屢々觀察セラレタリ原因ハ不明ナルモ傳染ノ疑ヲ抱クモノアリ又假性白血病ハ漸次眞性ニ轉シタル例アリ

症候 顎凹又ハ耳下腺下ノ淋巴腺先ツ腫脹シ次テ重性貧血ノ徵ヲ發ス腺腫ハ每常必發ノ徵ニアラスシテ時アリ之ヲ缺ク故ニ腺腫ヨリモ營養變調ニ重キヲ措クヘシ蓋シ病畜ハ虛弱ニシテ神心振ハス、毛皮粗剛、食慾不定、便通時々遲滯又ハ下痢シ粘膜蒼白ニシテ衰弱ハ日ヲ逐フテ加ハリ四肢ニ浮腫ヲ發シ稀ニハ口内ニ水疱ヲ生ス皮膚ノ諸部ニ頑固ノ癢痒ヲ惱ムモノアリ

經過 八ヶ月、一年若クハ一年半ヲ經テ惡液質ニ陷ル

剖檢 大瘦削ノ外淋巴腺及腸ノ淋巴濾胞ノ腫脹ヲ見ル血液ニ變化ナシ

診斷 本病ハ徐ロニ發シ無熱ノ經過ヲ取ルヲ以テ察病頗ル難シ顎凹又ハ耳下腺下ノ腺腫ハ診斷ノ一助トナスニ足ル此徵ヲ缺クトキハ慢性ノ營養變調ニ據リテ病性ヲ察スヘシ腹腔内ノ肉腫及癌腫ハ畧ホ

同一ノ徴ヲ呈スルヲ以テ生前鑑別シ難シ
療法 本病ハ不治症ナルヲ以テ治療功ヲ奏セス僅ニ試ムヘキモノ
ハ砒石及沃度ノ製劑アルノミ

血友病 Hemophilia, Die Bluterkrankheit (獨)

病性 血友病ハ先天性出血素質 Hemorrhagic diathesis ニシテ輕

微ノ創傷タモ急チ危險ノ大出血ヲ來シ間、大出血ヲ特發スル傾向アル
モ特發出血ハ外傷ニ續テ起ルヲ常トス此症ハ敗血病、血斑病、白血病、惡
性貧血及寄生蟲病 犬ノ「ドク」
アスレノ如キノ經過中ニ生スル續發性出血ニ異ナ
レリ

原因 誘因ハ外傷ニシテ皮膚ノ淺キ創傷、瘻管又ハ去勢創ノ截開串
線打膿法、去勢術、水疝ノ潰瘍等ヨリ大ニ出血ス從來馬ニ於テ發見セラ
レタルノミ本原ハ未タ審ナラス人ニ於テハ往々動脈内膜ノ菲薄、大血
管ノ狹隘並ニ血管系統ノ成形不全ヲ認メタリ或ハ血管ノ異常充血ニ

因ルト曰フモノアリ人ニ在テハ遺傳ス其一族ヲ出血族ト稱スデーカ
ホッフ氏ハ本原ヲ中毒ニ歸スルモノフリードベルグ氏等ハ此說ヲ信セ
ス

症候 出血前ハ何等ノ兆ヲモ認メス負傷ニ遇フテ初メテ本病アル
ヲ知ル小創ヨリ多量ノ血液斷ニス溢出シテ恰モ海绵ノ水ヲ壓搾スル
カ如シ種々ノ止血法ヲ施スモ出血ハ數時若クハ數日間敢テ止マヌ血
液ハ遂ニ水樣トナリ凝固セス粘膜炎、脈搏頻數、疲勞、衰弱愈、加ハリ遂
ニ亡血ノ爲メ斃ル

豫後 不良ナリ特發出血ハ未タ家畜ニ於テ觀察セス

療法 豫防法ハ注意シテ負傷ヲ避クルニ在リ出血ハ壓迫、栓塞、結紮
ヲ以テ之ヲ止メ又一半格魯兒鐵、單寧、明礬、烙鐵等ヲ試ミ内用ハ麥角、鉛
糖ノ類ヲ用ユヘシ

失荷兒陪屈 Scorbutus, Skorbut (獨)

名義 失荷兒陪屈ハ出血病ニシテ皮膚ノ出血ニ齒齦ノ炎腫出血潰爛性齒齦炎ヲ續發シ又皮下、筋肉間、粘膜炎及内臓ノ出血ヲ兼發シ肺炎、胸膜炎、關節炎等ヲ合併ス往時人ノ失荷兒陪屈ハ舟師并ニ戰軍ノ圍ヲ受ケタル市府ノ住民ニ發シ現今尙ホ獄舎、兵營等ニ特發ス恐ラク傳染性ヲ帶フルモノナラン近年一種ノ桿菌ヲ發見シタルモノアルモ果シテ病原菌ナルヤ否ヤ未タ疑ヲ免レス古人ノ主因ナリト信シタル營養不良、住所不適、天候不順、航海中蔬菜ノ缺乏ノ如キハ素因ニ過キサルヘシガルロード Garrod氏ハ加里鹽類ノ缺乏ニ基因スト云フモ信スルニ足ラス

家畜ノ中本病ハ豚ト犬トニ於テ確認セラレタリ豚ノ所謂 Borstenkäule 粗毛癩是ナリ古人ハ齒齦ノ出血ニハ病性ノ如何ヲ問ハス孰レモ失荷兒陪屈ノ名ヲ下シタルハ固ヨリ非ナリ典籍上ノ所謂失荷兒陪屈ハ犬ノ潰爛性口炎、敗血及中毒症、馬ノ血斑病及敗血病、羊、山羊ノ貧血并ニ尙儂病ヲ誤認セルモノ太々多シ本病ハ犬ニ於テモ稀有ニシテ馬、羊等ニ

ハ未タ適例ヲ見ス

原因 豚ニ於テハ營養不良、圍舎ノ濕潤、不健康、通氣不良、運動不足等ヲ素因ナリトスコルネヅン Cornavin 氏等ハ羅斯疫ヲ誘因ト認ム真因ハ未タ審ナラサルモ傳染性ト看做スモノ多シ

症候 倦怠及食思減損ヲ以テ發シ來リ次テ齒齦ハ紫色ヲ呈シ漸クニシテ失色シ容易ニ出血ス齒牙弛緩脱落シ(所謂牙疳)涎ヲ流シ口内惡臭ヲ放ツ之ト同時ニ豚ノ剛毛ハ脱落シ毛根ハ血ヲ帶フ犬豚俱ニ皮膚ニ藍赤色ノ血斑ヲ發シ時トシテ關節腫脹ヲ來ス犬ハ齒齦出血ノ外血、前房及網膜ノ出血、及胃腸出血ヲ來シ麻痺下痢シテ斃ル

剖檢 皮膚、皮下織、粘膜炎、漿液膜下、腦等ノ出血ヲ見ル血液ハ失色シテ能ク凝固セズ

療法 食物及住所ヲ改良シ苦味收斂藥ヲ處ス例之健質亞那、檳皮、規那等ノ如シ又鐵劑及果實(豚ニハ櫻栗實ヲ與ヘ犬ニハ肉越幾斯ヲ葡萄酒ニ混シテ與フ人醫ハ枸櫞汁及新鮮ノ蔬菜ヲ賞用ス)

痛風一名尿酸性關節炎 Gout, Arthritis urica, Die Gicht(獨)

病性 痛風トハ血中ノ尿酸含量增多シ關節ニ尿酸及尿酸鹽類ヲ沈著スル症ナリ時アリ内臟ニモ之ヲ沈著ス家畜ノ中鶏鳩吐殺鷄駝鳥等ニ發ス老鳥ハ其素因ヲ有スルモノ、如シ犬ニハ一ノ實例アルノミ本邦ニ於テハ三重縣ノ獸醫谷輪某明治二十九年十月本病ノ病的標本ヲ時重學士ニ寄セテ其研究ヲ乞ヒ尿酸血症ノ鑑定初メテ成レリ是ヨリ先キ二十六年中神谷氏モ同一ノ病鶏ヲ見タリト云フ(二十九年十一月發兌中央獸醫會雜)元來鳥類ノ糞ハ尿酸ニ富ムヲ以テ其排泄減スルトキハ本病ヲ發スルモノ、如シエプスタイン Eusebius 氏ハ鳥類ノ輸尿管ヲ結紮シテ人工的ニ此病ヲ發生セシメタリ此他原因ニ關シテハ未タ闡明スル所ナシ人ニ於テハ遺傳營養過多酒類暴飲寒冒等ヲ主因トナス人ニ於テ尿酸ノ製造增多スルヤ血中尿酸ノ排泄障礙セラレ、ヤ否ヤ未タ審ナラスエプスタイン氏ニ據レハ血中ニ非常ニ多量ノ酸性成分アリテ尿

酸ヲ組織中ニ排泄ス而シテ尿酸ハ腐蝕作用アルヲ以テ組織ノ壞死ヲ致シ遂ニ結晶スト曰フ

症候 家禽ニ於テハ跗前關節趾關節及跗關節ノ發病最モ多ク且ツ

最モ劇ナリ腕前腕及肘ノ諸關節モ亦痛風ニ罹ルコトアリ前ニ述ヘタル關節ノ腫脹ハ當初柔軟ニシテ疼痛ヲ帶ヒ次第ニ增大限局シ跗前關節下側ノ如キハ豌豆大乃至榛實大ノ黃色結節ヲ發シ概シテ硬キモ一二ノ點波動シ熱痛ヲ帶ヒ又往々赤暈ヲ匝ラス腫瘍上ノ上皮ハ肥厚シテ落屑ス此腫瘍ハ往々破潰シ灰黃色ノ豚脂様物ヲ漏ラス之ヲ檢スレハ主トシテ尿酸及尿酸安母尼亞及尿酸石灰ノ結晶ヨリ成ルヲ見ル關節端ハ壞死剝脫シ或ハ關節剛直ヲ來シ爲メニ趾ハ彎曲肥厚ス隄ニ沿フテモ同一ノ腫瘍ヲ見ルコトアリ之ヲ觸診スルニ結石ニ觸ル、ノ感アリ

全身違和ノ狀亦存シ患脚ヲ以テ起立歩行スル能ハス從ツテ運動ヲ忌避シ漸次羸弱貧血トナリ肉冠ハ蒼白色ヲ呈シ溶崩性下痢ヲ發シ終ニ

膵ル内臟痛風ハ解剖スルニアラサレハ診定スルヲ得ヌ剖檢上胸腹腔ノ漿液膜面血管外膜心囊腸肝脾并ニ皮下ニ無數ノ石灰樣小結節及沈著物ヲ見ルヘシ犬ニ於テハ諸關節殊ニ肋骨端ニ尿酸那篤留滯ヲ含メル結節ヲ生シタル一例アリ

診斷 此關節炎ハ結核性關節炎ト誤診サレ易シ顯微鏡的檢査及化學的分析法ニ依テ診査ヲ確ムヘシ鏡檢上細小ノ鍼狀結晶又ハ斜方柱狀結晶ヲ認ムヘシ經過ノ緩慢亦注目ヲ要ス

療法 外科的療法ヲ主トス則チ關節ノ化膿スルモノハ切開スヘシ内用ニハ加兒爾斯泉鹽刀尖量ヲ飲水ニ混シテ與フ人ニ於テモ尿酸溶解劑トシテ之ヲ賞用ス

糖尿病 Diabetes mellitus, Die Zuckerharuh.

病性 尿中一時葡萄糖ヲ混スルモノヲ糖尿症 Glycosuria, Mellituriaト稱シ永久多量ノ糖分ヲ尿中ニ混スル症ヲ糖尿病 Diabetes mellitusト名ク

糖分ノ痕跡ハ健全ナル牛羊ノ尿ニモ存ス授乳ノ牝犬ハ乳ノ分泌中止後ハ尿中ニ乳糖ヲ含ム所謂乳糖尿 Lactosuria 是ナリ糖尿病ノ本性ニ關シテハ諸大家ノ研究未タ盡サ、ル所アルモ蛋白尿ノ如ク諸病ノ一徵候ニ過キサルヘシ組織ノ新陳代謝障礙セラレハ血中ノ糖分ハ分解セラレスシテ排泄セラルヘシ乃チ糖尿病ハ原ト糖血症 Glycaemiaタルヲ知ルヘシ糖ノ本原ハ營養トシテ體內ニ攝取セル炭化水素質及分解シタル蛋白質ニ在ルヲ以テ糖尿病ノ發生上肝臟製糖作用ノ亢進大ニ與リテ力アリ人ノ血液ハ平常〇〇五%ノ糖分ヲ含ムモ糖尿病ニ罹レハ一%マテ増量ス

發生 家畜ノ中眞ノ糖尿病ハ犬ニ於テ屢々觀察セラレタリ馬ニモ二三ノ疑ナキ實例アリ他ノ家畜ニハ稀有ナルカ如シ

糖尿學說

(一)神經性糖尿病 千八百四十九年クロード、ベルナード G. Bernard 氏見ノ腦四室ノ底面ニ於テ迷走神經起根ノ附近ヲ刺傷シテ人工的ニ暫時

性ノ糖尿症ヲ發生セシメタリシツフ *Smith* 氏及他ノ生理學者ハ神經中樞ノ他部ヲ刺傷シテ人工的糖尿ヲ起サシメタリ例之小腦蟲線垂ノ後葉又ハ脊髓ノ膈神經起根ノ附近ヲ傷ケ或ハ交感神經ノ下頸神經節、脊椎神經叢及終末頸神經ヲ切斷シ肋間神經ヲ刺戟スルカ如シ人醫ノ臨牀實驗ノ成績ハ之ト符合シ頭蓋骨折、腦震盪、腦脊髓膜炎、癲癇、精神病等ニ於テハ往々尿中ニ糖分アルヲ見ル又莫兒比涅、硝酸、アミール、酸化炭素、依的兒、矢毒等ノ中毒ニ於テモ一時糖尿症ヲ發ス此般ノ事實ニ基キ神經性糖尿病ハ尿管運動神經及交感神經ノ官能的神經病ト看做サレタリ

(二) 肝臟性糖尿病

肝臟ノ官能障害ニ原由スト曰フ往年クロード、ベルナード氏業ニ既ニ膈四室底ノ刺傷所謂糖ハ同時ニ肝臟充血ヲ來スヲ見、既ヲ作レテ曰ク肝臟ニ充血アレハ速ニ多量ノ「グリコーゲン」(Glycogen)ヲ製造シテ之ヲ血中ニ輸シ糖分ニ化セシム或ハ曰ク血流迅速ノ爲メ「グリコーゲン」ヲ製スルノ暇ナク營養物中ノ糖分ハ直チニ血中ニ入ルト

(三) 胃腸性糖尿病

「ブーシヤルダ」及「カンタニ」(Bouchard and Cantani) 氏ハ胃腸ノ消化障礙ニ由ルト曰ヒ其原因ヲ腸管内ノ某種酵缺如ニ歸ス攝養ノ糖尿病上ニ影響アルヲ以テ此學說ノ根據トナス

(四) 脾臟性糖尿病

糖尿病ノ本原ハ脾臟ノ變狀ニ在リト曰フ人ノ糖尿病ニ於テ間、脾ノ萎消、盲腸神經叢ノ萎縮等アルヲ以テ此說ノ資料トナシ「メリンズ」及「ニコウスマギー」(V. Meising and Minkowski) 氏等ハ脾臟ヲ割去シテ試驗的ニ糖尿ヲ發セシメタリ「フィンクラー」(Finkler) 氏等ハ之ヲ取撃スルニモ拘ハラズ近時此說ニハ贊成者輩出シ既ヲ作レテ曰ク食物中ノ炭化水素ハ健全ナル脾液ニ由テ變化セラレ血中ニ入テ全ク燃燒セラルトニ適セリ然ルニ脾ニ病アレハ脾液變性スルヲ以テ食物中ノ炭化水素ヲ完全ナル燃燒質ニ變メル能ハズ唯葡萄糖ニ化セシムルヲ以テ此糖分ハ尿中ニ排泄セラレ、ニ至ルト

(五) 血液性糖尿病

「フオサト、ミッセル」(Foa, Mialhe) 氏等ハ血液ノ酸素攝取量減少シ且亞爾加里性ヲ減スレハ葡萄糖ノ酸化作用亦減スルヲ以テ説明スルニ足ルト曰フ

(六) 筋肉性糖尿病

本原ヲ筋肉作用ノ異常ニ歸スル說ナリ「抑モ」(Gry) コーゲンハ平常筋肉ノ特異養力料トシテハ十全ニ燃燒セサル可ラス然ルニ筋肉ノ作用ニ障害アレハ「グリコーゲン」ハ大量ハ葡萄糖トシテ血液及尿ノ中ニ現出スヘシ筋肉ヲ勞動シ按摩スレハ本病ニ莫影響アルヲ以

テ此説ヲ支持ス

(七) 體質性糖尿病 先天素因ニ由ルト曰ヒ其證トシテ人ノ糖尿病ノ遺傳スル事實ヲ揚言ス

(八) 痛風性及梅毒性糖尿病 非ニ犬猫ノ肥胖、緊密ニ因ル糖尿病ハ皆別種ナリ

(九) 複雜原因ニ由ル糖尿病 糖尿病ハ一種ノ原因ニ由ルモノニアラスシテ體內諸般ノ複雜ナル作用ニ基クトノ一説アリストクヅ井ス、*Gray*氏ニ據レハ諸官能ヲ障礙スル病的作用ハ糖尿病ヲ來スト曰フ例之腸ノ製糖、肝臟ノ製糖及、*グリコーゲン*製造作用并ニ筋肉中糖分燃燒作用ノ障害ノ如シ

徵候 (一) 犬 初兆ハ倦怠不活潑ニシテ疲勞シ易ク次第ニ羸瘦ス、食慾ハ反テ増加シ、暴食スルニ至リ、煩渴飲ヲ貪リ、頻々大量ノ尿ヲ排泄ス、尿ノ比重ハ高クシテ一〇四〇乃至一〇六〇、尿中葡萄糖ノ含有量四乃至十二%アリ多量ノ糖分ヲ含ムモノハ甘味ニ徴シテ知ルヘシ又兩眼ニ白內障 *Cataracta diabetica* ヲ發シ遂ニ失明シ屢、嘔吐、咳嗽、下痢粘膜

出血、角膜潰瘍ヲ發ス死ニ瀕スレハ瘦削特ニ甚シ

經過 緩慢ニシテ數ヶ月ニ互リ偶、輕快スルコトアルモ概テ豫後不良ニシテ昏睡 *Coma diabeticum* ニ陥テ斃ル

剖檢上 肝臟ノ腫大、脂化、*塩母*ノ變色ヲ見ルト曰フ

(二) 馬 *ハイス* *Heiss* 氏ハ馬ノ糖尿病ノ二例ヲ報道セリ蓋シ一組ノ挽馬ニシテ各重大ナル白耳義種ニシテ一ハ十歳一ハ十一歳倦怠、沈憂、筋肉弛緩、毛皮粗剛ノ徵ヲ以テ序ヲ開キ飲食ノ慾大ニ加ハリ平素ヨリ二三倍ノ水ヲ飲ム尿ハ甘臭ヲ放チトロンメル *Tromner* 氏ノ驗糖法ヲ施セハ亞酸化銅ノ濃黃赤色沈澱ヲ生シ平均三七五%ノ葡萄糖ヲ含メリ發病後第五週ニ至リ兩馬俱ニ白內障及角膜潰瘍ヲ發シ二月ノ後瘦削虛脱シテ斃レタリ其剖檢上肝臟ノ腫大、*塩母*色ヲ至要ノ變狀ナリト曰フ

Rueff 氏ノ觀察シタル一例ハ十歳ノ刺馬ニシテ既ニ五週間治療シタルモ寸效ナク營養變調シテ脱力シ十字跛行ノ狀ヲ呈シ大食、貧

飲、排尿甚々多ク尿ノ比重一〇五ニシテ五、八五%ノ糖分ヲ含ミタリ
診斷 食慾佳良ナルニモ拘ハラズ羸瘦シ煩渴飲ヲ食リ頻々大量ノ
 尿ヲ排シ、且白内障ヲ發スレハ初メテ糖尿病ノ疑アリ確診セント欲セ
 ハ化學的若クハ理學的ノ驗糖法ヲ要ス其最モ簡易ナルヲトロンメル
 Trommer 氏ノ驗糖法トス其法先ツ試驗管ニ尿ヲ入レ加里鹵汁ヲ加ヘ
 テ強亞爾加里性トナシ之ニ滴々硫酸銅溶液ヲ滴下シ尿ノ深藍色ヲ呈
 スルニ及テ止ム(酸化銅ノ發生)是ニ於テ試驗管ヲ熱スレハ暗藍色ハ漸
 次濁黃色乃至黃赤色(次酸化銅ノ發生)ニ變ス尿中五%以上ノ糖分アル
 トキハ赤黃色ノ酸化銅ハ管底ニ沈澱スベトゲル Boettger 氏ノ驗糖法
 ハ鹽基性硝酸蒼鉛ヲ亞爾加里溶液トナシ之ヲ熱シテ黑色ノ蒼鉛金屬
 ニ變セシムルニ在リムール Moor 氏ノ法ハ苛性加里ヲ加ヘテ分解シ
 タル尿ヲ熱スレハ其上層ハ深褐色ヲ呈スルニ在リ理學的ニハ光線分
 極裝置ヲ用ユ尿中糖分アレハ分極線ハ右轉ス從テ葡萄糖ニ Dextrose
 ノ別名アリ此裝置ヲ用キレハ容易ニ糖分ノ定量分析ヲナスヲ得ヘシ

療法 成ルヘク炭化水素質即チ澱粉、砂糖及膠質ノ食ヲ減シ主トシ
 テ蛋白質及脂肪ヲ供給シ犬ニハ肉ノミヲ與フヘシ人醫ハ亞爾加里鹽
 類殊ニ加兒爾斯泉鹽及阿片、石炭酸、水楊酸那篤留漢等ヲ費用ス

無味尿崩又單尿崩 Diabetes insipidus, simple diabetes.

名義 人醫ノ所謂無味尿崩ハ神經障礙ニ基ク所ノ獨立病ニシテ斷
 エス大量ノ稀薄水樣尿ヲ排泄スル症ナリ而シテ其尿ハ糖分ヲ含マサ
 ルヲ以テ糖尿病ニ對シテ無味尿崩ノ名アリ本病ハ糖尿病ニ變スルコ
 トアルヲ以テ之ト多少ノ關係ナキニアラス原因ハ全ク不明ナリ腦ノ
 損傷并ニ諸種ノ急性病ハ尿崩ヲ發スト云フモノアルモ未タ遽ニ信シ
 難シ試驗的ニハ迷走神經中樞ノ附近ヲ傷タレハ發生スト曰フ
 人ノ無味尿崩ト同一ノ症カ我家畜ニ發スルヤ否ヤ未タ斷言スルヲ得
 ス

獸醫術上古來多尿症 Polyuria, Hahnhr oder Lauterstaill (嗅腸ノ)ヲ呼テ尿崩

ト曰フ蓋シ多尿症ハ一時尿ノ分泌增多スルモノニシテ諸病ノ一徵候ニ過キス例之胸疫、腺疫及咽頭炎ノ經過中滲出物吸收ノ後ニ發シ又延髓及小腦ノ疾病、腎萎縮、腎充血并ニ白血病、鼻疽、結核等ノ經過中ニ生ヌ又羊ノ *Cynanchum Vincetoxicum* ノ中毒ニ於テハ地方性ノ多尿症ヲ發スルコトアリ

馬ノ多尿症ハ疫ノ如ク大ニ蔓延スルコトアリ其大原因ハ變敗、濕朽、霉爛ノ麥若クハ芻藁ヲ食スルニアリ一處ニ久シク麥ヲ堆積シ風雨ニ暴露セシムレハ絲狀黴ノ爲メ醱酵ヲ生スダムマン *Dammann* 氏ハ濕潤ノ蠶豆ニ原ク多尿症ヲ見タリ此ノ如キハ一種ノ中毒ニシテ腎臟ノ充血若クハ血壓亢進ヲ伴ヘル腎血管ノ神經機障害ニ由ル固ヨリ眞ノ尿崩ニ異ナレリ

馬ニハ多年不治ノ多尿症ニシテ其原因窺知ス可ラサルモノアリ解檢スルモ特異ノ變狀ナキモノアリ頗ル人ノ單尿崩ニ類スストックフレー *Stockfleth* 氏ハ寒冒ニ續發スル眞ノ尿崩ヲペラン *Perin* 氏ハ馬ノ腰

部蹴傷後ニ生スルモノヲ發見シタリ

症候

馬ノ多尿症ノ徵ハ人ノ尿崩ノ症狀ニ一致ス則チ變敗ノ麥ヲ食スルノ後數日ニシテ食慾減損シ間、肚痛ヲ惱ミ頻々大量ノ尿ヲ排ス其量重症ニ於テハ二十四時間ニ二十五乃至五十リートルノ多キニ達ス尿ハ稀薄ニシテ色淡ク比重ハ至テ輕ク一〇〇一乃至一〇一五蛋白質及糖分ヲ含マス間、酸性反應ヲ呈ス又多尿ニ伴フテ渴甚シク一日間ニ八十乃至百リートルノ水ヲ飲ムモノアリ體温ハ概ネ昇騰セサルモ重症性胃腸病ヲ合併スレハ高熱ヲ發スルコトアリ

多數ノ場合ニ於テ有害ノ食ヲ廢スレハ前述ノ病徵ハ速ニ消散スルモ毒物久シク身體ヲ害スレハ全治若クハ輕快ノ望ナシ病畜ハ次第ニ羸瘦虛弱トナリ年月ノ久シキヲ經テ惡液ニ陥リテ死ス

療法

有害ノ食ヲ廢シ食餌ヲ一變スルヲ緊要トス麥ノ如キハ全ク變換スルヲ得サレハ屢、移積シテ風ヲ通シ日光ニ晒ラシ塵埃ヲ簸去スヘシ内服ハ收斂劑(鉛糖、硫酸鐵、鞣皮煎)并ニ阿片、麥角及流動、ヒドラーチ

ス越幾斯ヲ試用スヘシ

肥胖一名脂肪過多 *Obesitas, Die Fettsucht* (獨)

本性 身體殊ニ皮下結締織ニ過多ノ脂肪沈著スル状態ヲ肥胖又ハ脂肪過多ト稱ス生理的肥胖ハ動物ノ肥養ニ由リテ生シ又某種ノ動物ニ發ス病的ニハ種畜及犬ニ生スルモ人ニ於ケルカ如キ重要ノ症ニアラス

原因 脂肪過多ノ主因ハ食餌ノ豊裕ト運動ノ不足ニアリ獵犬及室内ノ愛犬ハ屢其主人ニ肥養セラレ、コトアリ牡牛、牡豚ヲ斷エヌ繋畜シ滋養強壯ノ食ヲ給スレハ脂肪過多トナル凡ソ體內ノ脂肪ハ半ハ蛋白質ヨリ、半ハ食物中ノ脂肪ヨリ形成セラレ、モノニシテ食物中ノ炭化水素質ハ體內ニ於テ燃燒サレ易キカ爲メ營養脂肪ノ燃燒ヲ減セシメ以テ間接ニ脂肪成形ヲ助ク
前述ノ原因ナクトモ遺傳素因ニ由リ某種ノ豚、牛、羊及犬ハ大ニ肥滿ス

ルモノアリ又貧血ノ動物ハ肥滿スルコトアルヲ以テ牧畜家ハ此事實ヲ利用シ肥養ノ初メ一二回刺絡スルコトアリ

徵候 肥滿ノ動物ハ體形圓滿ニシテ皮下脂肪織ハ非常ニ發育シ皮膚ヲ撮メハ厚キ皺襞ヲ生ス「モプス」種犬 *Mops* ノ如キ非常ニ肥大スルコトアリ脂肪ノ増加ニ從ヒ體力ヲ減シ活氣ヲ耗シ倦怠疲勞シ易ク輕易ノ原因ニ遇フモ食慾ヲ損シ消化不良ヲ來シ易シ又種畜ハ交尾力ヲ耗シ終ニハ全ク陰痿ヲ來ス經久高度ノ肥胖馬ニ於テハ呼吸困難、脈搏增多、心悸亢進、血行障礙ヲ見ル蓋シ脂心ノ結果ナリ

療法 (一) 一般營養物ノ減少 是レ最モ簡易ニシテ且安全ノ法ナリ

(二) 一一營養物ノ減少若クハ廢止 例之脂肪ノ供給ヲ禁スルカ如シ所謂 *Banting* 氏療法ハ脂肪及炭化水素質ヲ廢シテ肉ノミヲ給スニ「エドスタキ」 *Edstein* 氏ノ法ハ炭化水素質ヲ極量ニ減シテ少量ノ脂肪ヲ給スルニアリ但シ脂肪ハ饑渴ノ感ヲ減シ且體內ニ蛋

白質ノ沈著ヲ促スト曰フ

(三) 脂肪消費ノ増加 運動力役ニ由テ脂肪ノ燃燒ヲ促ス是レ馬ノ調教上古ヨリ人ノ實行スル法ニシテ由テ以テ筋力ヲ振興セシメ脂肪ノ燃燒ヲ増加シ血行ヲ進メ心力ヲ強クス近時エールテル Oertel 氏ハ人ノ肥胖病ノ最良法トシテ之ヲ賞揚ス

(四) 減水法 是亦エールテル氏ノ創意ニ係ルモノニシテ水ノ量ヲ減スレハ血液循環ヲシテ容易ナラシメ新陳代謝ヲ活潑ニシ心臓ノ勞力ヲ減スト曰フ減水運動ニ法ヲ併セテエールテル氏ノ法ト稱ス

(五) 醫藥 臭素鹽類、亞爾加里鹽類、下劑、發汗劑等ハ從前賞用セラレタルモ胃腸ヲ害スル恐アレハ今日ハ攝養療法ヲ主トシ時々加兒爾斯泉鹽ヲ投シテ新陳代謝ヲ促スヘシ

瘰癧 Scrophulosis

名義 瘰癧ハ眞ノ獨立病ニアラス唯醫學歷史ニ關係アル總名ニ外

ナラス往時ノ教科書中ニ於テハ重要ナル疾病ノ位置ヲ占メタルモ現今ハ原病ノ列名中ヨリ之ヲ省ケリ古人ノ所謂瘰癧ハ内外淋巴腺ノ腫大、化膿、乾酪變性及硬結ニ兼ルニ粘膜炎、答兒及皮膚疹ヲ以テシ營養ノ減損ヲ來シ終ニハ惡液ニ陥ルノ症ニシテ種々ノ疾病其本原トナル瘰癧ハ多數ハ結核病ト同意義ナリスピンラ氏ハ既ニ結核ノ外脈ノ尙儂病、豚疫、肺寄生豚ノノストロクサス、仔馬ノ膿毒性多發關節炎、轉移性腺疫等ノ瘰癧ト稱セラル、コトアルヲ摘示セリ老獸ニ於テハ白血病、惡性貧血、慢性腸加答兒并ニ諸種ノ惡液病ハ瘰癧ト稱セラレタルコトアルヘシ仔馬ニ於テハ瘰癧ノ代リニ腸癆ナル名稱アリ恐ラク腸結核ニ外ナラサルヘシ

瘰癧及腸癆ハ學術上一定ノ意義ナク既ニ陳腐ニ屬スレハ將來此名ヲ廢スルヲ可トス今茲ニハ參考ノ爲メ一言スルノミ

肉腫病及癌腫病 Sarcomatosis and carcinomatosis

肉腫及癌腫ハ本來外科病ナルモ其胃腸肝腎脾子宮肺腦等ノ如キ内臓ニ發生シ又ハ全身ニ汎發スルモノハ内科ノ臨牀上趣味アルノ症トス馬ト犬トニ於テハ肉腫及癌腫ハ慢性腹膜炎及肋膜炎ノ病狀ヲ呈シ腹膜若クハ肋膜ノ面ニ肉腫若クハ癌腫ノ新生物ヲ生シ多量ノ漿液膿樣液若クハ出血性滲出ヲ蓄積シ胸水又ハ腹水ノ徵ヲ呈ス腹腔内ノ肉腫ハ馬ニ少ナシトセス間非常ニ増大シ人頭大乃至馬胃大若クハ其上トナリ生前息癆及惡液ノ徵ヲ發ス

牛ニ於テハ第四胃ノ肉腫ハ慢性消化不良及營養變調ヲ來ス

犬ニ頻發スル乳房癌腫ハ往々内臓ニ轉移ス則チ子宮ニ轉移スレハ惡臭血樣液ヲ陰門ヨリ漏ラス肺ニ轉スレハ肺癆ノ狀ヲ發シ肝ニ轉スレハ消化不良ノ原因トナル

肉腫癌腫ノ如キ病的作用久シク持續スレハ大ニ營養ヲ害シ終ニ惡液所謂惡液ニ陥ラシム又新生物潰爛スレハ頑固ノ敗血熱ヲ發ス有效ノ治療ハ固ヨリ望ム可ラス唯良美ノ滋養物ヲ給シ法列兒水ヲ與ヘ以テ體

力ヲ維持セシムヘシ

第九編 傳染病

牛疫 *Pestis bovina* (L.), Rinderpest (Germ.), Cattle plague (Eng.),

Peste bovine (Fr.), *Peste bovine* (Ital.),

病性 牛疫ハ牛屬固有ノ熱性傳染病ニシテ牛屬ヨリ他ノ反芻獸山羊、鹿、豚ニ傳染スルモ單蹄獸、肉食獸、鳥類及人體ハ決シテ之ニ感染スルコトナシ近時豚ニ傳染シタル實例ヲ報スル者アルモ遽ニ信シ難シ其病毒ノ慘烈ナル家畜傳染病中他ニ其比ヲ見ス一タヒ流行シテ猖獗ヲ極ムレハ終ニ國家ノ資産ヲ盪盡スルヲ以テ最モ恐ルヘキ惡疫ナリトス

史傳 外國ノ牛疫史 古史ヲ按スルニ牛疫ハ既ニアリメトール Aristotle(耶穌紀元前四百年)ノ時代ニ於テ世ニ知ラレヨラメラ Columella 氏(第一世紀)ハ牛疫主要ノ徴ヲ記錄セリ其當時黑海及ツォルガ河ノ沿岸ハ牛疫ノ巢窟タリシト云フ第四世紀ニ至リ紀元三百七十五年來 本疫ハ亞細亞遠征

軍ト共ニ歐羅巴ノ四部ニ侵入シ第九世紀ニハカール大王御宇ノ下獨逸國ニ於テ慘害ヲ逞フシ第十三世紀ノ初メ蒙古人ノ進襲ニ隨テ歐洲ノ東部及中部ニ傳播シタリ

牛疫ノ詳論ハ第十八世紀ノ首メ始メテ世ニ現ハレタリ蓋シ一千七百九年ヨリ同十七年ノ間大ニ流行シツオルガ河地方ヨリ普魯西及他ノ北獨逸諸州ニ侵入シ一方ニハドナウ河地方ヨリ匈、佛、荷、英、瑞四等ニ蔓延シ一千七百十一年乃至同十四年同百五十萬頭ノ牛ヲ斃セリ當時ラマツチニ Hamazi 氏ハ牛疫ヲ痘瘡ト同視シ之ニ對シテ創メテ獸醫警察法ヲ施行シタリ

第十八世紀ノ末ハヨリ十九世紀ノ初メニ至ルノ間牛疫ハ西班牙、瑞典ヲ除クノ外歐羅巴各國ニ於テ斷ニス流行シ一千七百四十年ヨリ同五十年ノ間ニ於テ三百萬頭ノ牛ヲ斃セリ十八世紀ノ終リニ至ルマテ獨逸全國ニ於テ斃死、撲殺ノ牛ハ無慮三千萬頭、歐羅巴全般ニテ二億頭以上ノ牛ヲ失ヘリ獸醫學校ノ開設ハ此ノ如キ大流行ノ爲メニ促サレタリ

一千七百九十二年伊太利國ハ一年間ニ四百萬頭ヲ失ヘリ其原因ハ壤地利軍隊ノ輸致セル屠牛ニアリシト云フ一千七百九十五年乃至一千八百

一年ニハ專ラ南獨逸ニ行ハル拿翁ノ役(一千八百五年乃至九年)自由ノ役(一千八百十三年乃至十六年)ニ際シ歐ノ諸國ニ蔓延ス一千八百二十七年、同二十八年ニハモルドウヨリ、一千八百三十年及三十一年ニハ露西亞、波蘭其他歐ノ東海洲ヨリ起リ、一千八百四十一年羅馬尼亞ノ牛此惡疫ヲ埃及ニ傳播シ五十萬頭ヲ斃ス、一千八百四十四年同四十五年露國ハ一百萬頭ノ牛ヲ失シ普魯西、壤地利ニ於テハ獨逸ヲ極ム一千八百六十五年五月英國ハ露國產牛ノ輸入ニ由リ發病シ翌六十六年ノ末迄英、蘭、蘇格蘭ノ各地ニ流行シ五十餘萬頭ノ牛ヲ斃セリ其損害價格無慮我二億圓ヲ下ラスト云フ一千八百七十年及七十一年普佛戰爭ニ際シ牛疫復々大ニ交戰兩國ニ流行シ佛ハ約七萬頭、獨逸ハ一萬餘頭、エルザース、ロントリゲンハ三萬頭ヲ殞シ此際白耳義也亦大損害ヲ被ムレリ一千八百七十八年同七十九年復々獨逸ニ流行シ普魯西ノ牛二萬五千頭ヲ鬼籍ニ上ス其損害金額二百萬馬克ニ達ス當時露國ハ三十五萬頭ヲ失ヒタリ近者獨、佛、英等ノ列強ハ嚴重ナル獸疫豫防法規則ヲ布キ東歐牛ノ輸入ヲ禁シ以テ牛疫侵入ノ門ヲ杜塞セリ數年前英領亞弗利加ニ侵入シ喜望峯地方ニ於テハ特ニ猖獗ヲ極ム依テ殖民政廳ハ遂ニ獨ノ碩學古弗博士ヲ聘シ大ニ

牛疫ノ原因、豫防法、免病法等ヲ研究セシメタリ

本邦ノ牛疫史 本邦古代ノ牛疫ニ關シテハ文獻ノ徵スヘキモノナシ第一同ノ侵入ハ果シテ何レノ時代ニ在リシヤ其由來未タ詳ナラスト雖

明治四年辛未六月七日太政官ハ四伯利亞海岸ニ流行スル牛疫ノ豫防法ニ關シ布告ヲ發シ樺太、北海道及對州ノ如キハ特ニ警戒ヲ加フヘキ旨ヲ指示セリ○同五年勸業寮所屬ノ牛二百九十七頭斃死シタリ但シ此疫ハ果シテ「リントデル、ハスト」チリシヤ否ヤ信憑スヘキ専門家ノ記録ナキト牛疫ヲウ名稱ハ諸般ノ流行牛病ニ濫用セラル、ヲ以テ今日之カ判斷ニ苦ムト雖モ其翌年ヨリ續々大ニ流行シ大數ノ斃牛ヲ生シタル點ヨリ考フレハ恐ラケハ眞ノ牛疫ナリシナランカ

○翌六年ノ夏ヨリ冬ニ至リ牛疫大ニ蔓延シ四萬二千三百頭ヲ斃シ其流行區域ハ京都、大阪ノ二府及神奈川、兵庫、長崎、名東、和歌山、岐阜、福岡、白川、愛媛、佐賀、新治、三重、度會、堺、師磨、統摩、千葉、滋賀、豐岡ノ二十縣下ニ流行シ就中和歌山、千葉ノ二縣ニ於テ相繼シ極メタリ此歲十月故大阪府病院長高橋正純、教師關人越爾^{エル}、連斯^スト共ニ實地調査ノ事實ニ據リ眞性牛疫ト鑑定シタリ○同七年房州嶺岡牧場ハ百二十餘頭ヲ失ヒタリ千葉縣ニ於テハ

客歲以來本病ノ流行熾マサルニ由リ内務省ニ請フテ雇米國人及勸業寮吏員ヲ派遣シ豫防ニ從事セシメタリ○同八年靜岡縣ニ於テモ亦大ニ蔓延シ斃死無算農家ハ殆ント棄テ抛テ豫防ニ盡力シタリ同年十二月新宿勸業寮支廳内ニ於テハ翌年一月マテニ五十六頭ヲ失ヒ續テ東京府下ノ乳牛ニ傳播セリ○九年一月ノ初メヨリ下總牧羊場^{現今ノ御ニ於テハ多數ノ耕牛本病ニ罹リ斃死撲殺セシモノ百十五頭ニ及ヘリ雇米國人ジョンス及二等軍醫正佐藤壽海其病性ヲ調査シテ牛疫タルコトヲ復命シ尋テ「ジョンズ」ハ牛疫ノ害ニ關シ海外諸國ノ實例ヲ引キ述ニ家畜傳染病取締法制定發布アラントテ内務省ニ建言セリ同年二月二十九日内務省ハ乙第二十號達ヲ以テ疫牛處分假條例ヲ發布シ尋テ同年三月七日乙第二十四號達ヲ以テ傳染牛疫豫防法并ニ斃死後處理ヲ定メ同年五月十五日乙第六十號達并ニ明治十一年二月四日乙第九號達ヲ以テ更正追加セリ}

維新後第二回ノ牛疫侵入ハ明治二十五年九月中ニ在リ蓋シ朝鮮國ノ病牛ヲ大分縣北海道郡下ノ江港ニ輸入ス陸揚後該病牛ハ續々斃死シ近傍ノ農牛ニ傳染ス同年十月予ハ農商務省ノ囑託ヲ受ケ親シク大分縣下ノ流行地ヲ巡回シ病性ノ調査ニ從事シタリ此月牛疫ハ既ニ東京府下ニ侵

入シ遂ニ北海道廳外三府十八縣ニ傳染シ病勢頗ル猖獗ヲ極メタリ同年
末一時鎮靜ノ狀アリシモ〇翌二十六年五月乃至八月餘燼再燃シ關西地
方大阪京都兵庫奈良和歌山及三重ノ諸縣及長崎縣下ニ流行ス同年十二月末ノ調査ニ據レ
ハ斃死又ハ撲殺シタル總數ハ九千四百六十五頭ニシテ豫防ノ爲メ國庫
府縣及町村費ヨリ支出シタル金額ハ總計十六萬三千九百餘圓損害總額ハ
實ニ六十二萬四千八百七十餘圓ノ巨額ニ達セリ(農務局牛疫調査參照)
〇二十九年ニ於テハ東京大阪二府兵庫外七縣ニ發生シ斃死撲殺ニ於テ
千四百三十七頭ヲ算セリ其賠償手當金四萬八千四百四十一圓餘ナリ
〇三十年大阪京都東京長崎外八縣ニ於テ六千三百七十六頭ヲ斃セリ同
年度ノ國庫支出金二十四萬七千二百圓餘ニシテ三十年度末ノ調査ニ依
レハ明治二十五年來斃死撲殺一萬九千餘頭國庫支出金四十八萬九千餘
圓ナリ

地理 牛疫ノ原發地ハ中央亞細亞殊ニ崑崙山北西部ノ平原ニシテ
之ヨリ北ニ向テハ西伯利亞及露西亞ニ傳播シ露國ヨリ他ノ歐州諸國
ニ侵入ス東ニ向テハ支那朝鮮及本邦ニ蔓延シ南ニ向テハ印度及暹羅
ヲ侵シ之ヨリ瓜哇^{ジャバ}ヲ襲フ亞米利加及濠州ハ未タ牛疫ノ害ヲ被ムラス

亞弗利加ニ於テハ近年大ニ喜望峰ノ英領殖民地ニ流行ス本邦ニ於テ
近年未タ牛疫ノ害ヲ被ムラサルハ東北諸縣ナリトス

原因 牛疫ノ病原ハ未タ審ナラスゼンメル Semmer 氏ハ球菌ヲ一千
八百九十三年メチニコフ Metchnikoff 及ガマニョ Gamaleia 兩氏ハ桿菌ヲ一千八百
發見シタリ

此他サンデロン Sanderson プリストウ Bristowe マルチン Murchison ヌ
ール Beale クロブス Klebs 等ノ諸家各研究スル所アルモ未タ一モ信認
スヘキ成績ニ接セズ細菌學ノ泰斗古弗 R. Koch 氏ハ喜望峰殖民地ノ
キムバレーニ赴キ大ニ檢索シタルモ未タ病原ヲ發見スル能ハス
ゼムメル氏ニ據レハ傳染毒ハ呼吸器ヲ侵シ之ヨリ血中ニ入り全身傳
染ヲ致シ消化器變狀ヲ續發ス從來ノ定義ニ據レハ傳染毒ハ固性并ニ
揮發性ニシテ分泌物及排泄物ノ中ニ存ス則チ糞尿唾液淚液鼻腔口腔
及眼ノ粘液汗呼吸等一トシテ病毒ヲ含マサルハナシ又血液并ニ身體
諸部ニ存ス

本病ハ直接ニ病畜ヨリ傳染スルノミナラス、飼料、糞、尿、糞、土、糞、生皮、獸毛、肉、汽車、船舶、居者、牛、馬、商、伯勞、犬、羊、鷄ニ附著シ他ニ運搬セラレテ間接ニ傳染ス此病者ハ遠距離ニ散漫スルモノニアラス風力、風位及病毒ノ強弱ニ由リ差アリト雖モ歐洲諸大家ノ經驗ニ徴スレハ平均二十歩乃至三十歩ヲ出テス夏日空氣乾燥スルトキハ散漫力特ニ微ナルヲ以テ夏月ハ一大溝ヲ劃シテ健牛ト病牛トヲ隔離スレハ傳染ヲ防クニ足ルコトアリト曰フ然レトモ近時大ニ空氣傳染ニ疑ヲ抱ク者アリ乾燥氣中ニ在テハ病毒速ニ死スルモ密閉セル液體中ニハ六週日長キハ九月間毒力ヲ失ハス、厩舎内ニ在テハ四月、乾芻中ニ在テハ五月間有力ナリ、三月前ニ埋没シタル病牛ノ肉尙ホ毒力ヲ存シタル例アリ、冬季凍瓦セル肥糞中ノ病毒ハ春ニ及テ掘起スルニ尙ホ生機ヲ失ハス、牛痘侵入ノ初メニ當テハ毒力最モ猛烈ナリトス、而シテ攝氏六十度以上ノ熱、零下十五度以下ノ寒氣ニ接スレハ死滅シ腐敗作用及消毒藥格魯兒、亞硫、石炭酸等亦之ヲ殺ス但シ消毒藥ニ對スル抵抗力ハ甚タ大ナラス

徵候 潜伏期ハ平均六七日長キハ八九日例外ニハ二十日ニ互ル人エヲ以テ病毒ヲ接種スレハ初兆ハ三十六時乃至四十八時ノ後ニ現ハル

本病ノ徵候ハ三類ニ大別スルヲ得ヘシ曰ク熱候、呼吸器症、消化器症、狀是ナリ

(一) 熱溫 一二日他ノ症狀ニ先チテ發ス時アリ他徵ト同時ニ、例外ニハ之ニ後レテ發ス病初一二日體溫ハ攝氏四〇、五乃至四二度ニ達ス熱ハ所謂稽留熱ニシテ弛張至テ少ナシ尋テ數日ノ後稍下降シ死ニ瀕スレハ虛脫ノ爲メ三六〇若クハ其以下ニ降り鼻端、四肢ハ厥冷ス初期耳根、角、并ニ口内ハ熱ヲ帶フ皮膚血行不同ノ爲メ皮溫ハ均一ナラス

(二) 倦怠、疲勞 筋肉弛緩スルヲ以テ頭ヲ低レ或ハ之ヲ飼槽ニ擡シ耳ヲ貼シ眼球陷沒シ無情無慾ニシテ身傍ニ注意セス多クハ伏臥ス其起立スルヤ後肢ノ球節弛動ス病勢増進スレハ四肢ヲ腹下ニ撰ム

(三) 毛皮粗剛 肩、頸、腹側等ノ皮膚震顫シ毛絨光澤ヲ失シ鬚々蝟

立ス

(四) 惡寒戰慄 五分十分毎ニ劇シク戰慄ス

(五) 不安興奮 面識ナキノ人ニ遇ヘハ不安トナリ前肢地ヲ爬シ
頻ニ後體ヲ顧阿シ急卒芻秣ヲ咬ム

(六) 點頭 頻ニ頭ヲ上下若クハ左右ニ動ス鏈繫セラル、モノハ受
々ノ音ヲ發ス

(七) 乳量減少 發病後十二時乃至二十時ヲ經レハ乳量大ニ減シ
常量ノ二分一若クハ三分二トナリ乳房ハ萎縮弛緩ス

(八) 脫力羸瘦 四五日ヲ經レハ顔色憔悴形容枯槁ス

(九) 血行器ノ變狀 心力衰弱、血壓減退、脈數不同ニシテ初期ハ五
六十末期ハ八十、九十ヲ算シ重症ニ於テハ百以上ニ達ス頸動脈搏ハ軟
弱ナリ粘膜ハ血流不等ノ爲メ或ハ潮紅シ或ハ貧血ナリ

(十) 呼吸器ノ症狀 必發ノ初徴ハ咳嗽ナリ蓋シ病初第一日若ク
ハ第三日頻ニ咳嗽ヲ發ス重症胃腸炎アレハ之ヲ忍フ但シ咳嗽ハ牛疫

ノ特徴トスルニ足ラス呼吸ノ數ハ一定セズ初メ一二日間二十乃至二
十五後ニハ四十、六十若クハ其以上ヲ算ス打診上異常ヲ認メス聽診ス
レハ往々氣管及肺臟ニ粘液音ヲ聽キ胞間氣腫アレハ乾性ラッセルヲ聽
ク屢噴嚏様ノ發作ヲ來スモノアリ呻吟苦悶ハ初期ニ少ナク末期ニ甚
シ是レ胃腸炎ノ爲メ劇痛ヲ感スルニ由ル

鼻粘膜ハ潮紅シテ血斑ヲ呈ス然レトモ時トシテハ反テ貧血ナリ鼻孔
ヨリ第二日ニハ清澄透明ノ液、爾後ハ稠厚膿様ノ粘液ヲ漏シ鼻孔周圍
ノ表皮剝脫ス

(十二) 眼ノ症狀 結膜ハ往々貧血ナリ時トシテ暗赤色ヲ帶フ結膜
囊ニハ涙ヲ湛ヘ後ニハ内眦ヨリ涙ヲ流シ頬ヲ濕ス晚期ニ至レハ膿様
粘液ヲ漏シ角膜ハ光澤ヲ失ス

(十三) 消化器ノ症狀 病初穀類ヲ嫌フモ尙ホ芻藁ヲ食ヒ且之ヲ
反芻ス偶、輕疝痛ヲ發シ不安ニシテ頻々起臥掉尾ス或ハ廐壁ヲ舐メ砂
礫ヲ嚥下ス第二日第三日ニ至レハ概テ食慾反芻全ク絶ユルモ好テ水

ヲ飲ム末期ニ至レハ重症胃腸炎ノ爲メ水ヲ飲マス
 通便ハ病初暹滯シ。暗色ノ硬糞少量ヲ泄ス第二日ニハ糞兒様トナリ粘
 液ヲ混ス第三日(罕ニハ第二日)ニ至レハ下痢シ斃死ニ至ルマテ稀液狀
 ノ糞汁ヲ瀉下シ糞便中間血液ヲ混ス輕症ニ於テハ巴布狀ヲナス糞色
 ハ食料ト腸炎ノ輕重ニ由テ異ナレリ往々失色シ或ハ灰褐色若クハ黃
 褐色下痢汁ノ粘液ヲ漏ヌ或ハ瘧母色ヲ帶ヒ臭氣頗ル甚シ其反應ハ中性
 若クハ弱亞爾加里性ニシテ股及尾根ハ糞汁ニ汚染ス第四日若クハ第
 五日ニ至レハ肛門弛緩シ失禁自利ス直腸粘膜ハ發炎腫起シ暗赤色ヲ
 帶ヒ間、翻轉ス

口内ノ粘膜ハ初期齒、大ニ潮紅シ、微シク腫起ス、頰粘膜ハ間、藍赤色若
 クハ汚赤色ヲ帶フ、第二日若クハ第三日ニ及ヘハ下顎ノ體上顎口蓋ハ
 粘膜ハ緩ク灰白色ノ痂皮様物ヲ附屬シ、恰モ糠若クハ麥粉ヲ撒布スル
 カ如キ觀アリ、次日ハ亞麻仁大乃至豌豆大ノ軟化上皮片ハ剝脫シ、暗赤
 色ノ潰爛面トナル所謂爛斑 Erosio ニシテ牛疫ハ特徴トス、口内惡臭ヲ

放ツ輕症ニ在テハ痂皮爛斑ヲ缺クコトアルモ此ノ如キハ固ヨリ例外
 ナリ

(十三) 陰門 炎症線狀赤色ヲ呈シ末期ニハ血斑爛斑ヲ生シ不潔膿
 様ノ粘汁少許ヲ滲ス

(十四) 皮膚 乳房陰囊内股陰門ノ周圍鼻梁等ニ於テ第三日若クハ
 第五日ニ小結節痂皮又ハ大小不同ノ表皮剝脫ヲ見ルコトアリ又罕ニ
 ハ皮膚氣腫ヲ見ル患部ヲ撫摩シテ嗶噉音ヲ發スルハ氣腫ノ確徵ナリ

經過 (一) 短折經過 此經過ハ西歐羅巴ニ稀ナルモエヌセン

Jessen 氏ニ據レハ露國西伯利亞ノ高原種ニハ普通ナリト曰フザルラ
 ヒ Gerlach 氏ハ荷蘭ニ於テ一舎ノ牛八頭下痢ヲ起サスシテ速ニ治癒シ
 タルヲ見タリヂーカホフ氏ハ一千八百七十七年伯林附近ニ於テ一牝
 牛ノ熱及咳嗽ヲ發シ食ヲ嫌ヒ泌乳減少セシモ下痢セス第二日ニハ病
 候減退シ第三日ニハ全治セルヲ見タリ但シ此牛ハ疫牛ノ間ニ立チシ
 モ遂ニ再感セザリシト曰フ

(二) 輕經過 露國ノ獸醫學士ハ屢高原種ニ於テ輕良ノ經過ヲ見タリ蓋シ病勢輕クシテ諸症増進セヌ八日乃至十日ノ經過ヲ以テ速ニ治ス

(三) 重經過 是レ普通ノ經過ニシテ先ツ發熱シ咳嗽頻發乳量減少シ尋テ他ノ熱候食慾減損流淚鼻漏ヲ呈ス第三日若クハ第四日ニ至レハ惡徵ヲ現ハシ遽ニ脫肉羸瘦肚腹縮小背ヲ彎シ四肢ヲ攣メ伏臥咬牙呼氣ニ方リ呻吟苦悶シ大ニ下痢シ鼻漏流淚亦加ハリ人ヲシテ切ニ惻隱ノ情ヲ催サシム

第四日乃至第七日ニ至レハ腦麻痺ノ爲メ死戰ヲ來サヌシテ斃レ早キハ二三日内ニ下痢ヲ發セヌシテ死ス罕ニハ二三週日ヲ經テ全治ス恢復期ハ頗ル長ク呼吸困難及胃弱ハ久シク存スト曰フ

合併症 肺疫及口蹄疫ハ牛疫ニ合併スルコトアリ又孕牛ハ往々流産ス

雨天并ニ不良ノ管理飼養ハ病勢ヲ増惡セシム之ニ反シ好天氣清新ノ

空氣易化ノ食ハ病勢ヲ輕減ス

大群中疫ノ經過ハ病畜ト健畜觸接スルト否トニ由テ差アリ新タニ傳染牛ヲ購入スレハ先ツ之ニ近接セルモノ一二頭感染シ大約七日ヲ經テ諸症悉ク備ハリ更ニ七日ヲ經レハ復タ一二頭ニ傳染ス其間他舎ニ於ケル數多ノ牛ニ傳播スルノ虞アリ

剖檢 牛疫ノ病理解剖的變狀ハ專ラ第四胃、小腸并ニ口腔、直腸及呼吸器、陰腔ノ粘膜ニ存ス一般變狀ハ他ノ傳染病ト大同小異ニシテ甚タ重要ナラス

屍體ハ羸瘦シ比較的長ク腐敗セヌ第一胃、第二胃、及第三胃ノ粘膜ハ斑々紅ヲ湖シ其上皮ハ弛緩シ剝脫シ易ク第一胃及第二胃ノ内容ハ柔軟ナルモ第三胃ノモノハ往々甚タ乾固ナリ是レ複葉肢乾固 *Loserdünne* ノ舊名アル所以ナリ

第四胃ハ概テ空虚ニシテ少量ノ膿樣粘液若クハ褐赤色ノ液ヲ含ミ其粘膜ハ特ニ幽門部ニ於テ湖紅シ一様ニ櫻實赤色ヲ帶ヒ或ハ點狀若ク

ハ線狀ノ出血及爛斑ヲ呈ス
 小腸ノ粘膜ハ紅腫シ處々痂皮ノ如キ乾酪樣沈著物及爛斑ヲ呈ス(粘膜ノ缺損上皮ノ剝脫孤腺及パイエル氏腺ハ往々腫大シ之ヲ壓スレハ栓狀ノ内容ヲ漏シ或ハ乾酪樣ノ塊ニ掩ハレ其塊剝脫スレハ潰瘍ヲ貽シ或ハ篩狀ヲ呈ス腸ノ絨毛ハ浸潤シ腸間膜ノ淋巴腺ハ微シク腫大ス大腸粘膜ノ炎症ハ顯著ナラヌ盲腸ニ於テハ較著ルシ乃チ粘膜ハ僅ニ腫起シ斑々紅ヲ潮シ石版色若クハ鰻皮色ヲ呈シ粘液ヲ被ムル直腸ノ前部ハ潮紅シ後端ハ暗赤色ヲ帶テ膽囊ハ膨脹シ膽汁ヲ充盈ス鼻粘膜ハ暗赤色ヲ帶ヒ灰黃色ノ痂ヲ被ムル喉頭及氣管ノ變狀略ホ之ニ同シク其沈著物ハ間乳皮又ハ膿ノ狀ヲ爲シ血液浸潤ヲ示ス肺臟ニハ充血浮腫著クハ肝變ヲ見ル肺氣腫ハ稀ナリトセス心臟ハ弛緩シ褐赤色ヲ帶ヒ心内膜ニハ出血竈アリ血液ハ暗色ニシテ善ク凝固セヌ白血球ハ增多シ紅血球ハ變形ス腦脊髓及其被膜ハ大ニ充血シ時トシテ腦室及蜘蛛膜下腔ニ滲漏液アリ

肝腎及筋肉ニハ多少ノ實質炎アリ脾臟ハ充血スルモ敢テ腫大セス口腔ニハ前ニ述ヘタル爛斑ヲ見ル膀胱陰腔及子宮ノ粘膜ハ潮紅シ粘液ヲ被ムル

診斷 生前ノ症狀ト死後ノ變狀ハ每常必スシモ悉ク具備スルモノニアラス故ニ獸醫ハ徵候及剖檢ノ外本病ノ經過及傳染ノ狀況ニ注目スヘシ創メテ牛疫ヲ診斷スルハ頗ル難シ須ラク大家ノ鑑定ヲ請ハサル可ラス

類症鑑別 牛疫ハ左ノ諸病ト誤診セラル、コトアリ

(一) 牛ノ流行性感冒 初兆ハ牛疫ニ類スルモ經過輕易ニシテ速ニ治シ口粘膜ノ爛斑ヲ缺ク

(二) 惡性加答兒熱 傳染力至微ニシテ一地方ニ常在ス經過亦稍、緩ニシテ專ラ頭部及呼吸器ヲ侵シ劇シキ眼症ヲ發シ角膜不透明トナル

(三) 赤痢 既ニ病初ヨリ下痢アリ糞便中血液ヲ雜フ又赤痢ハ腸ノ

- ミヲ侵シ口腔眼、鼻腔、陰腔等ノ粘膜ニハ變狀ナシ剖觀亦異ナレリ
- (四) 口蹄疫 口腔ノ潰瘍、胃病及乳房ノ發疹ハ稍、牛疫ニ類スルモ口内ニ特徴アリ爪間ニモ水泡ヲ發シ經過佳良ニシテ其傳播ハ迅速ナリ
 - (五) 微性腸炎 諸種ノ微菌及腐敗食ニ因ル所ノ腸炎ハ劇烈ニシテ地方病ノ性ヲ呈スルヲ以テ牛疫ニ類スルモ腸病ト神經症ヲ主トシ傳染ノ兆ナシ
 - (六) 中毒 苛烈毒ハ腐蝕性胃腸炎、口炎及咽喉炎ノ徵ヲ顯ハスモ傳染セズ
 - (七) 炭疽 胃症炭疽ハ牛疫ニ類スルモ經過更ニ急劇ニシテ解剖上特異ノ變狀ト病原菌ヲ檢シテ診決スヘシ
 - (八) 肺疫 胸部ヲ精檢シ疑アレハ剖檢スヘシ
 - (九) 狂犬病 牛疫ノ神經症ハ狂犬病ニ類スル點アルモ鑑別ハ難シトセズ
 - (十) 血尿症 本症ハ傳染セズ

豫後 極メテ不良ナリ病牛ノ九十乃至九十八%ハ死ス常在地方ニ於テハ死亡率ハ七十%ニ減ス

療法及豫防接種法 古來牛疫ノ治療ニ試用シタル醫藥ハ渾テ無效ナリ歐洲ニ於テハ屢、巨額ノ賞金ヲ懸ケ治療ヲ世ニ需メタルモ未タ會テ眞ニ有效ノ良劑ヲ發見シタル者ナシ千七百四十四年英人ドッドソン Dodsan 氏接種法ヲ創案シ疫牛ノ分泌物ヲ健牛ニ種エ輕症ノ接種病ヲ發セシメ以テ死亡數ヲ減少センコトヲ期シタリ此法ハ尋テ露佛、荷、獨等ニ行ハレタルモ病毒散漫ノ恐極メテ大ニシテ危險尠ナカラサルヲ以テ全ク之ヲ廢止セリ現今獨逸ノ如キハ嚴刑ヲ以テ牛疫ノ治療ヲ禁セリ

千八百九十六年古弗 Robert Koch 氏亞弗利加ノ英領殖民地キンバーレイニ於テ大ニ牛疫ノ免病法ヲ研究シ膽汁、打撲血液及血清注射法ヲ試驗シ頗ル良好ノ成績ヲ得タリト曰フ膽汁接種法ノ如キハ病毒散漫ノ危險少ナカラスト信シ其普及ヲ拒ム者アルモキンバインレーノ牛疫試

驗場ニ於テハ毫モ危險ナキヲ斷言セリ

胆汁接種法

古弗氏ハ三月十二日三十年タルバンニ於テ百三十

五頭ノ牛ニ胆汁ヲ注入セシニ斃死ハ一頭ニ過キス是レスラ接種ノ當時已ニ感染シ居リタルモノナラント曰フターナー及コールストック氏ハ四月六日クリッピースダムニ於テ八十三頭ニ胆汁ヲ注入シタルモ爲メニ牛疫ニ罹リシモノナシターナー氏ハ又ブリンスタウンニ於テ百六十頭ノ牛ニ胆汁ヲ注入セシカ一モ牛疫ニ罹リタルモノナシ

古弗氏ハ牛疫血液ニ多量ノ胆汁ヲ交ヘタルモノヲ試ミシニ牛疫ニ感セス再三反復ノ後等分混合液トナシ混合後直チニ健牛ニ注入スルモ實際牛疫ニ感スル危險ナキコトヲ發見セリ

佩里設林接種法

エデントン氏ハ胆汁二分佩里設林一分ノ合劑

ヲ賞用ス

血清接種法

免疫牛ノ血清ヲ以テ二様ノ試験ヲ行ヘリ則チ一ハ單純ノ血清ヲ用キ一ハ之ニ加フルニ一%ノ病血ヲ以テシ共ニ其目的

ヲ達シタリ然レトモ血清ノ量百乃至二百立方仙迷ヲ要スルノ不便アリ爾後ノ研究ニ依リ大ニ其量ヲ減シ牛疫ノ初期ニ於テハ二十立方仙迷晩期ニ於テハ五十乃至百立方仙迷ヲ以テ十分治療ノ目的ヲ達シ得ルニ至レリ云々

免疫血清ハ健牛ニ免疫性ヲ賦與スルノミナラス初期病牛ニ接種スレハ治病ノ效アリ則チ發熱ノ初日ニ注入シタル十一頭ノ牛ハ盡ク恢復シ次日ニ注入シタル四頭モ亦盡ク全快シタリ云々

免疫期ノ長短

免疫力ハ純胆汁ニ於テ最モ強大ナリ然レトモ其

效牛痘苗ト一般自然傳染後ニ於ケルカ如ク完全ナラス平均四ヶ月間保續ス之ヲ天然疫後ノ免疫五ケ年ニ比スレハ其十五分一ニ當レリ佩里設林胆汁十五立方仙迷ノ免疫性ハ十日間保續セヌ同二十四立方仙迷ヲ注入スレハ保續稍久シ血清二十立方仙迷ノ免疫期亦殆ント相同シ其量ヲ増サハ免疫期之ニ準シテ延長スヘシ

駒場農科大學ニ於テハ時重學士牛疫ニ關シ攷々トシテ研究ヲ遂ケテ三

十年四月古弗氏ノ試験成績ニハ關係セズ全ク獨立ノ試験ニ依リテ左ノ成績ヲ得ラレタリ(中央獸醫會雜誌三十年五月發兌)

一、極メテ微弱ノ牛疫病毒ヲ健犢ニ接種シテ熱反應ヲ呈セサルモノハ完全ナル免疫性ヲ有セズ

二、著明ノ熱候ヲ呈シタル犢ハ常ニ免疫性ヲ有ス

三、一回ノ病毒接種ニ依リテ免疫セル犢ニハ再三劇毒ヲ接種スルモ爾後ハ毫モ熱候其他ノ異狀ヲ呈セズ

四、一回ノ病毒接種ニ依リテ免疫セル犢ノ血清不全免疫血清ハ健牛ノ生體量五十基瓦ニ付八十立方仙迷以上ノ大量ヲ注入スルモ免疫性ヲ與ヘズ

五、接種劇毒ニ對シ熱反應ヲ呈セサルニ至リシ犢ノ血清(十全免疫血清)ハ他ノ健牛ニ免疫性ヲ賦與シ之ヲシテ能ク接種劇毒ニ抵抗セシム

六、十全免疫血清ト雖モ發病後ニ注入シタルモノハ殆ト無效ナリ

七、免疫血清ハ注入後迅速ニ吸收セラレ局處及全身ニ認ムヘキノ異狀ヲ呈セズ

西ヶ原獸疫調査所ニ於テハ中濱醫學博士監督ノ下、舘井勝毅氏ハ左ノ實驗結果ヲ得タリ(同雜誌三十一年二月發兌)

第一 牛疫ニ罹リタル犢ノ血清ヲ他ノ健牛ノ皮下ニ注入スレハ之ヲシテ免疫性ヲ得セシムルモノトス

第二 牛疫ニ罹リテ斃レタル犢ノ膽汁ヲ他ノ健牛ノ皮下ニ注入スレハ之ニ免疫性ヲ賦與スルヲ得爾後數回劇性ノ病毒ヲ注入スト雖モ多クハ全ク發病セサルカ或ハ發病スルモ常ニ輕症ノ牛疫ニシテ數日ノ後速ニ恢復スルモノトス

第三 牛疫ニ罹リタル犢ノ血清或ハ膽汁ヲ注入シ爾後再三劇性病毒ヲ注入ヲ行ヒテ發病セサル犢ノ血清ハ克ク他ノ健牛ニ他働的免疫性ヲ受得セシムルモノナリ

右ノ如ク免疫法、血清療法ノ成績ハ頗ル佳良ナル如シト雖モ本邦ニ於

テハ未タ汎ク實地ニ應用シタル者ナシ從テ牛疫ノ治療若クハ豫防上實際ノ效驗如何ナル程度マテ顯ハルヽヤ今日直チニ明言スルヲ得ス須ラク後年ノ實驗ヲ待タサル可ラス

豫防法 牛疫發生シタルトキハ先ツ傳播ノ系統ヲ糾スヲ以テ緊急ノ要務トス實驗上吾人ハ左ノ事實ヲ知ル

(一)遠隔ノ地方ヨリ牛疫ノ侵入スルハ傳染牛ノ輸入ニ由ル媒介物ニ因ルハ至テ罕ナリ

(二)近鄰ノ地方ニシテ相互ノ間日々ノ交通アレハ牛疫ハ牛ト共ニ輸入セラレ又牛商若クハ牽付人ニ由テ輸入セラルヽコトアルヘシ

(三)日々交通アル處ニ於テハ生皮、肉脂肪、人、猫、犬、豚、馬、家禽等ノ媒介ニ由リ病毒ヲ輸スコトアルヘシ獨殊其他ノ食料、肥糞等亦之カ運輸物トナル牛疫ハ慘劇ノ惡疫ニシテ本邦ニ於テハ必ス外國ヨリ侵入シ來ルモノナレハ全國ノ畜産保護上極メテ嚴重ナル豫防法ヲ要ス

外國ノ牛疫侵入豫防法

本邦ノ牛疫ハ從來常ニ朝鮮ヨリ輸入セラレタリ朝鮮ニ次テハ支那、西伯利亞、暹羅、印度等ハ牛疫ノ危險アルヲ以テ牛、羊、山羊ノ輸入ニ對シ嚴重ノ取締法ヲ設クルヲ要ス

第一 永久防禦法

(一)外國牛ノ輸入禁止 是レ萬全ノ策ニシテ其實行ハ最モ希望スル所ナリ然レトモ食肉缺乏ノ爲メ輸入ノ已ムヲ得サルアレハ輸入ノ牛羊ハ特別指定港ニ於テ直チニ屠殺シ内地ニ牽入ル可ラス

(二)獸類檢疫場 長崎、神戸、橫濱ノ如キ樞要ノ港ニ於テ安全ノ場所ヲ選ビ少ナクモ二週間輸入家畜ヲ拘留シ適任ノ獸醫ヲシテ觀察セシムルノ法ナリ往時歐洲大陸諸國ニ於テハ牛疫侵入ノ防遏上確實善良ノ法トシテ之ヲ實行セシモ汽車汽船ノ便大ニ開ケ交通貿易頗ル發達シタルヲ以テ檢疫法ハ往時ノ如ク功ヲ奏セス且其維持ニ莫大ノ經費ヲ要スルヲ以テ大抵之ヲ廢止シタリ

本邦ハ歐洲列國ト其趣ヲ異ニセルヲ以テ開港檢疫ノ必要アルモ外國

ノ牛疫何時侵入スルヤ期シ難キヲ以テ常置檢疫ヲ行フニアラサレハ
勞シテ功ナカルヘシ

第二 臨時防禦法

近鄰ノ地方ニ牛疫發生シ傳播ノ危険アルトキハ其情況ニ應シ左ノ取
締法ヲ行フヘシ

- (一) 牛ノ輸入ヲ停止ス
 - (二) 境界獸醫ヲ置キ嚴ニ檢疫セシム
 - (三) 危険加ハ、ルトキハ反芻獸ノ皮其他ノ副産物ハ輸入ヲ禁スヘシ
- 右ノ他豫防制遏消毒法等ニ關シテハ獸醫警察學ノ成書ヲ參照講究ス
ヘシ

炭疽又脾脫疽 Anthrax(Gr.), Milzbrand(Germ.), Charbon(Fr.),

Carbone (Itl.), Anthrax fever, Carbuncle, splenic apoplexy, black
leg, or black quarter(Engl.).

名義

希臘語ノ「アントラクス」ハ炭ノ義ナリ蓋シ本病人ニ局發スレ
ハ其腫瘍暗黒色ヲ呈スルヲ以テ此名アリ通ク草食獸ニ發シ又他ノ獸
畜及人ニ傳染ス

史傳

太古ヨリ世ニ知ラレタル獸疫ニシテ聖書モ一ツス第三編ニ曰
ク炭疽ハ衣服ノ媒介ニ由リ人ニ傳染スト希臘ノホーメル Homer 氏著イ
リアヌ第一編ニ記セル人、驢、犬ノ流行病ハ炭疽タリシカ如シ羅馬人チヅ
非ット Ovid 氏本疫ノ侵入ヲ詳説シプリュータルチ Plutarch 氏耶蘇紀元前七
百四十年羅馬ニ於テ炭疽ノ大流行アリタルヲ説キヤオニース Dionys 氏
(紀元前四百)及リツ非ニス Livius 氏 (紀元前四百)ハ本病先ツ放牧ノ家畜ニ
發シ尋テ寺院ノ動物、僧侶、牧人ニ傳染シ遂ニハ一般ノ人民ニ傳染シタリ
ト曰ヒコラメラ Columella 氏創メテ人ノ脾脫疽ニ惡性膿泡ノ名チ下シブ
リニアヌ Pinus 氏紀元前三百七十五年移住民ノ腫瘍病トシテ之ヲ記載
セリ伊太利國ニ於テハ千五百五十二年、千五百九十八年及千五百九十九
年ニ反復大流行アリ當時維尼斯ノ政廳ハ死刑ヲ以テ病牛肉ノ販賣ヲ禁
シタリ千六百十七年ブタナシツム、キルボチル Athanasius, Kirchner 氏曰ク牛
ノ炭疽ハ人ニ傳染シ六萬人ヲ斃シタリ千六百六十二年吾炭疽大ニ里昂

近傍ニ行ハレ千七百十年及千七百三十一年ニハ全佛國ニ蔓延シタリ千六百九十年ラマツチーニIramazi氏ハ炭疽性安魏那ノ牛、豚ニ流行シタルヲ脱キ千七百十二年ニハ獨逸國ニ千七百二十六年ニハ波蘭、シレンシア及撒遜ニ千七百三十一年及千七百五十七年ニハ佛國ニ千七百五十八年及其翌年ハ芬蘭及露國ニ行ハレ千七百七十四年ニハ米國グアデループGuadeloupeニ發生シタリ

千七百八十年シヤメルChabert氏ハ諸種ノ炭疽ハ皆同性ナルヲ説明シ千八百五年カウシニKausch氏ハ炭疽病論ヲ公ニシタルモ其傳染性ヲ認メサリ千八百四十五年テラフオン及ガルラゴDelafond u. Gerlach 兩氏羊ノ炭疽ヲ精檢シ千八百五十年ホイジメンベルHeusinger氏ハ歷史上井ニ地理上ノ關係ヲ調査シタリ

千八百五十五年ホルンメンタルPollender (Wimperfurth) 氏病牛ノ血液中心ニ於テ桿菌ヲ發見シ巴里ノダーヴエンDavaine氏ドルハントDorpatノブラウエルBranel氏ハホルンメンタル氏ニ關係ナク各自此細菌ヲ見タリブ氏ハ生前血液中ニ之ヲ發見シ診斷及豫後上ニ之ヲ利用セリ千八百六十三年ダーヴエン氏炭疽ノ原因ハバクテリアナリト明言スコオン氏瓶ヲパチルレン

Bacillenノ名ヲ下シ永續芽胞ノ存在ヲ想像シタリ千八百七十年乃至千八百八十年有名ナル古弗氏桿菌ヨリ芽胞ヲ生シ芽胞又、パチルレンニ變スルヲ檢證シ本菌ノ純粹培養ヲ作り其生殖ヲ闡明シタリ氏カ學術上ノ功績偉大ナルハ因ヨリ數言ヲ要セス千八百八十年乃至千八百九十年間ツーサン及バストールToussaint u. Pasteur 氏等豫防接種法ヲ研究實行シタリ

原因 炭疽ノ本因ハ炭疽菌 *Bacillus anthracis* ト稱スル一種ノ桿菌ナリ蓋シ本菌ハ分裂菌ニ屬スルモノニシテ永續芽胞ヲ生スルヲ以テ其特性トス

(一) 桿菌 大杆狀菌ニシテ運動性ヲ具ヘス杆端銳削ニシテ稍、肥厚ス其長サ五乃至二十ミクヲ幅一ミクヲアリ動物ノ種類ニ從テ大差アルモ平均紅血球ノ直徑ニ倍スルヲ以テ分裂菌中最モ大ナリ

此桿菌ノ著色セサルモノハ透明同質ニシテ其原質ハ炭疽ぶろていん Anthraxprotein ト稱シ他ノ細菌ノ蛋白質 Mykoprotein ニ異ナレリト曰フ「ピスマルタ」褐又ハ「ウエヌユウキシ」ヲ以テ著色スレハ他ノ細菌ニ於テハ顯著ナラサル特兆ヲ呈ス則チ各桿菌ハ數箇ノ連節ヨリ成リ各節ノ

長サ三乃至四ミクラーリ各節端ハ稍膨大シ端面ハ僅ニ陷凹シ頗ル竹節ニ類ス近者各「バチルレン」ニ包囊様ノ莢(膜)アルヲ發見シタル者アリ而シテ此膜ハ殆ト染色セス此ノ如キ杆菌ハ動物體ノ各部ニ存スルモ就中内臓及血液中ニ夥シ活體ニ於テ横裂及延長(無芽胞脾脫痘菌)ニ由テ増殖ス

動物體外ニ於テハ杆菌ハ延長シテ線狀トナリ往々錯綜スルモ曾テ分枝ヲ生セス原菌ノ長サニ百倍スルニ至ル線條ノ内容ハ次第ニ細顆粒ヲ生シ光線屈曲ノ強キ卵圓小體所謂芽胞ヲ生ス而シテ芽胞ハ線條死滅ノ後線外ニ遊離ス

炭疽菌ハ諸種ノ培養物ニ蕃殖ス

膠培養 刺培スレハ刺孔ヨリ灰白色ノ纖細ナル突起ヲ生シ平板培養ニ於テハ每聚落ノ周縁ニ束毛狀ヲ呈ス此束毛狀周縁ハ脾脫痘菌ノ特有ナルトモ間々之ヲ現セサルコトアリ然ルトキハ聚落ノ全體球狀ノ捲絲様ナル體裁ニシテ之ヲ弱度ノ廓大ニテ檢スル

ニ常ニ絲狀ノ結構ナルヲ詳ニス本菌ハ膠ヲ液化ス

馬鈴薯培養 灰白色聚落膜ヲ形成シ細菌ハ卵圓形ノ芽胞ヲ含ム

寒天培養 塗培スレハ灰白鈍耀ノ聚落簇ヲ發シ之ヲ透見スレハ

銀耀ヲ呈ス是レ亦本菌ノ特性ナリ

凡テ人工培養上ニハ本菌常ニ長線狀ニ繁殖シ數百ノ杆菌茲ニ存

在スルモノトス(岡田氏細菌學)

本菌ハ亞尼林染料(めちーれんぶらう)ヲ以テ塗布乾燥標品ヲ製スレハ芽胞ハ著色セス杆菌ノ固有連節ハ明カニ檢シ得ヘシ芽胞ヲ染ムルニハ豫メ十五秒間濃厚硫酸中ニ浸シ次ニ注意シテ之ヲ洗去スヘシ本菌ハグラム氏法ニ依テ著色ス

炭疽菌ノ生殖狀態 生活狀況ヲ詳ニスルノ必要ハ形態檢

査ノ必要ニ讓ラス左ニ掲ケタル培地、酸素、溫度并ニ防腐消毒藥ト

本菌トノ關係ハ頗ル重要ナリ

(イ)培地 本菌ノ培養地ハ哺乳動物ノ血液、血清、滲漏液、眼ノ水様

液、乳汁并ニ他ノ分泌物及排泄物ナリ又本菌ハ牛糞、中性若クハ弱酸性ノ肉煎汁、肉水、百布頓膠、生鮮若クハ煮熟セル馬鈴薯、芻秣、搗碎麥、豆等ノ浸汁ニ蕃殖ス發育上若干ノ水分ヲ要スルモ多キニ過クレハ(70以上)反テ死滅ス故ニ「バチルレン」ハ蒸餾水及導水中ニ在テ地窖温ニ接スレハ既ニ一日ニシテ死シ室温及孵卵温ニ接スレハ速ニ死ス多量ノ有機物ヲ混スル水中ニ於テモ亦速ニ活力ヲ失ヒ又乾燥ニ由テ死ス

(ろ)酸素 炭疽菌ハ所謂要氣菌ニシテ發育上酸素ヲ要ス屍體內ニ於テ芽胞ヲ生セサルハ酸素ノ供給不足ニ由ルヨリ「Johns氏」ニ據レハ屠肉中ニ於テモ本菌ハ線條并ニ芽胞ヲ生セス數日間夏日ノ熱ニ暴露スルモ亦然リ是ヲ以テ炭疽血液ヲ密閉管中ニ貯フレハ八日以後ハ傳染セス之ニ反シ炭疽病獸ノ肉ノ表面并ニ細切シタル肉中ニ在テハ適宜ノ温度、濕氣ヲ得レハ芽胞并ニ杆菌ノ發育迅速ナリ

(は)温度 「バチルレン」ノ發育上温度亦極メテ必要ナリ生殖上最良ノ温ハ攝氏三十五度トス之ヨリ以上若クハ以下ノ温ハ發育ヲシテ遅徐ナラシメ+12°Cノ温ニ於テハ發育全ク止ム土壤ノ深部ニ於テハ土温ノ温度ハ攝氏其發育停止スルヲ常トス攝氏四十五度ノ温ハ發育ヲ中止ス之ヲ滅殺スルニハ久シク五十五度ノ熱ヲ加ヘサル可ラス高温ニ接セシムレハ毒力減少スルヲ以テバストール氏之ヲ利用シ久シク酸素ヲ通シテ四十二度乃至四十三度ノ熱ヲ加ヘテ培養シ「Toussaint氏」亦五十度乃至五十五度ノ熱ヲ加ヘ接種材料ヲ製シタリ低温ニテハ四十度ニ於テ「バチルレン」ヲ殺シ得ルノミ攝氏零以下十度(10°C)ノ寒氣ハ三日間持續スルモ「バチルレン」ヲ殺スニ足ラス「Gibier氏」ハ零度以下四十五度(15°C)ノ寒氣ニ由テ菌力ヲ薄弱ナラシメ以テ接種材料ヲ製シタリ

(に)光線 「Arlong氏」ニ據レハ光線ハ「バチルレン」ノ成

長ヲ制止ス日光ノ力特ニ強シト曰フ

(ほ)腐敗 腐敗作用ハ久シキニ瀕レハ炭疽菌ヲ殺シ健全ノ胃液亦殺菌ノ效アリストラウス及ツルツ Straus und Wurtz 兩氏ニ據レハ芽胞ヲ含メル「バチルレン」ヌラ半時間胃液ノ作用ヲ受クレハ死滅スト曰フ

(へ)化學的藥品 炭疽菌發育抑制ノ效アルモノハ昇汞(1:300,000-1,000,000)芥子油(1:33,000)亞砒酸加里(1:10,000)沃度(1:500)臭素(1:150)撒里矢爾酸(1:150)石炭酸(1:1000)硼酸(1:800)規尼涅(1:600)等ナリ

殺菌力アルモノハ昇汞(1:30,000)クレヨリン(1:15,000)石炭酸(1:100-200)「チモール」及撒里矢爾酸(3:1000)過滿倫酸加里(1:1000)亞硫酸酒精等ナリ沃度仿謨ハ動物體ノ内外ヲ問ハス「バチルレン」ニ變化ヲ來サ、ルモノトス食鹽ヲ撒布スレハ「バチルレン」ハ十八時乃至二十四時ノ後死スルト曰フ(フォステル Forster 氏說炭疽病獸ノ脚

臟血液等ヲ醗藏スルモ亦「バチルレン」ハ十八時間以内ニ死ス然レトモ芽胞ハ月餘醗藏スルモ之ヲ殺スヲ得ス

(二)炭疽芽胞 動物體外ニ於テハ杆菌ノ遊離端常ニ延長シ細顆粒ヲ生シ最初光線屈曲ノ強キ小體ナルモ漸次増大シテ眞ノ卵圓形芽胞ト成ル芽胞已ニ形成セハ杆體ヨリ分離シ一時遊離ノ體ト成リ適良ノ培地ニ遭遇スレハ爰ニ發芽シテ橢圓ノ芽胞ハ長徑ニ延大シ光輝ハ漸ク消失シテ杆菌ト成リ杆菌又分裂シテ漸次増殖ス
芽胞ハ地中ニ埋没シタル屍體内ニ入レハ十年以上モ發芽力ヲ有シ又動物體ニ關係ナク、土壤及地水中ニ蕃殖ス是レ實際上極メテ重要ノ事トス炭疽ノ流行地若クハ常存地ニ於テ新症ノ發生ナキモ多年病毒遺存シ食物、土壤、流水、洪水汎濫等ニ由テ隨處ニ傳播スルハ此理ニ由テ説明スルヲ得則チ炭疽菌ハ内生菌 Endogen ナルノミナラス又外生菌 Exogen タルヲ以テ本病ハ觸接兼瘴氣性傳染病ニ屬ス

炭疽芽胞ノ生活狀態 芽胞ノ生活狀況ハ「バチルレン」ニ異

ナレリ蓋シ芽胞形成ニハ酸素ト若干ノ温度ヲ要ス而シテ適好ノ温ハ攝氏三十五度ニシテ温度ノ上下限ハ攝氏十二度乃至四十三度ナリ(夏日ノ暑氣又ハ室温ニ於テハ二日ノ後盛ニ芽胞ヲ生ス)光線亦杆菌ヲ殺シ且芽胞ノ發生ヲ抑止ス日光カ芽胞ヲ含メル液中ニ置入スルトキハ特ニ然リ之ニ反シ芽胞ハ諸般ノ作用ニ對シハ「ハル」イン「ヨリ」モ遙ニ頑抗ナリ則チ芽胞ハ水中ニ久シク生存シ多年乾燥スルモ尙ホ有力ナリ大熱酷寒モ之ヲ殺ス能ハス例之十分間攝氏百十度ノ熱ヲ加ヘ或ハ攝氏零下百十度ニ於テ一時間冷却スルモ死ニ陥ラズ腐敗作用モ多年ヲ經ルニアラサレハ芽胞ヲ滅殺セス消毒藥中昇汞「クレヨリン」格魯兒臭素及沃度ハ有力ナリ千倍ノ昇汞水ハ十分間、二%ノ格魯兒臭素及沃度水溶液ハ一日中、三%ノ「クレヨリン」溶液ハ四十八時間ニ芽胞ヲ殺スト曰フ五%ノ結麗阿曹篤中ニハ二十日、十%ノ「リゾール」液中ニハ十九日、五%ノ石炭酸溶液中ニハ十二日間モ有力ナリト曰フ

發病ノ理

炭疽ノ「バチルレン」及芽胞ハ動物ヨリ動物ニ直接ニ傳染スルハ稀ナリ通常病毒ハ病獸ノ分泌物及排泄物ニ附著シ媒介物(人類、昆蟲等)ニ依リテ傳播シ其大多數ハ土地ヨリ傳染ス所謂「ミアズマ」傳染 Miasmatic infection 是ナリ而シテ傳染毒ノ侵入地ニアリ曰ク「營養管」呼吸道、皮膚是ナリ牛ニ在テハ腸ヨリ侵入スルヲ普通トシ馬、羊ニ於テハ皮膚若クハ腸ヨリ侵入ス而シテ皮膚傳染ハ蠅虻ノ媒介ニ由ルモノ最モ多シ

(二)腸傳染

普通ノ傳染法ニシテ腸炭疽一名内臟炭疽、炭疽熱又ヲ來ハ外表ノ患部ナキ炭疽ニ專ラ飲食物ト共ニ芽胞ヲ攝取スルニ因ル「バチルレン」ニ由ルハ稀ナリ是レ「バチルレン」ハ酸性胃液ニ逢フテ滅殺セラル、モ遊離芽胞ハ毫モ其害ヲ被ムラサルカ爲メナリ本病ノ流行中ハ此侵入法ヲ普通トナス傳染ノ部位ハ小腸ニシテ其粘膜ニハ必スシモ毀損アルヲ要セス芽胞ノ運輸物ハ屍體ノ埋沒地附近若クハ糞尿、血液等ノ存セル土地ニ生シタル草并ニ本病常存地ノ飼料トス芽胞ハ又飲水井水、池沼、ト共ニ動

物ノ體內ニ入ルコトアルヘシ屍體若クハ其一部ノ存スル附近ノ糞皮所羊毛洗場等ニ於テハ常ニ病毒ヲ含ムノ恐アリ又人工肥料^{病獸ノ糞、毛、血液等}ハ傳染ノ媒介トナルコトアルヘシ肉食獸ハ病獸ノ肉内臟等ヲ食シ乳仔ハ乳汁ニ由リテ傳染ヌ又厩土、糞料ヨリ傳染スルコトアルヘシパスツール Pasteur 氏ノ説ニ據レハ地中ノ芽胞ハ蚯蚓ニ依テ地上ニ輸致セラルヘシトカアルリンスキ Karinski 氏ハ芽胞ノ蝸牛ニ依テ運搬セラル、ヲ見タリ

(二)皮膚傳染 是レ接種炭疽、外性炭疽又ハ炭疽癰ト稱スルモノハ病原ナリ、バチルレン及芽胞ハ皮膚ノ創傷(天然口ノ粘膜モ亦然リ)ヨリ侵入ス牧場又ハ厩舎内ノ負傷、咬傷、刺絡其他ノ手術^{器械不潔ニシテ病}ノ創ヨリ傳染ヌ又蠅、蛇ハ屢、傳染ノ媒介ヲナスボリソングル及チエーリソングル Zeilinger 氏ハ炭疽ノ屍體ニ宿レル蠅ヲ捕ヘ其病毒ヲ兎ニ接種シテ本病ヲ發セシメタリ又マクノフ Macnoff 氏ハもるも^モノ皮膚ニ炭疽ノ培養液ヲ塗擦シテ發病セシメタリ

(三)吸入炭疽

稀有ノ症ニシテ芽胞ハ肺臟ヨリ體內ニ竄入ヌ又健全ナル呼吸器モ此方法ニ由テ傳染スルハフエサー、ブクネル Fecher, Buchner 氏等ノ檢證セシ所ナリ

前ニ述ヘタル三種傳染法ノ外母體ヨリ胎兒ニ傳染スルコトアリ體內ニ於ケル芽胞及「バチルレン」ノ傳播ハ左ノ如シ
皮膚炭疽ニ在テハ「バチルレン」ハ局部ノ皮膚及皮下織ニ増殖シ蔓延遅徐ナルヲ以テ多クハ癰腫ヲ發スルノミ然ルニ皮下織若クハ粘膜炎下織ヨリ傳染スレハ蔓延迅速ニシテ炭疽性浮腫ヲ發シ「バチルレン」ハ更ニ淋巴系統及血管ノ媒介ニ由テ散漫ス其蕃殖ノ最モ盛ナルハ血液中ナリトス故ニ「バチルレン」ハ脾臟、腸粘膜炎、腸間膜、縱隔、肺臟等ノ毛細管流域ニ夥シク末梢血管ニ於テハ本菌ヲ檢出シ得サルコトアリ
此細菌ハ毛細管内ニ攪簇スレハ毛細管ヲ破裂シ溢血ヲ致ス而シテ細菌大攪簇ノ轉移ハ内臟ニ在テハ癰腫及浮腫ヲ來シ皮膚ニ於テハ膠樣浸潤及溢血ヲ生ス

血中ニ於ケル炭疽菌ノ作用 未タ審ナラサルモ從來世ニ知
ラレタルハ左ノ數説ナリトス

(一) 酸素奪去説

(二) 器械的學説

ボリリングル Bolinger 氏ノ唱フル所ニシテ出血
ヲ説明スルニ足ルモ他ノ症狀ヲ説明スルヲ得ス

(三) 化學的學説

ホッフア Hoffa 氏ハ炭疽菌ノ新陳代謝產物ヲ析出
シ之ニ炭疽類鹽基 Anthracin ノ名ヲ下シ所謂ブリーゲル氏フトーマイ
ン(炭)ノ「ノイリン」 Neurin ニ類似スト云ヒ之ヲ以テ炭疽ノ死因ト看做
シタリ

發生

炭疽ハ動物中牛ニ最も多シ凡テ草食獸牛、羊、山羊、馬、鹿、駱駝并ニもる
も_ト及豚ハ最も本病ニ感染シ易シ、猫、兔之ニ亞ク、犬、豚ハ感受力微少ニ
シテ鼠ハ殆ト不感性ナリ、鳥類ニ在テハ鷄、鵝、鳩ハ之ヲ感受シ、殺生鳥ハ
毫モ之ニ感セス、魚、蛙等ハ感受力極メテ微ナリ、外國ヨリ輸入セル動物
ハ土産種ヨリモ之ニ罹リ易ク榮養佳良ノモノハ先ツ感染ス一回之ニ

罹リテ恢復スレハ幾分ノ免病質ヲ得ルト曰フ

炭疽ニ散發性、地方性、流行性ノ別アリ、或ル地方ニ於テハ常存ス其發病
ハ地質、植物、濕氣及溫度ト重大ノ關係アリ、蓋シ黑色輕鬆ノ腐植土并ニ
石灰質、泥炭質及粘土質ノ土壤ニシテ有機物ニ富メル地方ニハ發病シ
易シ、泥沼沮洳ノ地方ニ於テ地下層不滲透質ナルモノ、炎暑ノ候半ハ乾
燥スレハ特ニ發病ヲ促シ、洪水汎濫後炎威赫々タルトキハ病原菌大ニ
發育ス故ニ炭疽ハ夏日主ラ卑濕ノ地ニ流行シ、冬期ニ及ヘハ輒チ熄ム

地理

炭疽ハ北極、赤道、平地、山岳ヲ問ハス宇内到處發生セサルハ
ナシ、本邦ニ於テハ埼玉、大分、福岡、熊本、宮崎、鹿兒島、沖繩、群馬、茨城、千葉、鳥
取、滋賀、和歌山、兵庫等ノ諸縣ニ屢ニ發生ス、就中流行ノ大害ヲ被ムレルハ
埼玉縣ナリ、明治十八年前ノ統計ハ詳ナラサルモ同十九年九月同縣下
ニ於テ九十八頭ノ馬匹之ニ罹リテ斃ル當時ヤンソン教師與食、時重兩
學士等其豫防制遏ニ盡力シタリ、同二十年熊本、岐阜ノ二縣ニ流行シ、發
病馬匹三百五十八頭ノ中斃死セシモノ二百七十八頭ノ多キニ達セリ

此他大阪三重岐阜大分福岡熊本長崎鹿兒島ノ一府八縣ニ於テ炭疽ニ罹リタル牛九十一頭アリ其中七十九頭ハ斃死セリ
 同二十一年牛馬發病計三百五十九頭其中熊本縣ニ於テ百三十九頭ノ馬匹炭疽ニ罹リ百三十五頭ハ斃ル又島根縣下ニ於テハ四十五頭ノ牛發病シ皆斃死セリ

同二十三年炭疽發病地方ハ埼玉外七縣ニシテ患牛馬ノ總數三百十八頭トス而シテ其病勢猖獗ヲ極メタルハ埼玉縣下ニシテ患馬百八十七頭ノ中十四頭ヲ除クノ外悉ク斃レタリ

同二十四年發病地方ハ大阪府外十四縣ニシテ患牛馬ノ總數百八十四頭此中二十七頭ヲ除クノ外悉ク斃死セリ

剖檢 重モナル解剖的變狀ハ左ノ如シ

(一)血液ノ變化 血液ハ暗黑色ヲ帶ヒ莖兒ノ如シ能ク凝固セヌ白血球ハ增多シ紅血球ハ變形ス

(二)出血 皮下織漿液膜下粘膜下織并ニ諸內臟(心肺等)ニ大小不同ノ

出血アリ

(三)漿液浸潤 漿液膜下殊ニ腸間膜縱隔ノ二層間腸粘膜下及皮下ノ結締織ニ膠樣ノ浸潤アリ

(四)脾臟 腫大內臟殊ニ肝ノ實質炎

(五)炭疽菌 內臟ノ毛細管及腸間膜ノ膠樣浸潤中ニ夥シ

剝皮スレハ皮膚ノ血管ハ暗色ノ血液ヲ充溢シ表皮及真皮ニハ小出血アリ接種炭疽ニ於テハ皮膚一部ノ肥厚壞死炭疽癰ヲ見大浮腫ノ場合ニ於テモ皮膚ノ大部壞死ス

皮下織ニハ大小不同ノ出血竈アリ浮腫ノ場合ニ於テハ膠樣ノ浸潤アリテ廣大面ニ瀰リ橙黃色乃至黃褐色ヲ呈シ處々斑點狀若クハ平面ノ出血ヲ呈ス又純然タル血液浸潤ヲ見ルコトアリ附近ノ淋巴腺ハ腫大シ血液漿液ヲ浸潤ス

筋肉ハ暗褐赤色乃至藍赤色ヲ帶ヒ脆弱ニシテ小出血ヲ示シ心筋質亦同狀ヲ呈ス

心臓ハ通常擴張弛緩シ柔軟ニシテ恰モ煮熟セルカ如ク心内膜下ニハ出血性膠樣浸潤アリ
 胸腹腔及心囊ニハ多量ノ血樣液蓄積ス
 脾臟 平素ノ二倍乃至五倍ニ増大シ其軟肉ハ柔軟巴布狀ニシテ黒赤色ヲ帶ヒ其被包ハ大ニ緊張シ小出血若クハ水疱樣ノ血腫ヲ呈ス
 肝腎ハ大ニ充血腫脹シ其實質ハ溷濁シ出血竈ヲ顯ハス門脈ノ淋巴腺ハ往々増大シ腎圍ノ組織ニハ膠樣ノ漿液浸潤アリ腹膜ハ間一様ニ潮紅ス
 腸ノ變狀ハ炭疽ノ種類ニ從テ異ナレリ接種炭疽ニ於テハ腸ニ異常ヲ見ス他ノ場合ニ於テハ粘膜炎及漿液膜下出血又ハ腸間膜淋巴腺ノ腫脹アリ腸炭疽ノ大變狀ハ小腸殊ニ十二指腸ニ現ハレ大腸ニ之ヲ見ルハ稀ナリ輕症腸炭疽ニ於テハ腸粘膜炎腫起シ斑々赤色ヲ帶ヒ出血ヲ呈スバイエル氏腺及孤腺ニハ往々爛斑ヲ見ル腸ノ粘膜炎ニハ無數ノ炭疽菌アリテ其數極メテ多キ部ハ腸ノ壞死潰瘍ヲ生ス劇症ニ於テハ

已ニ胃粘膜炎ニ膠樣漿液及血液ノ浸潤アリ胃腸殊ニ十二指腸粘膜炎ハ大充血ノ爲メ暗赤色乃至黒赤色ヲ帶ヒ爛斑潰瘍及壞死ヲ顯ス腸ノ内容ハ血液樣ニシテ粘膜炎下ニ浸潤アルカ爲メ粘膜炎ハ大ニ肥厚ス(所謂炭疽浮腫)
 バイエル氏腺及孤腺ノ在所ニ小隆起腫脹アリ實扶的里性茄皮ヲ被ムリ「パチルレン」ヲ充盈ス腸間膜腺ハ著シク腫大シ出血浸潤アリ稀ニハ同様ノ變狀直腸ニ生シ其粘膜炎ハ肥厚シ處々壞死シ其表面ニハ血液ヲ附著ス
 呼吸器 肺臟ハ大ニ充血シ處々溢血斑及浮腫ヲ呈ス全呼吸道ノ粘膜炎ハ潮紅シ血斑ヲ顯ハシ咽喉ノ粘膜炎ハ大浮腫若クハ膠樣浸潤ヲ發ス(所謂炭疽性安魏那氣管及氣管枝)ハ粘液若クハ血ヲ交ヘタル泡沫液ヲ含ム
 腦ハ充血シ血斑ヲ呈シ時トシテハ腦膜ニ出血アリ腦側室ニハ漿液ヲ蓄積ス又眼ノ前房網膜下ニ溢血ヲ見ルコトアリ
 凡テ他ノ臟器泌尿生殖器、唾腺、甲状腺、骨關節等ニハ出血アリ尿ハ往々血液ヲ混ス

屍體ハ厥冷スルコト遲ク死後強直ヲ缺キ速ニ腐敗シ大ニ氣脹ヌ露出
 粘膜ハ藍赤色ヲ帶ヒ天然口肛門肛門ヨリ血液ヲ漏シ直腸ハ間、翻轉ス
 凡テ前記ノ變狀ハ最急性炭疽所謂本中ニ於テ缺如スルコトアルモ必
 ス屍體中ニ特異ノ病原菌アリ

一般症候

炭疽ノ症狀ハ動物ノ種類ニ依テ差アルノミナラス同種

ノ家畜ニ於テモ病患ノ占位皮膚、肺臟等并ニ病毒侵入ノ多寡ニ從
 テ異ナレリ其經過ニ於テモ急性ト弛張性ノ別アリ

然レトモ各種炭疽ノ特徵ハ卒然ノ發病、急劇ノ致死的經過平均一日全
 身大違和、高熱、粘膜出血并ニ血中炭疽菌ノ檢出トス此他皮膚ノ癰及浮
 腫、腸症、腦症、呼吸困難ノ如キ局處症候アリ

炭疽ニ數多ノ類別法アリ或ハ經過ニ從テ最急性、急性及次急性ニ區別
 シ或ハ局處症狀ノ有無ニ依ル今茲ニハ姑ク後者ノ類別法ニ據ルヘシ

〔甲〕外表ノ患部ナキモノ

通常芽胞傳染ニ因テ起ルモノニシテ實驗上芽胞ヲ飼料ニ混シテ喰ハ

シムレハ之ヲ發ス此種ハ經過ニ依テ最急性、急性及次急性ニ區別ス

(一)最急性炭疽

Anthrax acutissimus 一名**卒中性炭疽** *Anthrax*

apoplecticus 本症ハ腦卒中ノ徵ヲ呈ス則チ俄然卒倒シ搖擗ヲ發シ多ク
 ハ口、鼻孔及肛門ヨリ血液ヲ漏シ數分時乃至一時間内ニ斃ル前夜健全
 ナリシモノ翌朝已ニ斃死セルモノアリ或ハ使役中若クハ放牧喫食中
 ニ卒死ス流行ノ初メ牛、羊ニ頻發ス

(二)急性炭疽

Anthrax acutus 經過ハ前症ノ如ク迅急ナラサルモ二

時間乃至十二時間、長キモ二十四時間ヲ出テス牛ニ最モ多ク馬、羊之ニ
 亞ク病獸ノ體溫遽ニ昇騰シ福氏四十二度乃或ハ腦充血ノ徵ヲ呈シ或ハ
 肺充血ノ症狀ヲ發ス

腦充血ノ場合ニ於テハ不安興奮シ前肢ヲ以テ亂踏シ後肢ヲ擧テ腹ヲ
 蹴ラントシ跳躍、哮喘、狂亂苦悶彼此ニ動搖シ咬牙、掣搐ス尋テ痴鈍迷朦
 ノ徵ヲ發シテ斃ル

肺充血ノ徵ハ呼吸促迫、呻吟、哀鳴、心悸亢進、脈搏頻數細弱、頭部粘膜藍赤、

天然孔ヨリ出血シ血尿ヲ漏シ指搦ヲ發シ窒息シテ斃ル此般ノ徵一時減退シ暫時ノ後復タ發ス所謂弛張性炭疽 Anthrax remittens 是ナリ時トシテ倦怠不消化便秘裏急後重ノ如キ前兆ヲ認ム

(三)次急性炭疽 Anthrax subacutus 一名炭疽熱又間歇性炭疽

Anthrax-fever, intermittent anthrax 普通馬牛ニ於テ見ル所ノ症ナリ其症候ハ大體急性炭疽ニ同シキモ彼ノ如ク顯著ナラス其經過ハ平均二十四時乃至四十八時間ニシテ最モ長キハ五日乃至七日ニ互ル

熱候ハ戰慄皮温不齊全身違和ニ徵シテ知ルヘク其他ニ肺充血腦充血ノ徵アリ往々之ニ疝痛ヲ併發ス病勢ノ弛張ハ前症ヨリモ甚シク間歇スルコトアリ

(乙)外表ニ患部アルモノ

概テ「バチルレン」傳染ニ基クハ接種癰ニ徵シテ明カナリ

皮膚ノ炭疽癰及浮腫 本症ハ專ラ馬牛ニ發ス所謂癰ハ限局性

ノ皮膚腫脹ナリ初起硬固ニシテ熱痛ヲ帶フルモ後ニハ厥冷無痛トナ

リ遂ニ壞死ス

炭疽性浮腫ハ扁平ノ皮膚腫脹ニシテ其硬度捏粉ノ如ク往々波動ヲ呈シ寒冷無覺ナリ病期ハ三日乃至七日ニ互リ治療スルコトアリ

粘膜炎炭疽癰及浮腫 口腔ニ發スレハ舌炭疽 Glossanthrax ト稱シ咽

喉ニ發スレハ炭疽性安魏那 Anthrax angina ト名ツケ直腸ヲ侵ヒハ

直腸癰又ハ腰出血 Rückenblut, Lendenblut ト稱ス熱候呼吸困難喉頭

狹窄音嚙下困難一般テアノ「ゼ」咽喉頭及前胸ノ腫脹努責等ヲ發シ十

二時間乃至二十四時間内ニ斃ル但シ本症ハ豚犬ニ多シ

動物ノ種類ニ從テ區別スレハ牛ニ最モ多キハ炭疽熱卒中性炭疽及癰

ニシテ馬ニ於テハ亦之ニ同シク特ニ炭疽熱ヲ多シトス羊ニハ卒中症

犬ニハ癰腫豚ニハ炭疽性安魏那及舌炭疽ヲ多シトス

診斷 生前ノ診斷ハ次急性并ニ急性ノ症ニ於テハ血液ヲ鏡檢シ流

行ノ狀ヲ觀察シテ之ヲ決スヘシ細菌ハ内臟ニ集中スルヲ以テ或ハ發

見シ難キコトアリ須ク精檢スヘシ尋常ノ肺充血若クハ腦充血トハ病

微頗ル相類似スルモ熱候ノ高キヲ特點トス中毒トノ鑑別ハ頗ル難ク多クハ剖檢ヲ要ス

死後ノ鑑定ニ於テモ肉眼的検査ヲ以テ足レリトセス顯微鏡ヲ用キテ炭疽菌ヲ發見スルヲ要ス染料ヲ加ヘス單ニ鏡檢スルモ可ナリト雖モ更ニ著色スルヲ妙ナリトス則チ一滴ノ血液ヲ薄ク被板ニ塗布シ注意シテ酒精燈若クハ瓦斯ノ火焰上ニ乾燥セシメゆちいれんぶらう又ハげんちわん^{glove}をれど溶液一二滴ヲ滴下シ一二分時ノ後之ヲ洗ヒ加那陀拔爾撒謨ヲ以テ之ヲ封スレハ久シク貯フコトヲ得

他ノ診斷法ハ接種法トス蓋シ鼠家兔もるもど羊等ノ皮下ニ病獸ノ血液粘液糞便等ヲ接種スレハ兩三日ノ後重症ヲ發シテ斃ル

一般類症鑑別

炭疽ト誤診セラレ易キ疾病ハ各獸炭疽ノ條下ニ於テ詳論スヘシ今茲ニハ炭疽菌ニ類似ノ細菌ヲ畧說セン

(一)腐敗菌

腐敗菌ノ中ばくteri^{us}あむてるもを Bacterium termo ハ固

ノアルトキハ著色シテ杆端ノ銳割竹節狀ノ連節杆端面ノ微凹階ヲ發見シ尙ホ疑アルトキハ試驗的接種ヲ施スヘシ

(二)氣腫疽菌

炭疽菌ヨリモ短ク且ツ厚クシテ菌端鈍圓活潑ニ運動シ瓦斯ヲ生ス加之嫌氣性ナルヲ以テ馬鈴薯面ニ蕃殖セス

(三)惡性水腫菌

炭疽菌ヨリモ細狹ニシテ連節ヲ缺キ菌端銳割ナラス又血中ニ存セス通常遅々タル運動ヲ呈シ長線ニ成長シ培地ニ瓦斯氣泡ヲ生ス

(四)乾芻菌

短厚ニシテ一種ノ運動ヲ呈シ其兩端ニ鞭毛ヲ附着ス此細菌ハ一芽胞ヨリ縱軸ニ發育ス

一般豫後

豫後不良ニシテ死亡率ハ平均七十乃至九十%卒中性ニ於テハ百%ナリ流行久シキニ瀰レハ緩和ノ經過ヲ取ルコトアリ一タヒ之ニ罹リテ恢復シタルモノハ暫時免病質トナル自然ニ治癒スルモノ亦稀ナリトセス

一般療法

豫防法ヲ緊要ナリトス其法屍體ヲ滅却シ厩舎ノ消毒ヲ

厲行スルニ在リ其他ハ獸疫豫防法ノ規定ニ從フヘシ屍體ノ滅却ハ燒棄ヲ最良トス事情ニ依リ燒棄スル能ハサレハ人家、公道若クハ牧場ヲ距ル適宜ノ地ヲ選ヒ深サ六尺以上ノ土塋ニ埋ムヘシ消毒法ニハ昇汞(1:100)「クレヨリン」(3%)格魯兒又ハ貌羅謨水(2%)格魯兒石灰水、石灰乳ヲ供用ス

炭疽ノ常存地方ニ於テハ合理的土地改良法ヲ施シ其危險ヲ減スヘシ則チ卑濕沮洳ノ處ニ於テハ排水法ヲ施シ河川ヲ浚深シ疑ハシキ牧場ニ放牧セス又疑ハシキ井水ヲ飲マシム可ラス轉地ハ最モ希望スル所ナルモ多クハ實行シ難シ飼料及飲料水ノ變換亦然リ豫防藥鹽酸、クレ、石炭酸、撒里、矢爾酸等ノ内用ハ概ネ無效ナリ

醫藥ハ古來試用セラレタルモノ頗ル多シ例之クレヨリン、昇汞皮下注射、石炭酸、撒里、矢爾酸牛五瓦内服、至ルイゴオル氏液(沃度三〇〇沃度加里六〇〇)留水三六〇〇每二時二食匙ヲ一リートルノ水ニ和シ牛ニ與フ、リゾオール、格魯兒水、砒石、磷、鹽酸、的列並底油、礫砂精等ノ如シ又中性鹽類

下劑及甘汞少量ヲ慣用ス然レトモ效驗ハ孰レモ確實ナラス往時ハ肺充血及腦充血ニ於テハ刺絡シタリ

癰腫ハ深ク切開シ消毒藥若クハ烙鐵ヲ施スヘシ

豫防接種法 許多ノ動物ハ一タヒ炭疽ニ罹リテ恢復スレハ再感ニ對シ幾分ノ免病性ヲ得ルノ事實ハ古來世ニ知ラレタリ又天然ノ種類的免病質ヲ有スルモノアリ例之亞爾設里及バルブ種羊ノ如シ又簡體免病ナルモノアリ之ニ反シもるもト、家兔、驢ハ何等ノ方法ヲ以テスルモ不感性トナスヲ得ス馬ニハ之ヲ賦與スル頗ル難シ人類亦免病質ヲ有セス然ルニ牛、羊ハ接種法ニ依テ暫時免病質トナスヲ得ハシ

豫防接種ハツツサン Toussaint 氏ノ法ヲ以テ嘴矢トス蓋シ氏ハ炭疽病獸ノ血液ヲ脱織シ十分乃至十五分間之ニ攝氏五十度乃至五十五度ノ熱ヲ加ヘ直チニ之ヲ接種用ニ供シタリ尋テバストール Pasteur 氏ハ炭疽菌ヲ薄弱ナラシムレハ免病性ヲ得ルコトヲ發見シタリ此他現今行ハル、毒力減弱法一ニシテ足ラス或ハ熱ノ作用ニ依リ(バストール、ツ

ウサン、シロー、ゾー氏或ハ、壓搾酸素ヲ用キ、シロー、ゾー及ウオスチ
 ヌセン、メキ、Chauveau and Wosnessenski 氏或ハ、防腐藥(チヤム、パーランド、
 ルウクス Chamberland, Roux 氏)若クハ、日光(アーロアン Arloing 氏)ヲ以テ
 ス

バストール氏ハ二十四日間酸素ヲ通シ攝氏四十二度乃至四十三度ノ
 熱ヲ加ヘテ炭疽菌ヲ培養シ弱キ接種液(第一號液 Premier vaccin) 尋テ十
 二日間同一ノ温度ヲ以テ培養ヲ持續シ強キ接種液(第二號液 Second
 vaccin)ヲ製シ先ツ一號液ヲ注射シ十乃至十四日ノ後二號液ヲ接種ス
 バストール式ノ豫防接種法ハ歐洲各國ニ於テ數千頭ノ家畜ニ試驗セ
 ラレタリ而シテ其成績ハ區々一定セサルモ大略左ノ如シ

(一) 羊ノ豫防接種 バストール式豫防接種法ハ羊ニ於テ大ニ賞
 用スルヲ得ス何トナレハ免病力往々太タ弱ク長クトモ一年間存續ス
 ルニ過キナレハ年々反復接種スルヲ要ス加之接種後ノ死亡數間、過大
 ニシテ十乃至十五%ノ多キニ及ヒ且ツ接種液ノ強弱定ラス或時ハ強

キニ失シ或時ハ弱キニ失スト曰フ古弗氏曰クバストール接種液ハ使
 用前之ヲ試驗シ第一號液ハ驕ヲ殺スモもるもどヲ殺サス第二號液ハ
 驕并ニもるもどヲ殺スモ家兔ヲ殺サレハ則チ實用ニ適セリト近時
 佛甸ニ於テハ良結果ヲ得タルヲ以テ善良ノ接種液ヲ選ビ年々大害ヲ
 被ムル所ノ本病常存地方ニハ盛ニ此法ヲ施行ス

(二) 牛ノ豫防接種 實際價值アルヲ以テ大流行地ニハ之ヲ賞用
 ス免病力ハ各牛異同アルモ一年以上モ保續シ死亡率ハ極メテ低シ接
 種後ハ一時發熱シ輕易ノ全身症候ヲ呈ス然レトモバストールノ接種
 液ハ弱キニ失スルヲ以テシロー、ゾー及ペロンシトノ強液ヲ選用スヘ
 シ近時接種ノ術式大ニ改良ヒラレタルヲ以テ牛ノ常存炭疽ニ對シテ
 ハ價值アルノ法ナリ

(三) 馬ノ豫防接種 本邦ニ於テ明治十九年七月二十一日、ドクト
 ル「ヤンソン」及與倉學士氏等埼玉縣浦和ニ於テ五頭ノ馬ニバストール
 氏ノ豫防液ヲ接種シ其内一頭ニハ十立方仙迷ノ劇毒(馬ノ血液、膠ヲ注
 培養基等分)

入シ局處浮腫ノ他全身症候ヲ發セス能ク劇毒ニ抵抗シタルモ對照試驗馬ハ劇毒注入ノ夜斃レタリ他ノ四頭ハ七月二十三日ヨリ八月二十三日ニ至ルノ間流行地ニ移シ消毒セサル病厩舎ニ起臥セシメタルニ孰レモ傳染セザリシト曰フ(炭疽病接種試驗報告參照明治二十五年八月申時重學士ハバストール式ニ倣フテ接種液ヲ製シ埼玉縣北埼玉郡旆羅郡ニ於テ數十頭ノ馬匹ニ豫防接種ヲ試ミタリ
同三十年六月十三日時重小倉兩學士ハ埼玉縣北葛飾郡ニ出張シ三頭ノ馬匹ニ第一號液ヲ接種シ同月二十三日第二號液ヲ接種シ其内一頭ハ農科大學獸醫學科へ牽附ケシメ劇毒ヲ注入シ全ク免病セシコトヲ證明シタリ尋テ七月二十五日北埼玉郡ニ於テ三十五頭ノ馬匹ニ第一號液ヲ八月七日三十六頭ニ第二號液ヲ接種シ毫モ危險ナキヲ認メタリ(中央獸醫會雜誌第十輯卷九、十一明治三十年九月、十月、十一月發兌ヲ看ヨ)

各家畜ノ炭疽

第一 牛ノ炭疽

普通牛ニ發スルハ急性炭疽ニシテ外部ニ變狀ナキモノナリ

徵候

熱候頓發攝氏四十一度乃至四十二度ニ昇騰シ脈搏頻數細弱ニシテ一分時八十乃至百ヲ算シ頭部ノ粘膜ハ大ニ潮紅シ往々藍赤色ヲ呈ス結膜ハ間腫脹出血シ流涙ス皮温均一ナラス毛毳粗剛食思反芻共ニ廢絶倦怠衰弱精神痲鈍後體軟弱全身若クハ腹側震惕シ離群索居シ凝眸虛視ス這般ノ徵ハ皆重性腦症ヲ示ス或ハ昏瞶ノ徵ヲ呈セスシテ反テ狂亂ノ發作ヲ來シ頻々哮喘亂躍起シ他物ニ撞著ス或ハ呼吸ノ大困難ヲ來スモ理學的診法上肺ノ變狀ヲ認メス又胃症ナルモノアリ便秘、輕鼓脹、疝痛、下痢、下血等ヲ以テ序ヲ開ク尿ハ間血液ヲ含ミ(所謂孕牛ハ流産シ或ハ劇シキ陣痛ヲ發シ天然孔口膈、鼻孔、眼、血門陰門、ヨリ血ヲ混シタル液ヲ漏ス通常衰弱昏瞶大ニ加ハリ搖蕩ヲ發シ十二時乃至四十八

時間内ニ斃ル
 最急。性。炭。疽。ハ強壯ノ牛ニ於テ流行ノ初期ニ散發ス病牛ハ卒然頓死シ
 或ハ數時間腦卒中若クハ中毒ノ徵ヲ呈シテ斃ル但シ從來健全ノモノ
 意外ニモ一朝舎内ニ斃死セルヲ發見スルコトアリ
 次。急。性。炭。疽。ハ較稀ニシテ三日乃至七日若クハ其餘ニ互リ熱ニ弛張ア
 リ大ニ羸瘦ス
 炭疽癰ハ牛ニ獨發スルモノアリ或ハ急性若クハ次急性炭疽ノ經過中
 ニ發ス其部位ハ頭頸前胸肩腹陰囊乳房腋四肢等ナリ癰ハ箇々孤立シ
 或ハ限局シ或ハ稍散漫ス初期疼痛ヲ帶フルモ後ニハ無痛ニシテ藍赤
 色若クハ暗赤色ヲ帶ヒ之ヲ切開スレハ内容ノ硬度豚脂ノ如ク會テ化
 膿セズ輒モスレハ壞疽ニ陥リ深ク皮膚ヲ壞滅ス口粘膜ノ癰所謂舌疽
 (Zungen oder Gaumenthrox, Glossanthrax) ハ舌唇頰及軟口蓋ノ粘膜ニ大小
 不同ノ水泡及小結節ヲ發シ嚥下困難ニシテ大ニ流涎ス直腸粘膜ノ癰
 所謂腰出血 (Rückenblut, Lendenblut) ニ在テハ便通ニ當リ大ニ窘迫シ粘膜

ハ腫脹翻轉シ血液ヲ漏ス其原因ハ直腸検査ノ際其粘膜ヲ損傷スルニ
 在リ

類症鑑別 牛ニ於テ炭疽ト誤診セラレ易キ症ハ中毒、腦炎、腦卒中、肺
 卒中、熱射病、電擊、狂犬病、胃腸炎、白血病、口蹄疫及氣腫疽等ナリ經過急劇
 ニシテ間、觀察ノ暇ナキヲ以テ多クハ剖檢ノ後始メテ斷定スルヲ得炭
 疽菌ノ發見并ニ試験的接種ハ鑑定ノ指鍼ト爲スニ足ル氣腫疽トノ鑑
 別ハ該病ノ條下ニ於テ詳説スヘシ

第二 馬ノ炭疽

本邦ニ於テハ馬ノ炭疽ハ埼玉縣ニ頻發ス吾人ノ熟知スルモノハ明治
 十九年、二十三年及二十五年三回ノ大流行ナリ(地理ノ部ヲ看ヨ)
 歐羅巴ニ於テハ比較的稀ニシテ露領歐羅巴及亞細亞ノ泥沼沮洳地
 河ノ沿岸ニ流行ス故ニ西伯里亞馬疫ノ名アリ普通ノ原因ハ食物ト
 共ニ炭疽菌若クハ其芽胞ヲ攝取スルニ在リ蠅虻ノ刺螫亦屢傳染ノ媒

介トナル又病毒ノ附著セル馬具革具等ノ爲メ牛羊ヨリ馬ニ傳染スルコトアリ

從來無病ノ地方若クハ厩舎ニハ新タニ芻秣ノ購入ニ由リ病毒ヲ輸入スルコトアリ軍馬ニ發生スル炭疽ハ恐ラク此原因ニ由ルナラン

徵候 馬ノ普通症ハ急性及次急性ノ炭疽ニシテ其初兆ハ攝氏三十

九度五分乃至四十一度五分ノ傳染熱細數ノ脈搏一分時八十乃至百ニ

難寒戰筋肉震惕皮温不齊等ナリ頭部粘膜ハ藍赤色ヲ呈シ微シク黄色

ヲ帶フ間兩眼ヨリ流涙ス精神大ニ沈鬱シ眼光痴鈍無慾ニシテ迷曠セ

ルモノ、如ク行歩蹣跚タリ

或ハ之ニ反シ腦刺戟ノ徵ヲ呈シ腦炎ニ於ケルカ如ク不安興奮シ痙攣

ヲ發ス馬ノ炭疽ノ特徵ハ疝痛ニシテ往々既ニ病初ニ起ル肚痛ハ間劇

甚ニシテ血ヲ混シタル糞汁ヲ下痢シ罕ニハ嘔吐ス呼吸ハ牛ニ於ケル

カ如ク非常ニ促進ス

咽喉ニ癰腫アレハ咽喉部大ニ腫脹シ嚥下困難流涎呼吸困難若クハ窒

息ノ徵アリ衰弱次第ニ加ハリ六時乃至三十時間ノ後斃ル最急症ハ頗ル稀有ニシテ十五分乃至三十分内ニ卒死シ治癒スルモノハ極メテ罕ナリ

皮膚癰ハ胸腹ノ下面前肢後肢ノ内面陰囊陰門等ニ發シ後肢ニ生スレ

ハ跛行ヲ來ス經過ハ稍長ク二三日ニ互ル馬ノ舌疽ハ稀ナリ

弛張性炭疽 アルケ氏印度ノ馬匹ニ之ヲ創見シタリ蓋シ體温ハ一旦

昇騰スルモ復ヒ減降シ殆ト平温ニ復シ諸徵消散ス斯ノ如キ發作數日

ノ後再ヒ反復シ遂ニ虛脱シテ斃ル全般ノ經過頗ル人ノ間歇熱ニ類ス

第一發作後急ニ瘦削シ諸部ノ筋肉ニ麻痺ヲ繼發ス

類症鑑別 血斑病疝痛腦卒中肺浮腫敗血病ト誤診セラレ易シ人或

ハ血斑病ヲ以テ炭疽ノ一種ト看做ス者アルモ固ヨリ非ナリ何トナレ

ハ本病ニ在テハ血中ニ炭疽菌ナキノミナラス他ノ動物ニ接種スルモ

結果ナク且ツ傳染セサレハナリ

炭疽ヲ鑑定セント欲セハ每常必ス其病原菌ヲ檢出シ且ツ家兔羊等ニ

病毒ヲ接種スヘシ

第三 羊、山羊ノ炭疽

病性

従前出血。Blutsuche oder Blutschlag 又ハ黒脚病 Black quarter 等ト稱セラレタル疫病ハ炭疽ニ外ナラスシテ其原因ハ常ニ飲食物ト共ニ病毒ヲ攝取スルニ在リ蠅虻ノ刺螫剪刀ノ損傷亦傳染ヲ致スコトアルヘシ

症候

羊ニ最モ多キハ卒中性炭疽ニシテ病羊ハ卒倒シ痙攣ヲ發シ天然孔ヨリ黒血ヲ漏シ數分時ニ斃ル前夜異狀ナキモノ翌朝舍内若クハ牧場ニ斃死セルヲ認ムルコト少ナシトセヌ急性炭疽ハ半時乃至二時ニ互リ或ハ腦充血ノ狀ヲ呈シ不安興奮行歩踉蹌タリ或ハ肺充血ノ徵ヲ顯ハシ呼吸疾速脈搏頻數心悸亢進粘膜炎藍色ヲ帶ヒ天然孔ヨリ出血ス

次急性炭疽ハ稀有ニシテ往々腸炎ノ前兆ヲ呈ス則チ大ニ努責窘迫シ

頭ニ尾ヲ動ス難モ亦罕ニ頭頸下乳房ニ發ス

山羊ニ於ケル炭疽ノ經過ハ羊ニ同シ

類症鑑別

羊ノ炭疽ハ悪性水腫ト誤診セラレ易シハウプナルHaubner氏等ノ所謂羊丹毒又ハ飛蟻疽 Rohlauf, Feuer, fliegende Brand ハ炭疽ノ一種ニシテ後肢ニ嚙膿腫ヲ發スト曰フモ是レ實ハ悪性水腫ニ外ナラス

第四 豚ノ炭疽

豚ニ於テハ炭疽ノ確例甚ク少ナシ従前炭疽ト稱ヘタルモノハ豚疫ニ外ナラス近時ノ檢索ニ依レハ炭疽ハ豚ニ傳染シ難シ則チ豚ハ本病ニ對シ幾分ノ免病質ヲ有スルハ諸大家カ施セル接種試験ノ陰性結果ニ徴シテ知ルヘシ眞ノ炭疽ハ其流行地ニ發シ又豚カ炭疽病獸ノ肉ヲ喫フトキ咽頭口腔等ニ局發ス

症候

咽喉粘膜炎。炭疽。咽頭并ニ喉頭安魏那ノ徵ヲ呈ス則チ高